青鞜

4

大正二年四月一日發行（毎月一回一日發行） 第四號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜　四月號目次

櫻の園……（戯曲）……一……チエホフ　瀬沼夏葉譯

はかなき生……（短歌）……五四……三ヶ島葭

東　風……（小説）……六二……小笠原さだ

髪……（小説）……七二……松本正生

お冬さんの話……（小説）……九二……小林歌津

掌の上の戀ぶみ（短歌）……一〇〇……柴田かよ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

氣色ばむ時……(短歌)……一〇九……岡本かの
戀愛と結婚……(飜譯)……一一三……エレン、ケイ　らいてう譯
ホイットマン論(飜譯)……一二四……エリス　柳櫻譯
夜の女……(短歌)……一三三……原阿佐緒
超脫俗觀……一三八……上野葉
世の婦人達に……一五六……らいてう
この頃の感想……一六五……伊藤野枝
編輯室より……同人

青鞜社文藝研究會會員募集

科目及講師

一、哲學史、文明史、美術史……阿部次郎氏
一、社會學、美學、批評論……生田長江氏
一、近代思想史……安倍能成氏
一、刹那哲學……岩野泡鳴氏
一、近代劇之研究……伊庭孝氏
一、婦人問題之變遷……島村抱月氏
一、近代大陸文學之研究……馬場孤蝶氏
一、藝術論（詩歌、美術、建築、音樂）……石井柏亭氏
高村光太郎氏
一、外國語之研究
エマーソン……岩野泡鳴氏
ダンテ……阿部次郎氏
英文近代學（野上臼川氏編）……馬場孤蝶氏

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

△科目は撰擇隨意▽

□時日　四月七日(第一月曜日)午後六時開始

□會場　麹町區内幸町二丁目議員俱樂部内

□時間　毎日晝夜隔日(晝の部は午前中)

□會費　一ヶ月金壹圓(入會金別に壹圓)

□入會手續　住所姓名を明記し入會金壹圓を添へて至急青鞜社に御送り下さればよいのです。

□入會申込期日　四月七日迄

□會員　婦人なればどなたでも歡迎いたします

□入會申込所　本郷區駒込蓬萊町萬年山内

青鞜社事務所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲

櫻の園（四幕物）――チエホフ作――

第二幕

野の景色で。近い邊に、古い傾いた、もう疾うから詣する人もない小さい御堂がある。其側には井戸があり、又大きい石の、いつにか前には墓場の盤石だつたらしいのが轉つてゐて、彼方、此方に腰掛がある。ガーエフの邸に通ふ路が見える。又一方には、こんもりと繁つたトポリ樹のスーツと眞直な暗い木立。それにつゞいてがすぐ櫻の園で。遠くには電信柱が並んで見える。またずつと遠い〳〵地平線上には、天氣の晴れ渡つた日には、毎も明瞭と見える所の大きい都市がほんやりと浮き出してゐる。日はもう程なく暮れる頃。シャルロッタと、ヤシャと、ヅニャシャとが腰掛に掛けて、其傍にエピホードフが立つてギタラを彈いてゐる。皆は腰を掛けたまゝ考へ込んでゐる風。古い丸帽を被つたシャルロッタは、肩から銃を取外して、其の皮の紐の留金を直してゐる。

シャルロッタ。（考へながら。）私には本統の籍がないのだ、だから私は本統は何歳になるのだかよく解らない、自分ぢや何だか若い娘のやうな氣がするけれど。先に私がまだ幼少い時、お父樣とお母樣に連れられて、大市場に行つて、何か面白い見せ物の舞臺に出たのだつけ。さう私が空中を飛んで Salt moitale の輕業をやつて退けたのだつた。それか

らお父様もお母様も死去つて了つた時、ある獨逸の婦人が私を引取つて世話をして呉れて、學問をさせてくれたが、其中に私も成長して、憖う家庭敎師となりはしたが、さて私は一體何處の生れで、何者なのか、自分で知らない。誰が私の親だかも知らない、或は親達を本統の結婚をしたものぢやないかも知れない……さう、解らない。（彼は隱から胡瓜を出して嚙る。）ちつとも解らない。（間。）話をしたくも誰にも話す人はなし……誰も話相手が私にやない。

エピホードフ。（ギタラを彈きながら歌ふ。）『世の中は、騷がしとても我に何かは、友といひ仇といふも我に何かは。』あゝいゝですなあ、憖うマンドリンを彈くのは。

ヅニャシャ。これはギタラぢやありませんか、マンドリンぢやないわ。（懷中鏡を見ながら、白粉を顏に叩いてつける。）

エピホードフ。いや、戀故にまるで馬鹿になつてるものにはね、こりやマンドリンですよ……。（歌ふ。）

『我が胸をかたみの愛にたゞ温めよ』。

ヤシャも歌ふ。

シャルロッタ。何て歌ひやうだらう、この人達は……ふん！まるで山犬のやうだ。

ツニャシャ（ヤシャに）それでも何て仕合せかねえ、些とでも外國へ行つて來たのは。

ヤシャ。無論さ、有仰る通りさ。（欠をして葉卷を燻す。）

エピホードフ。さうですとも、外國ぢやもう疾うから皆、何でもすべてが整つてゐますからね。

ヤシャ。さうさ。

エピホードフ。私はその、人間から云ふと敎育はあり、隨分といろ〳〵結構な本も讀みましたがな、それでもどうも自分の望みの方針が解りません、生きてる方がいゝのか、それともピストルで遣つた方がいゝのか、ですがな、實の所は、私は恁うして平常ともにピストルを離さず懷中しておるのでね。そをれ……（ピストルを見せる。）

シャルロッタ。出來た、さあ行かう。（銃を肩に掛る。）ねえ、エピホードフ樣、貴方はねなか〳〵利口な方ですよ、さうして恐しいのねえ、なぜつて云へばね、女達は誰でも貴方に夢中になつて了ふでせうから。うゝゝ、（行く。）このお利口の人達つたら、何れも、是も皆恁麽馬鹿さ。本統に誰も話相手が無い……いつでもたつた一人だ、誰もない………で、私はこれから奈何しやうと云ふのか、それも解らない……（緩りさ歩みながら退場。）

エピホードフ。實を云ふと人樣のことは置いて、序ながらまあ自分のことを云ひますが、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は運命のその私に殘酷なることは、まるで暴風の小さい船を弄ぶるのと同然です、と云つたら、私のそれは間違かも知れませんが、然しそれぢや奈何でせう、今朝なんぞ目を覺しますと、まあ貴方ね、ひよつと見ると、私の胸の上に恐ろしい大きな蜘蛛がゐるぢやありませんか……こんな。（兩手で大きさを見せる。）それからね、またクワスを飮まうと思つて取ると、さあ、また其處にも、いやもう尤も氣味の惡い、まあその油蟲でさ、（間。）貴方はお讀みでしたかねボークルを。（間。）時にアウドチヤ・ヘオドロウナ樣、貴方は御迷惑でせうがな、些と一言申上げたいことがあるのですが。

ヅニヤシヤ。有仰いましな。

エピホードフ。いや、たゞその二人だけで、些とお話が願ひたいのだが。

ヅニヤシヤ。（困つたらしく。）さうですか……それぢやその前に、些と私のマントを持つて來て下さいな……戸棚の傍にありますの……此處は少し濕つぽいやうですから……。

エピホードフ。可う御座います……持つて來ませう……今私は初めて解つた、あゝこのピストルを奈何處分しやうかゞ……（ギタラを取つて彈きながら退場。）

ヤシヤ。二十二度の不幸！此處だけの話だけれど、馬鹿な奴さ。（欠をする。）

ヅニヤシヤ。どうぞピストルで遣りでもして呉れなけりや可いが。（間。）私は本統に此の節

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はものを苦にする、氣の小さいのになつて了つたの、幼少い時から此家へ御奉公に連れられて來て、今ぢやもうお百姓の暮しなんぞは、すつかり忘れて了ひましたわ、まあ御覽なさい、この手、這麽に白く、眞白で、令嬢のやうでせう、優しい、纖弱な、品のいゝね、で何でも怖がるの……その怖がりつたらないの。だから何よ、もしヤシャ樣、お前樣もね、私をひよつと欺かしでもしたら、何よ、それこそ私の神經は、まあ甚麽になることでせう。

ヤシャ○（彼女を接吻する。）丸ちやん！勿論娘は誰も自分のことを考へて見なければならないさ、そうして私は娘の身持の惡いの位癪に障ることはないよ。

ヅニャシャ○ よう、私は貴方を酷く愛すのよ、貴方は敎育のある人ですもの、ねえ、甚麽議論でもなさられますわね。（間。）

ヤシャ○ さう……… 私の考ぢや恁うだ、若し娘が誰かを愛したとすれば、即ち其奴はもう品行のよくない奴た。（間。）あゝ、いゝ氣持だなあ、這麽可い空氣の中で葉卷を吸ふのは………（耳を澄ます。）誰か此處へ來る……… 屹度主人達だらう………

ヅニャシャは行成彼を抱く。

ヤシャ○ 行きなさい早く家へ、河へ水を浴びに行つたやうにして、さあ早く彼方の道から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でないと出會して、何だか私がお前と逢曳でもしてゐるやうに彼の方々に思はれるから、那様ことは大嫌ひさ………

ヅニャシャ。(靜に咳をする。)私葉卷の臭で頭が痛んで來たわ………(退場。)

ヤシャは殘つて御堂のすぐ傍に掛けてゐる。リユボヒ・アンドレエウナさ、ガーエフさ、ロパーヒン登場。

ロパーヒン。確平と決心をなさらなければ可けません、時は待つちやゐませんからな、問題はちつとも難しくはないことなのです、土地を別莊にして了ふか了はんか、たゞそれだけのことです、返事をなさつて下さい、たゞ一言、可いとか、否けないとか、と、たゞ一言!

リユボヒ・アンドレエウナ。誰が此處煙草を吸つたのだらう、いやな〳〵葉卷を………(腰を掛ける。)

ガーエフ。どうも鐵道が引かれたので便利になつたね。(腰を掛ける。)汽車で市へ行つて、食事をして來られる………黃色を中央!俺は初めに些と家へ行つて、一勝負遣つて來やうか………

リユボヒ・アンドレエウナ。後でも可いわね。

ロパーヒン。たゞ一言!(願ふやうに。)どうか返事をして下さい!

ガーエフ。（欠伸をする。）何ね？

リュボヒ・アンドレエウナ。（自分の夾帶を見て。）昨日は擇山お金が有つたが、もう今日は甚麼に少なくなつて了つた。可哀さうな娘のワーリャは、あゝして一生懸命に經濟をして、牛乳のスープを皆に拵へたり、下の老僕共には豆ばかりをやつたりして、苦勞をしてゐるのに、私は徒らお金を捲き散らすの、まるで無分別のやうに………（夾帶を落す。金貨が四方に散らばる。）えゝ、散亂つちやつた………（殘念な樣子。）

ヤシャ。只今私が拾ひます。（錢を拾ふ。）

リュボヒ・アンドレエウナ。どうか拾つて頂戴ヤシャ。私全體何の爲に汽車でわざ〳〵食事なんかをしに行つたのでせう………音樂隊附の惡い料理店、卓掛がいやに石鹼の臭がして………さうして又リョニヤ（ガーエフを云ふ。）奈何して那麼に酒を飲むの？さうして又奈何して那麼に大食をするの？奈何して那麼に諄く喋るの？今日は料理店でそれは喋つたことゝ云つたら、都合の惡い所でさ、七十年代のことや、デカダンのことを、で誰に？、料理店の給仕にでせう、デカダンのことを！

ロパーヒン。左樣さ。

ガーエフ。（手を擦りながら。）俺は直らないよ、そりやもう解り切つてゐる………（忌々しさうにヤ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

シャに。）何を那様に人の眼先で彷徨のだ………

ヤシャ。（笑ふ。）貴方の聲を聞くと笑しくなります。

ガーエフ。（妹に。）彼が行かなけりや俺が行かう。

リュボヒ●アンドレエウナ。ぢやヤシャ行きなさい、彼方へお出で。

ヤシャ。（リュボヒ・アンドレエウナに夾帯を渡す。）只今参ります。（やうやくに笑を抑へて）只今直ぐ……

……（退場。）

ロバーヒン。貴方の御所有地を金滿家のデリガーフが買ひたがつてゐます。競買の日には自身で出掛けると云ふ評判です。

リュボヒ●アンドレエウナ。それは何處からお聞きでした。

ロバーヒン。市でさう云つてゐます。

ガーエフ。ヤコスラウの伯母樣が金を送るつて約束したが、併し何時なのだか、何程なのだか、それは解らんのだ………

ロバーヒン。何程送りませうか？　十萬圓或は二十萬圓？

リュボヒ●アンドレエウナ。なんの貴方、一萬圓が一萬五千圓でも有難いのだけれど。

ロバーヒン。まあ、失禮ながら、這麼考の無い、世間に疎い、御變人の方々は私はまだ見

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たことがありませんな。私這麼に明瞭と貴方々に申してるぢやありませんか、御所有地は競買されて了ふつて。併しながら貴方はまるで些ともお解りにならないかのやうだ。

リュボヒ●アントレエウナ。奈何したらいゝのでせう?、何卒お教へ下さい、貴方。

ロパーヒン。私は毎日お教へ申してるぢやありませんか、毎日〳〵たゞ私は一つことを、櫻の園と、こゝの土地を皆すつかり別莊の貸地にしなければならないつて云ふことを。もう今です、成べく、早く今しなければならないのです、競買の日はもう鼻の先に迫つて來て爲るのです!御覧なさい! だから早く確乎と御決心をなさい。若し別莊に爲さへすれば錢は幾干でも取れます、さうして其時初めて貴方々は救はれるのです。

リュボ●ヒアントレエウナ。だけどもねえ、避暑地だとか、避暑客だとかつて、何だかもう、私、醜汚やうでねえ。

ガーエフ。全くだ、お前の云ふ通りだね。

ロパーヒン。あゝ、もう私は男泣きに泣かうか、叫ばうか、眼を廻して倒れて了はうか、もう、もう奈何しても出來ない、あゝ、我慢が出來ません!それでは餘りです、貴方々はたゞ私を苦しめるのです!(ガーエフに。)貴方はまるで女のしくじりだ!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ガーエフ。何ね？
ロパーヒン。女のしくじりつてこと！（行かうとする。）
リュボヒ●アンドレエウナ。（突嗟して。）あれ可けませんよ、お出でになつちや、ねえ貴方。お願ひですから貴方。或は何かいゝ思案が付くかも知れませんわね！
ロパーヒン。何の思案がつくものですか！
リュボヒ●アンドレエウナ。まあどうか行つて了はないで下さい、まだそれでも貴方がおゐでだと愉快ですの………（間。）あゝ私今にも家が壞れて私等の頭の上へ落ち込んで來さうな氣がしますよ。
ガーエフ。（深く考込んで。）二番突で隅へ！接觸で中央だ！………
リュボヒ●アンドレエウナ。あゝ私等はほんとうに神様の前にはもう罪が多いのだから……
ロパーヒン。貴方に罪ですとね………
ガーエフ。（ドロップスを口に入れる。）人は云つてゐるんだ、俺は自分の殘らずの財產を、皆このドロップスに入れ揚げて了つたのだつてな………（笑ふ。）
リュボヒ●アンドレエウナ。あゝ私の罪………私はいつも、まあ氣でも違つたかのやうに、お金を費ひ散らして、其上に借金に首も廻らない人の所に嫁にいつてさ、それで夫はシ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ヤンパン酒の中毒で死ぬ、それは酷いお酒飲みなのだつたから。それから他の人と愛しあつて、一所になつたのが抑も不幸の始まりで、其時だつたその第一番のまづ罰として、私は頭を眞向から打割られた。それはあの河さ、彼處に私の息子は沈んで了つた。さうして私は外國へ後をも見ずに逃げ出しました。もうすつかり故郷へは歸らん覺悟で、もうこの眼でこの河を見ない爲にね……私は眼を潰してたゞ逃げ出したのでした。所が彼の男も私の後を追つて來て……まあ私をちつとも可哀さうとも思はないでね、さうして私は別莊をメントナの近處に買ひました。それといふのも、男が病み出しました爲で、そこで私は三年の間と云ふもの全く夜も、晝も、身體に休みは無かつたです。病人の爲に難儀をしてもう私の心は全く乾枯らびて了ひました。さうして去年でした、私又借金の爲にその別莊をも人手に渡して了つて、巴里の方へ轉居をしたのでした。所が男が私から皆金を取つて行つて、他の女と一所になつたのです、私はもう死んで了はうと思つて、毒をさへ飲んで見たのでした……本統に馬鹿です、お耻しい譯ですよ……さうして、急に私は露西亞の故郷へ、娘の所へ歸りたくなりました……（涙を拭ふ。）どうぞ、もうどうぞ神樣よ、私をお憐み下さつて罪をお赦し下さいまし！ どうぞもう私をこの上に罰しないで下さいまし！（懷から電報を取出して。）今日巴里からこれを受取つたが……

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

…自分の罪を詫びて、私に歸つてくれつて願つて寄越した………（電報を引裂く。）何處かで音樂があるやうね。（耳を澄す。）

ガーエフ。あれはこゝの有名な猶太人の音樂隊だ、そらね、覺えてゐるかい、あの四つのヴァイオリンと、横笛と、コントラバースのさ。

リュボヒ●アンドレエウナ。あゝあれがまだ遣つてゐるの、何時にか私の宅でも夜會をして、あれを招びたいものね。

ロバーヒン。（耳を澄す。）聞えない………（小聲で歌ふ。）『獨逸人たちや、金さへ出せば、よしや純粹のロシヤ人も、佛蘭西人にならせて了ふ………』（笑ふ。）昨日私は芝居で可笑しい歌を役者が歌ふのを聞いた。

リュボヒ●アンドレエウナ。屹度可笑しいことは無かつたのでせうよ、何も。貴方は役者を見るよりも、御自分の方が可うございますよ。貴方々のやうな灰色な生活をしてゐなさるものが、何を那樣に何う、恁うと人のことを有仰られるものですか。

ロバーヒン。それはさうです。正直に云ふと私等の生活は全く下らないのです………（間。）私の父は農民で、愚物で、何にも解らない人間で、私にも何も敎へもしないし。たゞ酒ばかり食つて、私を棒で毆打り付るのが能なのです。私とても矢張り下らん人間で、愚で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何にも取得がない奴です。手と云へば惡筆で、書いたものなんぞは、到底、羞しくて人の前には出されたものぢやないのです。まるで豚のやうですよ。

リュボヒ●アンドレエウナ。だが、もう貴方はお嫁さんをお貰ひにならなければなりますまい。

ロバーヒン。さうです……全くです。

リュボヒ●アンドレエウナ。私どものワーリャね、あの娘は本統にいゝ娘ですよ。

ロバーヒン。さうです。

リュボヒ●アンドレエウナ。彼女は詰らない所から私の家へ貰つたのですが、一日中よく働いてねえ、それに第一には、貴方を愛してゐることですよ。さうして貴方にも彼女がもう疾うから氣に入つてゐるのでせうし。

ロバーヒン。さうです、有仰る通りです……あの娘はいゝ娘だ。（間。）

ガーエフ。俺に銀行に勤務の口があるごき、年に六千圓ださうだがね……おい聞えたのかい……

リュボヒ●アンドレエウナ。何がお前樣にさ、まあ、掛けてゐらつしやいよ……

ヒルス外套を持つて登場。

ヒルス。（ガーエフに。）旦那樣、外套をお召しなさい、濕氣ますからの。
ガーエフ。（外套を着る。）蒼蠅いなあお前は。
ヒルス。なあによ……今朝はお前樣何んにも有仰らねえで、市へお爲でたゞね。（彼はガーエフを顧みながら云ふ。）
リュボヒ・アンドレエウナ。何てヒルス、お前も年を取つたのねえ。
ヒルス。何で御座りまするかえ？
ロパーヒン。お前は年をとつたとさ。
ヒルス。長く存命してゐますだからな、俺は嫁を貰はうと思ひました時にや、貴方樣のお父樣はまだお生れなさりもしなかつたゞからね………（笑ふ。）昔の農奴解放の御沙汰の有つた時分には、俺もうこゝの小使頭になつてゐましたゞ、だが俺其時にや、其の沙汰には服されねえだ、それで矢張當家に、昔のまんまにお使はれ申して頂いてゐたで………（間。）ねそれで皆樣が喜ばつしやつた、何でだか譯は解らずに、たゞ喜ばしやつたゞ。
ロパーヒン。さうさ、昔はよかつたよ、何しろ酷く毆つたものだからね。
ヒルス。（聞えないで。）さうさ、百姓は主人の側だつたし、御主人も百姓の側だつたからね、だが今はもう皆てんぐばらぐの有樣で、何のことだか譯は解らねえだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ガーエフ。馱りなヒルス。俺は明日市に行かなければならないんだ、ある大將に紹介をして貰ふ約束をしたのだ。詰り其の大將から金を手形で借りる意さ。

ロバーヒン。何が甘くさう行くものですか、到底利子なんぞは拂へやしませんから、御安心なさつてゐらつしやる方がいゝです。

リュボヒ●アンドレエウナ。何か寢言でも言つてるでせう、其麽大將が有るものですかね。

トロヒモフと、アーニャと、ワーリャ登場。

ガーエフ。あゝ皆が來た、來た。

アーニャ。お母樣がゐらつしやるわ。

リュボヒ●アンドレエウナ。(優しく。)お入で、お入で……さあお前方……(アーニャと、ワーリャを抱く。)お前達二人とも、若し、私が其麽にお前方を愛してゐるかゞ解つたらねえ、さあ、お掛け、此方へ並んでおゝさう〳〵(皆掛る。)

ロバーヒン。この永久の大學生君は、いつでも御令孃樣達と一所にばかりゐられますな。

トロヒモフ。貴方のお話にやなりません。

ロバーセン。もう直に五十歲になると云ふのにまだ大學生ですか。

トロヒモフ。もう澤山です、那樣冗談は。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ロバーヒン。何をこの御變人は腹を立てなさるのだ。

トロヒモフ。ぢや惡く調戲ひ給ふな。

ロバーヒン。(笑ふ。)それぢやどうぞ伺ひますがね、君は僕を奈何お召思されるのか?

トロヒモフ。君をかね、エルモライ●アレクセエヰチ樣、僕は恁う思ひますよ。君は金持で、もう直に百萬圓の身代でせう。それで恁うだ、物質變換の意味で、彼の道に出會す生物を何でも食ふ所の猛獸も、時に必要なる如く、君のやうな人間も矢張必要なのさ。

(皆笑ふ。)

ワーリャ。ペーチャ樣、それよりはあの星の話をなさいよ。

リュボヒ●アンドレエウナ。いゝえ、昨日の話の續をしませうよ。

トロヒモフ。何のことでした?

ガーエフ。傲慢な人間のことさ。

トロヒモフ。我々は昨日長いこと話をしたが、然し何等の結論も出來なかつたのでした。貴方の意味で云ふ所の傲慢の人間には、神秘的なあるものがあります。ひよつとしたら、貴方風の考へでは、それは正しいかも知れませんが、然し單純に、卒直に考へたならば其處に其麽傲慢があるのですか、人間が生理的に詰らなく出來たものであつて、此の非

常な多數に於て、人間が野蠻なものであり、無智なものであり、非常に不幸なものであるとするなら、その傲慢に於て意味があるでせうか、自分に餘り自惚れることは止す方がいゝのです。で、たゞ勞働をすべきのみです。

ガーエフ。何れにしても死ぬのだ。

トロヒモフ。さあ、其麼ものでせうな？ 死とは如何なるものでせう？ 若し人間に百の感覺があるとして、而して死によつてたゞ五つの著しい感覺だけが消滅するとしたらば、あとの九十五の感覺を殘るのでせう、詰り殘つて生きてゐませう。

リュボヒ・アンドレエウナ。何て貴方は利口でせう、ペーチャ樣！

ロパーヒン、（冷笑して。）恐ろしい利口もの！

トロヒモフ。人類は自分の力を益々完全にしつゝ進んでゐる。今日人類の爲に力の及ばない所のことは、何でも總て時が來れば、手の屆くものとなり、解り易いものとなるのです、たゞ然し勞働しなければならん、さうして正義を尋ねてゐるものに、有丈の力を盡して助けなければ可かんです。我々の露西亞では、今日の所、甚だ少數のもののみが働いてゐて、敎育ある社會の、僕の知つてゐる大多數は、大抵何にもしない、勞働には全く堪えない。自分を敎育ある社會の一人に任じてはゐるが、然し召使どもには、矢張りお前と

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

云つて呼棄てにし、農民等に對しては、禽獸の如くにあしらひ、學事にも勵ます、眞面目には何も讀まない、全く何もしてゐやあしない。學問のことはたゞ口で言ふばかりで、藝術上の知識と云つたら皆無に等しい。皆眞面目さうな、嚴重さうな顏をして、さも何か重大さうなことばかりを云つてゐる。哲學なんぞも說いてはゐるが、大多數は、百中の九十九までは、野蠻人のやうな生活をしてゐるのです。何か些としたことでも、直に拳を固めめ毆り合ふ。可厭な食物を食つて、不潔な、汚れた空氣の中に臥てし起ゐる。處に南京蟲や、烟や、濕氣や、不義……さうして我々が善良な說をするのは、たゞ自分を欺き、人を欺いてゐるのに過ぎん。よく人が云ふ所の養育院は何處にあるのですか、有るなら見せて頂きたい。何處に通俗圖書館がありますか。そのことはたゞ小說で讀むばかりで、實際には無いのです、有る所のものは唯不潔と、陋劣と、野蠻のみです………だから僕は餘り眞面目な顏付だの、眞面目な話を恐しくもあるし、大嫌です、寧ろ默して居るに若かずです。

ロパーヒン。私は恁うだ、朝は五時に起きて早くから日の暮まで働き通しです、それで金は有りますさ、自分のも他人(ひと)のも、さうして周圍(まはり)には其麽人間がゐますかを見てゐます。で、まあそう思ひますね、人は自分の周圍にゐる人間が、「何れ程、正直な、立派なもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が少ないかを知る爲には、是非少しでも勞働を始めて見るのが肝腎だとです、又時々寢られない時なんぞは、さう思ひますな、神よ汝は我々に、巨大な森林や、茫漠なる原野、深遠なる天涯を與へられた、さうして其處に我々人間が住んでゐるとしたならば、奈何しても人間そのものは、本統に云ふと、もつり巨大なものでなくてはならないと思ひますな。

リュボヒ●アンドレエウナ。そんな大男は貴方にだけ入用なのですよ、那樣人間は昔話にあるのならいゝですが、實際にあつたらたゞ人を嚇かすばかりでせうよ。

(舞臺の奥の方をエピホードフが歩いてギタラを彈く。)

リュボヒ●アンドレエウナ。(考へ込みながら。)エピホードフが行く。

アーニャ。(これも考へ込みながら。)エピホードフが行く………

ガーエフ。太陽がもう落ちたよ。皆樣。

トロヒモフ。左樣

ガーエフ。(小聲でさも詩でも歌ふやう。)おゝ美しき天然よ! 汝は永遠の光にて輝く美にして、然も平然たる我等が母と呼ぶ汝は、その中に生と、死とを結合せしめつゝある、汝は生かし、又破壞しつゝある………

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ワーリャ。（頼むやうに）叔父様よう！

アーニャ。叔父様又ね！

トロヒモフ。貴方にも、二番突で黄色が中央だ！　の方がいゝでせう。

ガーエフ。默らう、默らう。

（皆掛けたまゝ考へ込んでゐる。ひつそりとなる。たゞ時々ヒルスのごそ〳〵と何か小聲で呟くのが聞へるばかり。其時俄然遠くの方の、恰も空からでも鳴り響いたやうな強い音が　沈み込むやうに余波を引いて、悲しく響いた。）

リュボヒ・アンドレエウナ。何でせう？

ロパーヒン。解りまんなあ、何處か遠くの石炭坑で、樽を落したやうな音ですがな、何處かずつと遠くの。

ガーエフ。或は鳥かも知れない、何か蒼鷺のやうな

トロヒモフ。或は木菟か……

リュボヒ・アンドレエウナ。（身を顫はして。）何だか可厭な心持ちですよ。（間。）

ヒルス。悪いことの前に矢張那様ことがあつたい、梟が酷く啼いたり、サモワルが止めずに唸つたりね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ガーエフ。其魔惡いことの前にだ？

ヒルス。自由の御沙汰の出た前でさ。（間。）

リュボヒ・アンドエウレ。ナさ、あもう行きませう皆樣、日が暮れますから。（アーニャに。）おや、お前は眼に涙を溜めて奈何うしたの、えゝ、お前は？（彼女を抱く。）

アーニャ。お母樣、何でもありませんわ。

トロヒモフ。誰か通る。

匂い、古惚けた庇の附いた丸帽を被つて、外套を着た、道行く人が見える。彼は少し酒氣を帶びてゐる。

通行人、些とお伺ひ申したいのですが、此處から眞直に停車場へ來られませうか？

ガーエフ。行かれます、この路から恁うお出でなさい。

通行人。何とも有難う御座ります。（咳をしながら。）お天氣がよい鹽梅で御座ります……（詩を歌ふ。）『我が同胞よ……オルガ河に出でゝ聞け、誰が、洩す嘆の聲ぞ……』（ワーリャに。）お孃樣。何うぞ饑じくて居ります同胞に三十錢ばかりお恤み下さい……

（ワーリャは吃驚して叫ぶ。）

ロパーヒン。（腹立しげに。）こら、不體裁にも次第が有らう！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

リュボヒ●アンドレエウナ。（少し驚いた風で。）持つてゐらつしやい！！さあ、これを（鏡を夾袋から探す。）銀貨がない……ぢやいゝわ、金貨を上げやう……

通行人。何とも有難う存じまする！（退場。）

笑聲がする。

ワーリャ。（喫驚して。）私もう行きます……彼方へ私行きます……あゝお母樣、家の人達には食べるものもありませんよ、貴方は那麼人に金貨をお遣り遊ばして。

リュボヒ●アンドレエウナ。奈何しやうねえ、私は這麼馬鹿なことばかりして！家に行つたら私お前に、皆自分の持つてるお金を上げるよ。もし貴方、エルモライ●アレクセエヰチ樣、どうぞ私にもう少し金を貸して頂戴な！

ロパーヒン。はあ、可うござんす。

リュボヒ●アンドレエウナ。もう參りませう皆樣。さうしてねワーリャ、私達は此處でお前の緣談をすつかり取り極めましたよ。まづお目度たうよ。

ワーリャ。（涙を溜めて。）お母樣、さう云ふ御冗談は可けませんわ。

ロパーヒン。オフメリヤ樣、修道院に入らつしやい。

ガーエフ。俺は手が顫える、もう暫く玉突を遣らんからな。

ロパーヒン。オフメリヤ樣、ねえ、ニンファ樣、貴方の祈禱をなさる時に、私のこともお祈り下さい！

リュボヒ●アンドレエウナ。さあ參りませう皆樣、もう直に夕飯ですよ。

ロパーヒン。皆樣覺えてゐて下さい、八月の二十二日には、いよ〳〵櫻の園を賣渡されるのです、考へて下さいこのことを！　考へて下さい！

トロヒモフとアーニャとを殘して皆退場。

アーニャ。（笑つて。）何處の人だか有難う、ワーリャを喫驚さして下さつて、お蔭でやう〳〵私達はたゞ二人切になられました。

トロヒモフ。ワーリャ樣は我々がひよつと愛し合ふやうになりはしないかと、それを心配して、一日中我々の側から離れない。彼女には我々がもう戀愛以上に超然として居るものであると云ふ事が、自分の狹い頭では考へられんのさ。自由に、又幸福になる事を障げる所の種々な、詰らない、空なことを敢て意としないのが、これが我々の生活と、目的だ、ねえ、進みませう！　我々は遙か彼方に煌々として輝いてゐる明星に向つて邁進しませう。ねえ進みませう、退きますまい、アーニャ樣。

アーニャ。（手を拍つて。）本統に貴方は甘いわ、よく有仰いますわ。（間。）今日は此處は何て綺麗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なのでせう。

トロヒモフ。さうですね、天氣が非常に可いから。

アーニャ。ねえ、ペーチャ樣、貴方は私を奈何なさいましたの? 私はそれでもうこの、櫻の園を前のやうに好きではなくなつたの、前に私は其處にこゝが好きだつたのでせう。私露西亞に此處位、好い處はないと思つてゐましたわ。

トロヒモフ。全露西亞は我々の庭園です、土地は大きいし、美しいです。其上に立派な場所が澤山あります。(間。)考へて御覽なさい、アーニャ、樣貴方の祖父や、曾祖父、又總ての御先祖方は、生きた人間を所有物にしてゐた地主達でした、さうして庭の櫻の木の一本ごとから、一枚の葉ごとから、一の幹の間から、皆人が、詰り人の存在が貴方を睨んでゐるぢやありませんか、貴方には其聲々が聞えませんか……いや然し、これは恐しいです、貴方を庭は物凄いです、さうして晩や、夜更けてから、庭の中を通ると、木々の古い皮が、ぼんやりと光つてゐて、恰度、櫻の木々が、百年、二百年前に有つたことを夢に見てゐるかのやうです、恐ろしい何か幻影が櫻の木を惱ましてゐるかのやうです。何といはう! 我々は少くとも外國から見ると、二百年位は後れてゐるし、我々の中には未だ全く何もしたことはないし、過去と云ふものに對しての價値が定まらない。我々

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はたゞ哲學を考へて憂悶を訴へてゐる計りです。でなければウォッカを飲む計りです。それでね、現在の生活を初めるが爲には、先づ我々の過去を直して、さうしてこの過去をお終ひにして了はなければならん、と云ふのは、もう明白な理由ぢやありませんか、所が過去を直すことは苦悶を以てするより外はありますまい、非常な間斷なき勞働を以てするより外はないでせう。解りますか、えゝアーニャ樣。

アーニャ。今私等のゐる家は、もうずつと前から私等のものぢやないの、さうして私はもう此處から潔く出て了ふの、屹度なのよ。

トロヒモフ。若し貴方の所に主婦の鍵があつたら、那樣ものは井戸の中へ放り込んで出てゐらつしやい。さうして全く風のやうに自由におなりなさい。

アーニャ。(感心して。)何て貴方はよく有仰るわねえ！

トロヒモフ。信じなさいよ僕を、アーニャ樣！ 僕はまだ三十歳にはならん學生ではあるが、然しもう何れ程の苦勞を嘗めたでせう。よく冬には饑餓に迫つたり、病氣を爲たり、或時は心配をしたり、或時には乞食のやうに貧乏をしたこともあるのです。まあ、僕が境遇の爲に追はれて、何處など行かなかつた所がありますか。だけれどね、何時でも、其麽時でも、晝でも、夜でも、何か恁う說明することの出來ないやうな、それは快よい

未來を感じてゐました。幸福の豫感がありました。アーニャ様、僕は何んだかそれが見えるよ……

アーニャ。（考へ込みながら。）月が出ました。

前のやうにエピホードフの彈くギタラの悲しい歌の調が聞こえる。月が出るトポリ樹の邊でワーリャがアーニャを探しながら呼ぶ聲がする。「アーニャ！お前は何處！」

トロヒモフ。おゝ成程月が出ましたね、（間。）幸福は來ます、だんだんに近く、だんだんに近く、もうその跫音を僕は聞きます。然し若しもその幸福がひよつとして來なかつたら、それを見なかつたら、それでも別に不幸でもないです。他人がその幸福を見るでせう！

ワーリャの聲。アーニャ！　何處お前は！

トロヒモフ。またあのワーリャ様が！（腹立しげに。）えゝ厄介な人だ！

アーニャ。ねえ些と、河の方へ行きませうか、彼處はいゝのよ。

トロヒモフ。行きませう。（行く。）

ワーリャの聲。アーニャ！　アーニャ！

――幕――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第三幕

廣間から穹窿（アーチ）にて別けられた客間。吊洋燈（つりランプ）が點つてゐる。入口の間からは、第二幕目にあつた、例の猶太人の音樂隊の合奏が聞える。時は夜で廣間では舞踏をしてゐる。grand rond シミヨノフ・ピシチクの聲 "Promenade à une pair" 客間に出て來る第一の組は、ピシチクとシャルロッタ・イワノウナ。第二はトロヒモフとリュボヒ・アンドレエウナ。第三はアーニャと郵便局員。第四はワーリャと驛長。其他。ワーリャは泣いて、踊りながら涙を拭いてゐる。最後の組がヅニャシャであつた。皆客間を通る。ピシチクは叫んだ。"Grand rond, balancez!" さうして又叫んだ。"Les cavaliers à genau et remerciez vos dames!" ヒルスは炭酸水の壜を盃に載せて、舞臺を通り過ぎた。

ピシチクとトロヒモフとは、客間に出て來た。

ピシチク。俺（わし）は多血質で、もう二度も卒倒したのだから、踊るのは骨が折れるよ。だがまあ、犬の群れに入（はい）りや、啼いても啼かないでも、後尾だけは振れだからね、健康（たつしや）なことは俺はまるで馬さ。俺の死んだ親父がさあ、これがまた滑稽漢（おどけもの）でね、俺等（わしら）が出生について恁う云つてゐましたよ。俺等のシミヨノフ●ピシチク家は、ずつと昔、あるカリグーラ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

帝が、元老院の椅子は座らしたと云ふ所のその馬の、それから出た苗字だと云ふことで…………（腰を掛けながら。）然しどうも錢のないのには閉口だ！ 此方人等(こちとら)はもう、饑(かつ)えた犬の肉塊に對するばかりの信仰でね…………（鼾をかいてゐるかと思ふと直ぐに眼を覺ます。）それで其の、俺はね……俺の出來ることはたゞ錢の………

トロヒモフ。貴方の樣子にや、實際何處か馬のやうな所がある。

ピシチク。それが何さ、馬は結構な動物ぢやないか…………馬は賣ることも出來ますぞ………

（隣の室から玉突をしてゐる音が聞える。廣間の穹窿(アーチ)の下にワーリャが見える。）

トロヒモフ。（揶揄ふ。）ロパーヒン夫人！ ロパーヒン夫人！

ワーリャ。（怒つて。）店晒(たなざら)しの若旦那！

トロヒモフ。さう店晒しの若旦那さ、僕あそれをもつて自慢をしてゐるのだ！

ワーリャ。（苦しい思案にくれて。）這麼に音樂隊なんぞを招んで、どうしてお金を拂ふのだらう？

（退場。）

トロヒモフ。（ピシチクに。）若し貴方は、貴方の一生涯の間に、利足を拂ふ爲に、錢(ぜに)の工面に費したその精力を、何か他のことに用ひたならば、終(しまひ)にはもう地球をでも轉覆(ひつくりかへ)させることが出來たでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ピシチク。ニーチェ……哲學者……偉大なる、有名なる……大した智力の人間だが、其の著者中に紙幣の贋造が出來るものだと云つてゐるさうだね。

トロヒモフ。貴方はニーチェを讀みましたか？

ピシチク。うむ……俺にダーシェンカが云つたのさ、今私の狀態ぢや、贋造紙幣でも遣つて見たい位だ……明後日三百拾圓拂はなけりやならないが……百參拾圓だけはやう〳〵工面をした……（心配さうに隱を抓んで見る。）や、錢が無くなつた！ 落こしたかな錢を！（淚を溜める。）何處へ遣つたらう？（嬉しさうに。）有つた、有つた、有難い。着物の裏の方にもぐつてゐたよ……あゝ、汗を搔いちまつた……

リュボヒ・アンドレエウナとシャルロッタ登場。

リュボヒ・アンドレエウナ。（レズギンカを歌ふ。）奈何して恁う遲いのかねえ、兄樣は、何を町でしてゐるのだらう？（ツニャシャ。）音樂隊にお茶をお出しよ……

トロヒモフ。競賣が成立たなかつたのかも知れませんなあ。

リュボヒ・アンドレエウナ。音樂隊が生憎の時に來たものさ、また私等の催しも生憎の時だつたのさ……でもいゝわね……（腰を掛けて靜に歌ふ。）

シャルロッタ。（ピシチクに骨牌の一組を渡して。）さあ、この骨牌を貴方に渡しますからね、何れ

かを一つ覺えてゐらつしやいましよ。

ピシチク。可しい。

シャルロッタ。さうしたらね、態う骨牌をお切りなさい。さう〳〵結構、それぢや此處へ頂戴。おゝ可うござんすかピシチクさん。

さあ、只今貴方の横の隱を探して御覽なさい………

ピシチク。（横の隱からカルタを取出す。）スペートの八、うむ、全くさうだ（驚く。）奈何ですな、へえゝ。

シャルロッタ。（骨牌を掌に置いてトロヒモフに。）甚麽骨牌が上にあるか、早くお當てなさい。

トロヒモフ。何でり？　まあそれぢやスペートの女王だ。

シャルロッタ。よろしい。（ピシチクに。）ぢや此度貴方？　甚麽骨牌が上です？

ピシチク。ハートの一だ。

シャルロッタ。可しい！………掌をポンと打つと骨牌は消えて了ふ。）何と今日は好いお天氣でせう！（彼女の聲に應じて、何處ともなく、床の下からでもするやうな不思議な女の聲が答へる。「さやうです、お天氣がどうもよい鹽梅ですわ、貴方。」貴方は私の理想の人ですよ。（聲。「貴方は私に氣に入りました。」）

驛長。（拍手する。）女魔術師！　ヒヤ〳〵！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ビシチク。（驚いて。）奈何ですな、へゝえ。素晴しいシャルロッタ・イワノウナ様だ………俺はすつかり惚れ込んぢまつた。

シャルロッタ・イワノウナ。惚れてお了ひだつて？（肩を縮める。）貴方にまあ惚れることがお出來なさるの？ Guter Mensch, aber schlechter Musikant.

トロヒモフ。（ビシチクの肩を叩く。）えゝおい、この馬さん………

シャルロッタ。さあ、もう一つ遣りますから何分御注意。（椅子から毛布を取つて。）さあ、この上等な毛布を御覽なさい、私はこれを賣ります………（毛布を振る。）誰かお望みのお方はありませんか？　さあ、お求めになる方は？

ビシチク。（驚く。）奈何ですな、へえゝ！

シャルロッタ。Ein, zwei, drei!（手早く下に垂れてゐた毛布を引上げると、その陰にアーニャが立つてゐて、皆に鄭寧に禮をする。ざうして母の傍に走り寄つて、彼女を抱き、皆の呆氣に取られてゐる間に、又急いで後の廣間に駈け入つた。）

リュボビ・アンドレエウナ。（拍手する。）ヒヤ／＼………

シャルロッタ。次にもう一度。Ein, zwei, drei!

（毛布を引上げると、その陰にワーリャが立つて皆に禮をする。）

ピシチク。（驚く。）奈何ですな、へゝえ！

シャルロッタ。今日は是切り！（毛布をピシチクに投げ付けて敬禮をし、廣間に逃る。）

ピシチク。（後を追ひかける。）これは怪しからん！何といふのです！何といふのです！（退場。）

リュボヒ●アンドレエウナ。時に兄はまだ歸らないが、何を町でしてゐるのだらう、恁麼に長く、譯が解らない。もう極つて了つたのだらうか、この所有地は賣られて了つたらうか、それとも競賣が成立たなかつたのかしら、何の譯でかうまあいつまでも、譯が解らずに長引くのかしら。

ワーリャ。（母を慰めやうとして。）叔父様が屹度お買ひになりましたよ、私さうだと思ひますわ。

トロヒモフ。（冷笑的に。）さうでせう。

ワーリャ。大叔母様があゝしてそのお名で、借財を書換へにして、この土地を買ふやうにつて叔父様に委任狀をお送りになりましたの、ですものでこりやアーニャの爲になので。ですが私屹度さうだと思ひます、神様のお助力で叔父様がお買ひになつたに違ひないのです。

リュボヒ●アンドレエウナ。ヤロスラウの大叔母様は、御自分の名で買ふやうにつて、たゞ壹萬五千圓だけ送つて寄越したのさ。だがね、それはどうもしつかりと信用は出來ない

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

よ此の位のお金では到底利子だけ拂ふにも足りないたらうと私は思ふの、（手で顔を掩ふ。）
あゝ、いよ〳〵今日だ、私の運命も極るのだ……
トロヒモフ。（ワーリャを揶揄ふ。）ロパーヒン夫人！
ワーリャ。（怒る。）永久の大學生！　もう二度も大學から退校の命令を頂戴した癖に。
リュボヒ●アンドレエウナ。ワーリャ、何をお前は那樣に怒るの？　たゞこの人はね、ロパーヒン樣を引出してお前を揶揄ふのだよ、それが何さ？　若し行きたけりやロパーヒン樣に嫁くさ、いやならお出でないのさ、そりやお前の心次第よ、誰も無理にはしやしないのだからね……
ワーリャ。私はこの事を眞面目に考へますの、お母樣、ねえ、私正直に云ひますけれど、そりや彼の人は可い人ですは、私には氣に入つて居ります。
リュボヒ●アンドレエウナ。それぢやお出でよ、何を其上に待つのさ、私には解らないねえ。
ワーリャ。だつてお母樣、まさか私自身で彼の方へ結婚の申込みも出來ないぢや御座いませんか。もう恁うして二年の間も人が皆いろ〳〵なことを云つてるですけれど、彼の人は默つてゐますもの、でなければ冗談を云つてゐますわ。ですけれど、それは私だつて知つてはゐますの、彼の方はお金は出來て行く計り、要事は多くなる計りで、多忙の體な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のですから、私どころの騒ぢやないんです。あゝ私も少しでもお金があつたら、たとへ百圓でもいゝのです、さうすれば私はすぐに修道院に行つて了ふんですけれど。

トロヒモフ。高尚な、立派なことですな！

ワーリャ。（トロヒモフに。）大學生なんてものは、もう少し利口にお成りでなけりや可けませんわ！（急に調子を變へて、涙を溢しながら。）何て貴方は容貌が落ちたのでせうペーチャ樣、本統に老けて了つて！（彼女はもう泣かないで、リュボヒ・アンドレエウナに）たゞ私ね、お母樣、何にもしないぢやゐられないの、些との間でも何かしなければ、

ヤシャ登場。

ヤシャ。（やうやく笑を抑へて。）エピホードフが玉突の棒を折つて了ひましたが！……（退場。）

ワーリャ。何でエピホードフが這麽所へ？　誰が彼に玉を突くのなんぞを許したの？　本統に此の人達程、仕樣がない、譯の解らない人間はない……（退場。）

リュボヒ・アンドレエウナ。あの娘を揶揄はないで下さいよペーチャ樣。貴方にもお解りでせうにね、彼女はさうでなくつても、悲しがつてゐるのですから。

トロヒモフ。然し彼の人は、よくどうも自分のことでもないことに、那云ふに身を入れられるものですなあ、夏中まるで僕にも、アーニャ樣にも邪魔を爲通しましたよ、何か我々

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に小説が出來でもしやしないかとです、何の彼の女の知つたことですか？ 其上僕は那樣やうすでも見せやしないのです、那樣汚らはしいことになんぞは、僕、全然無關係なのです、我々は戀愛以上に超然たるものなんです！

リユボヒ●アンドレエウナ。私なんぞは其の戀愛の吃度以下なのでせう。（酷く心配の樣子。）奈何して兄は歸らないのでせうね、たゞ知るだけでもいゝのだが、土地が賣られたのか、賣られなかつたか？ 然しこのことが餘りな不幸に思はれるので、奈何考へて可いか私には解らない、本統に途方に暮れて了ふ。あゝ、私は大聲で叫びたい、何か馬鹿な眞似でもして見やうか。よう私を救つて下さい、ようペーチャ樣、何とか云つて下さいよ、何とかさ………

トロヒモフ。今日この御所有地が賣られたとしても、或は賣れんとしても、然しそりや奈何でもいゝぢやありませんか、舊よりもう極は付いてゐるのですもの、後へ戻しやうはないのです。道が塞がつてゐるのですから。まあ、落着いてお出でになる方がいゝですよ。自分をいろ／＼に紛らしてゐないで、さうして一生に一度でもいゝですから、事實を眞正面に御覧なさい。

リユボヒ●アンドレエウナ。甚麽事實？ 貴方にはどれが事實で、どれが事實でないか、お

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

解りなのでせうが、私はまるで眼が眩んで了つて何にも見えませんよ。貴方は勇氣に甚麼重い問題でもずん〳〵解決なさつて了ひますが、然しねえ、それと云ふのも貴方がお若いからと、また、貴方がまだ御自分の一つの問題についても、苦勞と云ふものをしたことがないのと、その譯からぢやないのでせうか。貴方はまた前途を些とも恐れないで見てゐなさるけれど、これも詰り貴方の若い眼からは、未だ本統の生活と云ふものが隱れてるから、それで貴方には何も恐ろしいことが見えもしないし、期してもゐなさらないのでせうさ。全體貴方は我々よりは勇氣でもあり、正しくもあり、考へ深くもあるんですよ。ですからね、もつとよく考へて、寛大になつて下さい。たとへ指の先程でもいゝから、まあ私を可哀さうに思つて下さい。ねえ、私は此處で生れたのぢやありませんか私の父も母も祖父も皆此處で生活したのです、私は此の家を愛しますよ、私の爲にはこの櫻の園を措いて、他に生活はありません、ありません、さうして那樣に奈何しても此處を賣らなければならないのなら、どうぞさあ、私もこの櫻の園と一所に、賣つて了つて下さいよ………（トロヒモフを抱いて彼の額に接吻する。）あゝ私の息子が此處で沈んで死んだのぢやありませんか………（泣く。）可哀さうと私を思召して下さい、よ、よ、貴方よ。

トロヒモフ。貴方は御存じでせう、僕、心から貴方に同情を致してゐるですよ。

リュボヒ●アンドレエウナ。然しさうなら貴方はね、もつと他に有仰り方があつたでせうに……（手巾を取出す拍子に床に電報を落す。）私は今日は本統に苦しいの、心が、貴方は想像なさることは出來ますまい。此處は騷々しくつて、氣がはらはらして、音のする度に私は顫え上るの、體中がね顫え上るの、さうかと云つて自分の室には矢張り入れませんの、一人でひつそりとなるのが、恐ろしいやうでしてね。ねいペーチャ樣、貴方は私をお責めなさいますなよ……私は貴方を愛してゐますの、本統に自分の身寄のやうに、だから私は喜んで私の娘のアーニャを貴方に差上げますよ、上げますとも、私は誓ひますよ。だけどもね、ようペーチャ樣、學校だけはおしなさいよ、大學は終らなけりや可けませんよ。貴方は何もしないでゐらしつて、たゞ運命のまゝに彼方へでも此方へでも身を寄せてゐなさるの、そりや隨分變ぢやありませんか……え、さうぢやないの？　えゝ？さうして又この鬚もさ、もうちつと何とかねえ、よくなるやうに世話をしなけりやならないでせう、えゝ……（笑ふ。）笑しい人、貴方はさ！

トロヒモフ。電報を拾ひながら、僕あ男振りなんか好くはなりたかありませんよ。

リュボヒ●アンドレエウナ。こりや巴里からの電報でね、もう毎日、昨日も、今日も態うしてよこすのでしてね、あの、その厄介な人間がさ、病氣をしてゐるのだつて、また具合

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が惡いのだつてことなの……さうして彼の人は詫びてよこすんですのさ、でね、どうぞ巴里へ歸つて吳れいつてえの、で私も實は些となり巴里へ行つて見て來てやらうかと思ふのです、少しの間でも傍にゐてやらうかとね、おやペーチャ樣、まあ、那樣怖い顏をなさつてさ、だつて貴方奈何しましやう、ねえ貴方、私奈何したらいゝんでせう、彼は病氣ぢやありませんか、たつた一人ぢやありませんか、不幸なんぢやありませんか、で、誰が彼方で見てやりてがあるのでせう、で、誰が彼を何かの過失のある時に止めてやるでせう、誰がまた其の時々に藥をやつて吳れるでせう。えゝ、何の貴方もうこの場合、私は默つてゐたり、隱して見たりなんかはしやしませんよ、私は彼を愛しますよ、そりや解り切つたことですのさ、愛しますよ、本統に愛すんです……これは私の頸に懸つてる石なのです、私はこの石と一所に底までも深く沈みながらゐるのですが、然しこの石を私は愛しますよ。あゝ、私、彼の人がなければ生きちやゐられません。（トロヒモフの手を握る。）惡く思はないで下さい、ねえペーチャさん、もう〳〵何にもどうぞ有仰らないで頂戴！　もう何も、何も……

トロヒモフ。（涙を溜めて。）僕にどうか打明けて云はして下さい。あの人間は貴方をどうしたのです、皆貴方を剝いで了つたのぢやありませんか！

リユボヒ●アンドレエウナ。いゝえ、いゝえ、いゝえ、那樣(そんな)に有仰らないで下さいよ………(耳を塞ぐ。)

トロヒモフ。那麼(あんな)卑劣な男、たゞそれを貴方ばかりが御存じがないのです。薄つぺらな、卑劣な、三文の價値(ねうち)もない奴です。

リユボヒ●アンドレエウナ。(怒りを抑へて。)貴方は二十六か、二十七か、でもまあ、まるで中學の二年生ですよ！

トロヒモフ。構ひません！

リユボヒ●アンドレエウナ。もう男一人前にならなけりや可けませんよ、貴方の年ぢや、愛し合つてゐる人間達の心を汲まれなけりやなりませんわ。さうして自分でも戀と云ふものゝ味を味はつて御覽なさい！………惚れて御覽なさい！(怒つて。)えゝさうですよ、さうですとも！　さうして貴方だつて潔白なんてあるものですか、たゞ潔白がつてゐるばかしさ、笑しいお變人よ、不具(かたわ)！………

トロヒモフ。(呆氣に取られて。)この人は何を云つてゐるんだ！

リユボヒアンドレエウナ。『僕は戀愛以上だ！』ですか、然しね那樣(そんな)ことがあるものですか、貴方なんぞは、まあ私共のヒルスの言ひ草ぢやないが『出來損ひ』位なものさ、貴方の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でゐて女を一つ有つことが出來ないなんて！……

トロヒモフ。（憫れ返つて。）こりや驚いた！　何を此の人は云ひ出したのか?!　（頭を抑へて廣間の方へ急いで駈出した。）こりや驚いた！　えゝ馬鹿な、歸らう、歸らう。（引込んだが、直ぐまた出て來る。）もう我々のお交際は是切りです！（玄關の方に退場。）

リュボヒ●アンドレエウナ。（後から叫ぶ。）ペーチャ樣、お待ちなさいよ！　笑しい人ゝ　私は冗談を云つたのですよ！　ペーチャ樣！

玄關の階段を誰か迅速に降りる音、つゞいて何か急に下に落ちたやうな酷い響、アーニャとワーリャの叫聲。

また直ぐに笑聲がする。

リュボヒ●アンドレエウナ。　おや余何したのだらう？

アーニャが駈けて出て來る。

アーニャ。（笑ひながら。）ペーチャ樣がね、階段から落ちましたの！（又駈けて行く。）

リュボヒ●アンドレエウナ。何と云ふ變人だらう、あのペーチャ樣たら……

驛長は廣間の眞中に立つて、アレクセイ・トルストイの作の「罪女」を讀んだ。皆聽く。まだ僅か二三行讀むか讀まぬ中に、ワリスの音樂は玄關の方から起つたので、朗讀は中止せられた、トロヒモフ、アーニャ、ワーリャ、リュボヒ・アンドレエウナ皆玄關の方から踊りながら出て來る。

リュボヒ●アンドレエウナ。ペーチャ樣、潔白いお方……私は謝しますよ……だから、さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あ、踊の相手にゐらつしやい………（ペーチャと踊る。）

アーニャとワーリャは踊る。

ヒルス登場。杖を横手の戸の傍に置く。

ヤシャも客間を出て來て舞踏を見てゐる。

ヤシャ。老爺さん奈何だね？

ヒルス。具合が惡いだ。前にや御當家の夜會と云へば、大將方や、男爵方、海軍の將校方がお出でになつて舞踊をされたものだつたが、今ぢや郵便局のお役人だあ、驛長さんだあなんぞを、御招待するだ、そんでも碌に喜んぢや來さつしやらねえだ。何だか體の具合がよくねえ、無くなつしやた大旦那は、何の病氣にでも、封蠟を使はれただが、俺も毎日これ飲んで、もう足掛二十年、いやもつとになるだらう、この封蠟飲んでゐたゞ、其爲だらう、恁うして長らく生きてるちうのは。

ヤシャ。いゝよ、もう可加減で老爺さん。（欠をする。）いつそのことに、もうくたばりや可いんだ。

ヒルス。えゝこの野郎………出來損ひ！（ごと〳〵と云ふ。）

トロヒモフとリュボフ・アンドレエヴナとは廣間から客間に踊りながら入つて來る。

リュボヒ●アンドレエウナ。有難う、私少し休息みますよ………（腰を掛ける。）疲れた………

アーニャ登場。

アーニャ。（息を切らして。）今ね臺所へ何所かの人が來てね、櫻の園は今日賣らたつて云つて行きましたさうよ。

リュボヒ●アンドレエウナ、え、誰に賣られたつて？

アーニャ。誰とも云はないの、もう行つて了ひましたわ。

トロヒモフと組んで踊りながら廣間の方に去る。

ヤシャ。それは彼方へ何處のか爺が來て云つたのです、知らない他の人間がです。

ヒルス。レオニード●アンドンエキチ樣はまたお歸でねえが、外套の薄いので出掛けさつしやたがの、惡くするご風邪引きなさるべえよ。え〻、まだお若けえからのう。

リュボヒ●アンドレエウナ。私はもう死んで了ひさうだよ、ようヤシャ、お前は行つて聞いて來てお呉れ、誰に賣られたのだか、ようお前。

ヤシャ。もう疾うに行つて了ひましたのです、其の爺さんは。（笑ふ。）

リュボヒ●アンドレエウナ。（少し懊惱して。）何が笑しいのお前はさ？何がそんなに嬉いのさ？

ヤシャ。エピホードフが笑しくて堪りませんのです、餘り馬鹿げて居ります人間で、二十二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

度の不幸！

リュボヒ●アンドレエウナ。ヒルスや、若し此處がいよ〳〵賣られて了つたら、其時はねえお前さんは何處へ行く意りかえ？

ヒルス。はい、何處へなと、仰の通りの處へ參りますだよ。

リュボヒ●アンドレエウナ。奈何かしたのかい お前の顏色が惡いよ、お前さん病氣ぢやないの、もう寢に行つたらどうなの。

ヒルス。はい………（少し冷笑して。）俺が寢に行きますりや、食事を出したり、差圖を致しましたり、誰れも致手が御座りましねえ、家中で俺たゞ一人だでね。

ヤシヤ。えゝもし奧樣、どうぞ少々お願が御座りまするが、お聽入れ下さいまし。えゝもし奧樣にはまた巴里へお越しになられますなら、是非どうぞ私をお召れ連れ下さいまし、是非どうぞ。私此處に殘りますのは、誠に何ですが到底も遣り切れません。（後を顧みて小聲に。）何を云ふにも貴方樣も御存じの通りで、這麽開けない國で、人には德義がなく、それのみならず退屈で、臺所ぢや酷い食物ですし、其上にあのヒルス爺さんが、彼方此方をまご〳〵してからに、いろ〳〵面倒臭いことを申したり致しまして、どうもその。是非どうぞ、私にお伴を仰せ下さいますやうに。

ピシチク登場。

ピシチク。どうぞ一つ貴方に願ひま……さあ、ワリスの踊手さん、お美しいお方……（リユボヒ・アントレエウナは彼と共に行く。）奥様、所で俺に百八拾圓だけ御都合をして下さい……是非どうぞ。（踊る。）百八拾圓……（廣間に入る。）

ヤシヤ。（靜に歌ふ。）『我が胸のかく動悸くを汝れは知らずや』……

廣間で誰か鼠色の山高を被り、格子縞のズボンを穿いて、手を振りながら飛んだり跳ねたりしてゐる。叫聲。「ヒャ〳〵シヤルロツタ・イワノツナ。」

ヅニヤシヤ。（白粉をつけやうとして立留る。）お孃樣が、殿方より御婦人方が少ないから私にも踊るやうにつてお言付けだつたのだが、私は踊るので眼が廻つて胸が悸々するわ。ねえ、ヒルス●ニコラエヰチさん、今ね、私にあの郵便局のお役人さんがね、もうそりや私息が止つて了ひさうなことを云つたの。

音樂は止みかゝつてゐる。

ヒルス。何を云つたゝい？

ヅニヤシヤ。貴方は花のやうだつて、さう云つたのよ。

ヤシヤ。（欠をする。）下らねえ……（退場。）

ヅニャシャ。花のやうだつて………私ほんとうに優しいわね、で、那樣言をきくのがもう大好きなの。

ヒルス。お前、どうで放縱ねえものになつちまうだあ。

エピホードフ登場。

エピホードフ。アウドチヤ●ヘオドロウナさん、貴方は私を見るのを嫌つておゐでゞすな、何か私がかう、その虫けらでゞもあるやうに。(溜息をする。)あゝ、生活か!

ヅニャシャ。何の御用?

コピホードフ。疑もなく、えゝ或は貴方は眞實かも知れませんな(溜息をする。)然し勿論、若し見地より見れば、さうすると貴方は、うむ、どうぞ、まあ御免下さい、どうぞ打明けて申さして下さい。で全く貴方はその私を精神狀態に至らしめたのです。私は自分の運を知つてゐます、毎日もう私には何かしら不幸が續發致すのですか、私も、もう慣れて微笑をさへ致して自分の運命を迎へて居りますのさ………で、貴方は私に約束をなさいました。たとへ私………

ヅニャシャ。まあ、貴方、お願ひですから後で話しませうよ、今少しどうか私の氣を休まして下さいよ。今私はいゝ空想を耽つてゐるのですからね。(扇子を弄びながら。)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

エピホードフ。私にや毎日不幸が附纏つてゐますが、私はこれを甘んじてゐる計りでなく微笑をして猶其上に笑つてさへ居るのです。

（客間よりワーリヤ登場。）

ワーリヤ。セミヨン、お前はまだ此處にぐづ〳〵してゐるのね？ 何と云ふお前は仕様のない人間だらう。（ヅニヤシヤに。）彼方へお行でヅニヤシヤ。（エピホードフに。）玉突なんぞに手を出して、棒を折つて了つたり、お客のやうな顔をして客間をうろ〳〵したりして。

エピホードフ。私をお責めなさるが、それは申上げますがね、出來ませんでせう。

ワーリヤ。私はお前を責めやしないよ、たゞ云ふのさ。お前のやうなものを家に置いといても何の役にも立ちやしない、帳場の仕事を奈何なつてゐるのだか、お前は全體何の爲なのだかね。

エピホードフ。（辱しめられた風で。）仕事をするのや、歩くのや、はい、食べるのや、また玉突をして遊ぶのや、那樣ことを論ずるのは、これはたゞその譯の解つたお方や、お年上のお方の役で御座ります。

ワーリヤ。お前は私に向つてさう云ふ口がきけますの！（赫と怒る。）お前はそれでいゝと思ふの？さうすると私は何にも譯の解らない人間だと云ふのだね？えゝ、この馬鹿！出て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お出で、たつた今此處から出て行らつしやい！

エピホードフ。（恐れる。）どうぞ貴方樣、もう少しお柔らかに有仰つて下さいまし。

ワーリャ。（われを忘れて。）お出でお出で、さあ、たつた今出てお出で！此處から出なさい！（彼は戸の方に行く。彼女もその後を追つて行く。）二十二度の不幸！お前の臭でも殘しなさんな！私の眼に見えるときかないから！（エピホードフは戸から出る、その蔭からまた彼の聲。）『私は貴方のことをちやんと申上げますぞ。』え丶、何に、また此處へ歸つて來るつもり？（ヒルスが戸の傍に置いた杖をおつ取り上げて。）さあ、來るなら來て見なさい……來て見な……來て見な………私はお前に見せて遣るから……え丶來るのかお前は？さあ來なさい！そをら憶うだから………（行成振上げた棒を打下した其時、ロパーヒンが其處へ入つて來た。）

ロパーヒン。大きに有難うさま。

ワーリャ。（怒りながら冷かに笑つて。）御免下さい！

ロパーヒン。い丶え、奈何でもないです、いや何とも御馳走さまで。

ワーリャ。奈何致しまして。（出て去らうとして又振返り、優しい調子で。）私、貴方を打ちませんでしたか？

ロパーヒン。い丶や。然しひよつとしたら大きを瘤が飛び出すかも知れませんな。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

廣間で聲。ロバーヒンさんが歸つて來た、エルモライ●アレクセエヰチさんが！

ピシチク。眼にも見えれば、耳にも聞くよだ。（ロパーヒンと接吻する。）コニヤクの臭が君はするね、なあ君、さあ、此處で大いに愉快に遣らうぢやないか。

リュボヒ・アントレエウナ登場。

リュボヒ●アンドレエウナ。お丶エルモライ●アレクセエヰチさんなの？奈何して這麽に遲くなりました？で、兄は何處です？

ロパーヒン。レオニード●アンドレエヰチ君は、今私と一所にお歸りでした、もう見るでせう………

リボヒ●アンドレエウナ。（躁急んで。）奈何しました？え丶賣られて了ひましたか、よ丶早く有仰つて下さい。

ロパーヒン。（心より湧き來る喜の、抑へても抑へられぬを羞澁むやうな風で。）競賣の終つたのが四時で………私等はとう〳〵汽車に乘り後れて了ひ、それで此度は九時半まで待たされました。（重苦しさうに溜息をする。）ふうツ！何だか少し眼が廻るやうだ。

右の手に買物を持ち、左の手で涙を拭きながらガーエフは登場。

リュボヒ●アンドレエウナ。あ、リヨニヤ奈何おしなの？え、兄樣？（堪え兼ねて涙ながら。）早く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

よ、どうぞ、早くさ……

ガーエフ。（彼女に何とも答へずに、手を振る。さうして泣きながらヒルスに。）さあ、これを其方へ取つて呉れ……鯷魚と、ケルチェンスクの鯡だ……俺は今日はまだ何にも食はない……苦しみ抜いたよ！（玉突室の戸が開放してあつて、玉を突く音が聞える。ヤシャの聲。「七つ、それから十八！」と、ガーエフの樣子はくるりと變つて、もう泣くのを止めた。）疲れたよ、酷くどうも。ヒルス着物を着換へさして呉れ。（廣間を過ぎて自分の室に行く。ヒルスも後から續いて行く。）

ピシチク。競賣は奈何でしたな、お聞かせなさい！

リュボヒ●アンドレエウナ。櫻の園は賣られましたか？

ロパーモン。賣られました。

リュボヒ●アンドレエウナ。誰が買ひました？

ロパーヒン。私が買ひました。（間。）

リュボヒ・アンドレエウナは聞くよりぐらぐらとして、其處にもし肘掛椅子や、卓子がなかつたら、彼女は倒れて了ふところであつた。ワーリャは帶から鍵を引外して、客間の眞中の床に投げ付けて出て行く。

ロパーヒン。私が買ひました！だが、まあ皆樣些と待つて下さい、私は今頭が何だか少し混雑してゐてお話が出來ませんから……（笑ふ。）私等が競賣の場所に行つた時には、も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う彼處にデリガーノフが行つてゐました。レオニード・アンドレエキチ様の所には、たゞ壹萬五千圓だけしか無いのでせう、所がデリガーノフは直に借財の上に參萬圓と切り出しました。まあさう云ふ譯でしたのさ。で、私がまた其上の、四萬圓と恁う出ました。すると彼はまた四萬五千圓と出る。それから此方がまた五萬五千圓と出ました。詰り何です、彼は五千圓づゝを增し、私は壹萬圓づゝを增して行つたのです。で、とう／＼結局、借財の上に九萬圓と云ふことで私の勝利に歸しました。今、櫻の園は私のものです！私のです！（高く笑ふ）あゝもうこの櫻の園を私のものになつて了ひました！まあ、どうぞ私を酩酊つたとも、氣が違つたとも、或は私のこりや幻影だとも云つて下さい……（足踏なして踊る）私を笑はないで下さい！あゝもし死んだ親父や祖父が墓から出て來て、この事を見たら奈何でせう。自分達のこのエルモライが、然も始終毆打られてゐた、教育も受けさせられない、エルモライが、いやまだ／＼冬にも始終跣で驅廻つてゐた、あのエルモライが、そのエルモライがね、奈何です、この世間に二つとは無い、この立派な櫻の園を買ひました。昔は祖父も親父も農奴の身分で、もう此方のお臺所へだつても、首も出すことすら、出來なかつたものです。こりやどうも私の夢だらうよ、私の眼にさう閃ついて見えるのだらう……いや、こりやたゞ貴方々の暗い、譯の解らない、何か

の妄想の結果に過ぎないのでせう………（鍵を床から拾ひ上げて優しく笑ふ。）鍵を放り投げた、もう彼の女は此處の女主人株ぢやないと云ふやうに………（鍵の鈴を鳴す。）さう、そりや何方でも可い。（音樂隊が調子を合はせる音がする。）やあ、樂隊、彈け彈け！私が所望だ！さあ、皆來て見るがいゝ、このエルモライ・ロパーヒンは甚麽風に斧を取つて、この櫻の園を切拂ふか、木は甚麽風に伐られて地上に倒されるか！私は此處を別莊の貸地に經營する。さうして我々の孫や、曾孫は初めて此處で新しい生活を始めるのだらう………おゝい！彈け彈け！音樂隊。

音樂は初まつた。リュボヒ・アンドレエウナは椅子に身をかゞめて、歔欷く

ロパーヒン。（諭すやうに。）奈何して貴方は、それぢや何んで私が先に申上げた時に、それをお聞入れにならなかつたのです。本統にお氣の毒な、何ともお傷ましいこゝちやありますが、と、云つてもう今ぢや取返しにはなりません。（眼に涙を溜めて。）あゝ早く這麽苦しい時は過ぎて了へ、這麽我々に具合の惡い、苦しい生活は、早く變つてくれゝばいゝ。

ピシチク。（彼の腕を取つて小聲で。）彼女は泣いてゐるから、彼方の廣間へ行かう、却つて一人で構はずに置く方がいゝよ………行かう………（彼の腕を取つて廣間に行く。）

ロパーヒン。おい、奈何した音樂隊、しつかりやれ！俺が望む通りに遣れ！（輕く嘲るや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うに。）新しい大地主が來た、櫻の園の主人が來た！（思はず小さい卓に突き當つて、其上の燭臺を倒さうとした。）おつと、何でも償はうよ！（ピシチクと共に退場。）

（廣間にも、客間にも、腰を掛けたまゝで泣き入つてゐるリュボフ・アンドレエヴナの外は、誰もゐない。音樂は靜に奏されてゐる。其時足早にアーニャとトロヒモフとが出て來る。アーニャは母の所に駈け寄つて其前に膝を折る。トロヒモフは廣間の入口に立留つてゐる。）

アーニャ。お母樣よ！……お母樣、お泣きなさるの？可愛い、大事なお母樣、よう大事なお母樣、私はお母樣を愛しますよ……私は貴方の幸福（しあはせ）を祈りますよ、お母樣、ねえ、櫻の園はもう賣られました、もう無いんです、それは本統にさうです、だけれどお母樣、お泣き遊ばしますな、よう、御覽遊ばせよ、それはさうでも、まだお母樣にはね、是からの生活と、まだそれからね、善（よ）い、潔（いさぎよ）いお心とが殘つてゐらしやるぢやありませんか參りませう、私と一所にね、よう、參りませうね、お母樣、此處から出て參りませうよ、ねえ……私達また新しい庭園（には）を、もつと是よりもいゝ庭園を植付けませう、それをお母樣は實際に御覽になつてお解りになりますよ。さうして、あの靜な、穩かな、深い、喜ばしさが、丁度あのそら夕日（ゆふひ）のやうに、心の中に落ちて來ますわ。さうしてお母樣はお快よく、お微笑（わらひ）なさいませうよ、お母樣！出て參りませう、此處からね、おいとしい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

わよお母様！一所に出て参りませうよ！

幕

歐文註解

一、Grand rond　大い環

二、Tromenade à une páir　一組づゝ動く

三、Grand rnd, balancez !　大い環で、左右に體を振る

四、Las cavaliers à genou et remereiez vos dames 男子達は跪坐して婦人達に謝意を表し給へ

五、Guter Mensch, aber schlechtere Musikant　好人物だが併し拙手な音樂師だ。

六、Ein rivei, drei　一、二、三。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はかなき生――三ケ島葭――

唇の動けば我に消えにけりはかなき生の姿なるかな

いたづらに心をば張り言ひがたき悲しみなるを言ふまじとする

涙みつ愛には生きじ憎悪には死なじと思ふ心の中に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さまざまに思ひめぐらしそのはてにうつつなきこと言ひしさびしさ

忍ぶとも言はむか悲し破るともまもるともなきこの日のおのれ

たまゆらに死するこころもとこしへに生くるこころも探るひまなし

あさましき夢の女か忍辱のあへなきまでに強き心か

おろかなるものとおのれを知りながらなほはた何を忍ぶと言はむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さびしくも激する我を見てありぬうそを言ふ
やとせまられつつも
戀人をただなかにせるみづからの悲みをさへ
よそに見て泣く
君が知る悲しきみづからはわかちがたしと言
ひてのがれむ
萬人にかよふさびしきあぢきなきこの心ゆゑ
ひとりためらふ
おほらかにわが醜さに打むかふゆゆしさもな
く君にあくがる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

わが心半遂げたるものと見む戀はるることを
嘆きたまはば

ふたたびは我にかへる日無かるべしなど惑ふ
身の悲しくなりぬ

君あるをかのあたりとも思ひやる心は無くて
身のへだたれる

言ふのみに過ぎねばゆるせあさましく裏に表
にかはるべきこと

むなしさにみつと言はむかあな苦しわが胸鳴
るや耳さへも鳴る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀しさになしえでありぬ我をもて男をはかるほどのことだに

弱きかなここを越ええずのがれえず倒るる身をばひとり見て泣く

安はむ死か暴君か知らねども待つまもあらず迫る身なれば

けふはなほ戀し苦しと言ひうればわれかにかくに幸の身ぞ

一方にゆきてわかるる道あらば戀をさへもたのむ身ならむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

味へと授けられけむ運命をのがれむとする我
ぞ悲しき

おのれより呼びて求むるさばかりもかくれま
はれる我なりしかな

今となり君にこはばや悔なきにせめてこの身
の滅びなむこと

ことさらに缺くと思へるまごころの無きにひ
さしく終らむとする

「あゝ」とさけぶその前とだに後とだに知らで滅ぶ
る命なれかし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづからになしえで君にねがひしを耻ぢて苦しむ何の心ぞ

君あれば足るてふものを人はなほ寂しきものの中に數ふる

いづくにか悲しき人のあればこそ無き影さへも追ひて泣くなれ

あやしめとさしのべたまふみ手ならむをよび一つをもてはやす身に

君がこころあやしみそめしゆふべよりまづ解きなやむおのが悲み

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一

みづからをはかなきものとさだむるをさだめのほかと思ひけるかな

春の夜の月の前にもあれはてし頬のさびしさをおぼゆる女

東風　——小笠原さだ

——二人は北側に明取りの爲に開かれた少さなガラス戸のはまつた小窓一つきりない蒲暗いガランとした陰氣な一室の中に半日を過して終つた——

外は極めて靜かな日で濕つた生ぬるい東風が音もたてずにひそやかに吹いて居る

かすれた弱々しい日の光がそとガラス戸をくゞつて茶がゝつた壁にうつすりと日の蔭を落して居るので室の中の空氣は其反射の爲に一帶にぼつとうす黄ばんで居るのであつた。男は窓のしきいに片足をのせるとだるそうに細長い體を投げ出してグルリと女には脊を向けてじッと石の様に冷たそうな壁の面を見つめて居た。茶色にぬられた壁はもう可成古ぼけて終つて長い間のいつともなしについた道具の角ですれたあとや爪でひつかいた様なきづあとが淋しい悲しい跡をとゞめて居る様にも思はれた。

會社通の古々した脊廣はもう肩や腰の邊はひどく板づれがしてピカ〳〵光つてすつかり、しま目が解らなくなつて終つて居る。

頬肉の落ちた青白い半面がいかにも慘しく見えて居るが、其でも耳の形の上品にばら色を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して居るのと襟足がすつきり細いのとが未だどこかに若々しい面影もあるのだつた。
男はいつ迄もじつと壁についた渦の樣な瓜跡を見つめながら。
「戀とは何ぞや　戀とは何ぞや！」
しきりにこう云つた樣な文句を心の中にくり返して云つて居るのであつた。
毎日〳〵何の興味もない干からびた樣な仕事に此温かな春の日のかゞやいて居る世界を外にして働かなければならないのが男にはもうどうしても我慢が出來なくなつた。
と同じ樣に女に向つても今迄の樣に心のおどる樣な事も無くなつたのであつた　其に女は此春以來體の變化と共にひどく神經許りが尖つて終つてヒステリーを起しては時折手のつけ樣の無い事などがあつたりする。
二人同棲した當時は自分の將來の望も世間的な色々な深かい關係のある人々も多くの友人も凡てのそうした絕つべき事の出來ない自分の周圍をつきやぶつて迄も少しも悔る事を知らなかつた　そして只女の爲に　女を養つて行く爲には學校も希望も凡てを曲げて終はなければならなかつたけれども若かい男は少しも其を苦しいとは感じなかつた　其許か女を養ふ爲には隨分耐えがたい職業にもおとなしく從がつて居たのであつた。
然かし二人の體をぬりかくして居てくれた濃いあくどい色彩も長い〳〵年月のたつに從つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ていつ消えるとも知らないうちに自然とはげて終つて此頃ではもう果かない淺間しい本地が露骨に男の心の目に映つてくるのが苦しかつた。

此頃の男の心はもうすつかり行きづまつて終つた樣に動けなくなつて居るのであつた　そして只毎日うつとうしい考に許り捉へられてどうする事も出來なくなつて居る。

今朝も二人は不圖した事から互に云ひ爭ひを始めてとう〳〵男は會社にも出そびれて終つたのであつた。

女は室の片隅に置かれた机の前の粗末な木椅子に重い體をよせかけて一時間の餘も強情に物を云つてくれない男の後姿を苛々してくる心を抑へて慢めしそうにじつと見つめて居るのであつた。

女は二三寸開けられた窓の隙間からボヤ〳〵した東風がふざけかゝる樣に顏にあたるのが脇の下をくすぐられるよりもゝつとひどく忌々しくつて耐らなかつた。

生ぬるい風に頰の皮膚をそつとさすられると其邊が妙にむづ〳〵して顏をかきむしり度い樣な何ともかとも云へない否な不快な氣持がしてくる　頭の中から頰へかけて燒けた鉛でゞも押しつけられて居る樣な重苦しい熱をもつて唇は血の色の樣に眞赤になつて居る。

其くせ兩手も足も死人の樣に冷えきつて居て時折脊筋からぞく〳〵と否な惡寒的おそばれ

て體中の毛穴は其度にワッ〳〵とあわ立つても來るのであつた。

女は自分の體のうちに異常な惡熱が燃えて居るのをはつきりと感じて居た。

男はいつ迄も眠つて居るのかと思はれる程靜かで身動一つしないで居た。女はうす汚れた洋服の脊を見せた弱々しい男の寢姿を見て居るとわけもなく氣がムラ〳〵と荒立つて來て男の體に飛びついて思ふ樣ごづき廻してやり度い樣な氣持がしてくるのであつた。

で女は目じりをつり上げてうはづゝた目つきをしてヤッと男の脊を睨んで居るのであつたが其しみのついた汚い古洋服の脊を長い間見つめて居るうちに不圖女の心のうちには其中に包まれた若い美しい男の五體とそして女の樣なふくよかな膚ざわりとが不思議な力でもつて刺す樣に鋭く映つた來た　と今迄荒立つて居た女の神經は急にしぼられる樣な息苦しい感がして來て苦しくつて耐らなくなつた。そして女の目には知らず〳〵冷たい淚がにじみ出して來るのであつた。

自分の凡を投げ出して女の前に伏して居た男のやさしい濃やかな過去の情愛が今更の樣に女の心をはげしくゆすぶり始めた。が女の心はまた直ぐ變化して行つて其次の瞬間には其やさしい心をうらぎつた何とも知れぬ深かい悔恨の情が迫つてくるのであつた。

女は思はず苦しそうに吐息を洩らすとふッと氣をかへて立上つた。そして心のまわりを取

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りまいて居る重苦しい考へを拂のける樣に强よく首をふつて荒つぽく窓際の處に步いて行くのであつた　そしてわざとらしくべたりと窓際に座ると戶の隙間から乳色のうす雲のひろがつた沈んだおだやかな外の景色を眺めた。

隣の板塀と土藏との間二坪許の箱の樣な中庭に植えられた梅の木にはふつくりとしたやわらかな白い玉があられの樣について居る。

女は今迄此枯木の樣な哀れな小枝のさきに此窓から投げすてた紙切などがひつかゝつていつ迄もヒラ〳〵して居るのを淋しい心持で眺めて居た事などもあつたが今は其枯木のさきには驚く程よい生の力のこもつた白玉のつぼみの出て居るのである　女は自然の力の不思議さに驚異な瞳をもつてじつと眺めて居るのであつた。

女はやがてパッと開かれる薄い羽衣の樣な花瓣からはなつ蘭麝香に似た香を思起すと自分の體のどこかにも未だ少女らしい血の温味の殘つて居るのを感じないわけには行かなかつた。

「ちよいと、もう梅が咲いてますよ」

女は急に小供らしい甘へた口調で云つて振り返るとそつと男の片足に手をのせてかるくゆすぶつて見た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そしてまたじつとうるほいのある空氣のみちに靜かな外をいかに感心した樣に眺めて居るのであつた。

「まア何んだのかだのつて云つて居るうちに春になつたのだわね……」

と女はまた小言に感嘆した。

男は女の底冷えのする掌でそつと足のさきをなでられると冷たさが體中にしみ渡つて來る樣なので思はずそつと足を引つ込めた。

女の手は男の足がすつと引つた拍子にハタと窓のしきいに落された。と今迄忘れられたきづ口の痛が急にはげしく痛み出した樣に女の心はまた苛々としてくるのであつた。

「ちよいと！　私の手が觸つてもそんなにお否におなりになつたの……エ！」

女はこう云ふと男の脊に膝をつきつけて後から男の横顏をきつと睨んだ　そして。

「エ　ちよいと　そんなに私がおいやになつたの　エ　そんなに私が……」

女はヒステリーの樣にこうくり返すと身をふるはして男に迫つた　そして男の首すじの美しいのが不圖、怒の情のすき間から目につくと耐らなくねたましくなつてくるのであつた。

女は男の脊に熱い顏を押つけると口惜しそうに泣き出した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

男は女の熱つい顏のほとぼりが脊中につたわつてくるのでくすぐ度くつて耐らなくなつた。でそつと女を押しのけて起返ると始めてじつと女のおどろへた樣子を眺めるのだつた　顏に押あてた兩の手には青い筋がきわ立つて見えてお腹許太く苦しそうに肩で息をして居る其樣子を見ると只憐れな慘じめな動物を眺めて居る樣な氣持がしてくるのであつた。そして女の體の中に起つた不思議な變化か思ふと男は未だ味つた事のない子に對して强よい父親の情熱が向つて行くのを感じた　そして思はず身をふるわした。

「オイ　くだらない　止しなさい」

男はじつと女を見つめて居たがそつと手を伸して女の兩手をつかむと無理に其顏から引離した。

「もう　いや！　觸らないで下さいよ　こんな汚ない女なんぞに」

女は駄々ッ子の樣に體を振つてすねて見せたがまた袖を顏に押しあてた。

「コレ！」

男は叱る樣に云つて女の體にグッと力を入れて引よせると題を自分胸にあてゝきつと抱いた　そして。

「馬鹿！　おまへの手が冷たかつたから足を引つこめたのじやないか……くだらない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

好いかげんに泣き止んだらどうだ」
女は力强よい男の腕はだきすくめられて久しく苦しさうに息を切つて居るのであつたが
「だつて……」
と甘へる樣にかう云つてそつと淚の下から笑つて見せた。
男は其を見るとだます樣に靜かに女をはなして窓のそばに立つて行つた、そして
「梅が咲いて居るつて　どれ　どこに」
男はまた女には脊を向けてわざと女の心を誘ふ樣に聞いて見るのであつた。
そして心のうちでは惡戲だ　惡戲だ　と笑はれて居る樣な氣持がして耐らなかつた。
「あゝもう我々の春は過ぎて終つた、いや何もかも失くなつて終つたのだ」
男は吐息をすると思の深かい語調で云つて兩手で頭をかゝいた。
女はいつか男の傍に立つて同じ樣に外を眺めて居るのだつたが　男の言葉を聞くと急に陰險な目を上げて。
「私の爲にと貴方はおつしやるのでせう」
「おまへの爲にじやないさ　お互になくしちやつたのさ　おまへだつて何にもかも失くなつて居るじやアないか」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「…………」

「もうおまへなんか何が出來るものか　只子供の爲に生きて行かなくつちやないのさ」

「子供の爲に！」

女は自分の耳をうたがつた　そして不思議な事を聞かせられた樣な氣持がするのであつた

「子供の爲ですつて……まア否だ　貴方、可愛想に私は未だそんなおばアさんじやありませんよ　私はこれから面白い目をどッさりしようと思つて居るのですのに」

「だつて出來やしないよ　もう面白い事は子供のする番だからね　子供は面白い事をする爲に出てくるんだもの」

男は淋しそうに笑つて云つた。

女は始めは其を戯談らしく聞いて居るのであつたがだん／＼心持が押しつめられる樣な重苦しくなつて行くのであつた　少時たつと女は惜々しく叫ぶのであつた。

「私そんな子供そんぞ入りませんわ」

男は何か云はうとしたがまた女の神經が立つてくるのを恐れたので默つて了つた　そして殊更昔好んだ唱歌を口笛で唱い出した、女はじッと一ッ處に目をするたまゝ此お腹の中で一刻も怠らずに營んで居るある新しいものゝ力がねたましくつて耐らなくなつて來た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一と思に此乳房の下に白刄を何かをつきさしてそして其强情なものゝ生命をほろぼしてやり度い樣な氣持がしてくるのであつた。

そして此肉體と一所に其新しい生物もほろびて行くのをどこかでじッと冷笑してやり度い樣な……そんな空想を心の中にゑがいて居た男は若かい精力と美しい血汐と青春とをすつかり喰ひつくして終つていち早やく自分に脊を見せて行く慘逆な戀の姿を今更の樣に胸の中で眺めてゐるのであつた。

男の戀は只不安と嫉妬と苦悶と情熱との絕え間ない爭の樣にも思はれた。

男はもう果てのない空漠な只中に投げ出されて終つた樣な限りない淋しさを感じながら白雲のたゞよつて居る空をあてもなく見つめて居るのであつた。——

（了）

髪　―杉本正生―

（五）

冷たい臺所にも天窓から金色の日光が差し込む小春の晴れた日である。西陣の師走の多忙さは如何に不景氣な年と雖も呉服屋の方でさばけて行くに連れて中買も動く、少し許しは手拔きもあらふし傷物もあらふが雜作もなく收まつて行くのだつた。丁度其頃お叶の家では廣を三機、狹を三機、他に繻子を三機と織つてゐた。廣の一つは主人、一つは一の番頭、後の一つは主人の手をかけてゐる半ば公然の妾とでと云つた樣なお辻といふが織つてゐた。多忙しくなるとお叶も小女と同じ樣にせんまいに糸をかけた。凍傷の入つたまつ赤な指先きを不精に働かせて鐵色の纖弱い糸を枠にかける。何うかすると爪先きのあかぎれこう藥にあるかなきかの纖弱糸は引かゝつて離れない。車は四つも五つも停る。

『些と手傳いまへうか。』

とせんまい下の枠を右の手で小器用に搖つてゐた小女のお綱はへちまの樣に荒れたざらざらした細い手指を働かせて自由に糸を使かう。

『お叶はん健りたのみますせ。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云ふ樣なふざけた聲が機場(はたや)からきこえる。其聲につゞいてくすくす笑ふ聲も激烈しい機械の小止みする隙からお叶の耳に入るのである。

『お叶はん、些とおいでやしとくれやす。』

此う云つてせんまいの側に來たおみちといふ小女は奥の方から姑の痰吐きを洗ひに裏の流しへ持つて行くのだつた。小車をお綱に任せて逃げる樣にして奥の方へ行く、だけど姑の皺深い病苦の顏を見るのも懲い、お叶は一寸立止つて襷を迯した。

『忘れてゐたけれども今日はお浪の命日やな。』

暗い寢床の中に起き上つて、大きな色艶のない手で肩を揉み揉み姑は氣疲るい眼を向けてゐる。

『あゝ、妾も忘れてゐましたが。さうでしたな。』

と云つて忙然りとしてゐる。昨晩も十二時すぎに床につき今朝は五時の鳴つた時已う飯を噴かしてゐた。其眠氣は何となく身をめぐる。心の底に夢見る樣にうつとりとけだるくなる。

『お花とおけそくさんとをお供へたら何(ど)うえ。』

と聞いてお叶は發となり乍ら佛壇の方へと行つた。冷たい塗の扉を開いて眞暗な中に光る金佛の像を視ると妙に身内がぞつとした。羽根のはたきで清潔(きれい)にそこいらをはたいて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

から油壷を持つて臺所へと來ると、お綱に替つて花や供も買ひにやる。一つ二つの小車の小止みを放棄つて油を注しに佛壇へと行くと、何時の間にか良人は巳う仕事を仕舞つて筒袖を脱いでゐるのだつた。

「伴天を何處いやつた。」

と云つて手拭で身體中をはき拂つてからお叶の被せる伴天を引かけると火鉢の前に來て機場の一人に巳う燗を命じてゐる。

「又始るのか。」とお叶は思はずにゐられない。午前から始めた酒は夜の更けるまで止み間がない近來の酒癖は何時の間についたものか、

「又今日も朝からですか。」

と云つてお叶は淋しく向ひ側に膝を下ろす。

供物が歸つて來るとお叶は夫れを機に立上つて序手に便所へと下駄をつゝかけた。激しい機械の鳴り轟く織り場を通つて裏口を明けると、つい と寒い風が顔に來る、

「あゝ寒む。」

と云ふ聲で振り向ふとお辻は機の手を止めて切れた一本の縱絲を繋いでゐた。小奇麗な襟脚をぬつと突き出して背を傴めてゐる。紫の襷をかけた肩の邊りも好い格好だ。お叶

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は便所の歸りについと良人の機場の座市團を二つに折つて機の上へ載せて見た。

『主人(だんな)様(はん)已うお止(や)めやすのどすか。』

と二(いち)の番頭留吉がいふ。お叶も微笑して頷いて見せた。ふと良人の使用つてゐる煙草入の箱に細かく疊んだ紙があるのに氣が付く。そつと取つて擴げて見る。見るなり夫れを狼狽て元の處に挾み込んだ。ふと昨夜の隣りの房室(へや)に起つたみだりがましい事件を思ひ出すとお叶はちらと其相手のおみつの方を見た。狹(ほそ)を織つてゐるおみつは平然として鼻唄を歌ひ乍ら冷たい地の底に伸ばした脚を働かせてゐるのである。

母家の方では誰人か客が來たかして高い良人の聲が爲る。お叶は顏を皺め乍ら前垂れで手を拭き拭き表の間をそつと覗くと、きゝなれた阿兄の語が明晰りとする。何の用事だらふと思つたが俄かに勢立つほど珍らしさと嬉しさが込み上がつた。

『私も忙しいて、貴兄(あんた)はん酒でごまかすより仕様がごはへん。』

と良人は言つてお叶の方をちらと睨つけて顋でしやくる。琉球の着流は身狹を氣取つて膝を崩さない遊野郎然たる阿兄の前では、まつ赤に腫れ上つた手を揃へて出せない、氣おくれを覺え乍ら、お叶はそつと丸髷の小鬢を撫で上げた。

『おつ母さんから手紙が來た筈だがな。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と良人が臺所へ立つて行つてゐる間を孝吉は小聲になつてそつと囁く。お叶は胸がどきとした。阿兄の用事も直覺的に悟る事が出來て又新らしい心配が増えて行く事を思はずにはゐられない。

『然う働いてお溜めになつても仕樣がないぢやありませんか。』

と伴天を羽織にき更へて來た良人の方へ話を變へながらも心にかゝるかしてお叶の方をちらちらと見る。頓て在り合せの肴に生燗の酒が出る。見慣れた盞だと思つたら夫れはお叶が荷の中に入れて來た伊摩里燒の器だ。

『學校は夫れでも行つといやすか。』

良人はもう碎けてかゝる、

『今が大事の時どすせ。迂濶おしやすなや。』

意見めかしい語が一言でも云つて見度い。(何や阿兄ちゆふたかて年齡も下やないかいな)生家の評判の時に出る良人の語をお叶はふと思ひ出した。阿兄にも良人にせ自分は寂しい間隙を感じずにはゐられない。然う思へばもう犯し難い樣な亡き父の偉い俤が偲ばれる。政體、だとか事業界が何うのと云つた風に女には窺ふ事もならない樣な談しが男子の多くの談話だと思つてゐた自分は、商賣の以外には新聞の號外にすら氣を止めない程の男が今

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の良人である。父が罪惡の樣に罵しつた道樂が今阿兄の生活の半分を埋めてゐる。敎育と云ふ冷たい而して頼もしい心の力には已う依り添ふ事もならない事になつて行つた樣なものだ。良人の敎へを敎へとしてゐた母の調子も逢ふ毎に妙に暗つぽくなつて行く樣であつた。威嚴とか云ふ怖ろしい刺が次第に取れて行くと共に子供の頃には見る事も出來なかつた缺點が母の身體の隙間ごとに覗かれて來る。母を母とも思はない不規律な阿兄の心が纎弱な女心を次第に暗へと誘惑して行くのだとおゝげさに考へて見度くなる時もある。

『我家のお老婆さんはもう此頃では横に寝る事も出來ん樣になりましたがな。一つ診て貰へまへんかな。』

之れには流石に阿兄も淋しく微笑した。酒の進むと共に愁しくなる慣例の良人はまだ其他に細々しい事を語つて訴へて見る。兄妹と雖も矢張り良人としての誇りは欲しい、

『何うも今年はあかん云ふてますのや。此調子で二三年も續いとお見やす、迚も此處の家に這入つてゐられまへん。差詰め賃仕事にでも雇はれんなりまへん。』

と云はれてお叶は坐に堪へられなくなつた。

『已う晩いでせうな。』

之れと言つて話はない此麽職人然たる男をつかまへて然う阿兄も調子を合せてゐるわけ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に行かなくなつた。

『今あんた十二時鳴つた處ごすがな。』

醉つて見るとこうした客も放し難いと見えて怪しい手つきで頻りと酒を薦め乍ら途斷れもなく愚痴つぽい事を並べて行く。

頓て機場の方の人達ちへ膳を出さねばならぬ、お叶はそつと立つて小女を使ひ使ひ尾張大根の赤く色づいて煮たのを各自の碗に配つてやつた。まつ赤な唐芥子を大根に盛つた上に載せて行き乍らお叶は涙を催すほごのくさみを二つ續けた。風邪を胃いて重くなつて夫れが機に生家下りとなれば已う再びは來ないものをと思つて見た。百姓にとりまかれて一軒飛び離れた淋しい田舍生活ながら、暗い大きな家ながら生家となると偖また戀しいものである。嚴酷な母の外に、自分の生れぬ先きから杉井家の人となつてゐる老婆の口喧しい惡口も辛いは辛い、けれども戻つたならさう長くゐるものでない、再婚は爲ずとも何とか獨立の道を考へ付いたならば嘲ける人達ちの眼も一時であらふ。

『さあ、皆さんお午飯へ。』

とお叶は色々心に考へながら聲をかける。揃つて鳴り轟いてゐた機は一つ一つ止んで行つて次第に膳の前へ集まつてくる。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『お客さんごすかお叶はん。』
とお辻は一重瞼を瞠いて奥の方を差し覗く。
『已う一尺で上りや。あゝ……』
と腰を叩いてゐた常吉は此時お辻の方を向いて
『お叶さんの阿兄さんやないかいな。杉井の若旦那やないかいな。』
『へえ。』
とお辻は眼の色を變へる。お叶はふと秋の旅行を思ひ出した。お叶夫婦にお辻を連れて生家からは阿兄と母とが小妹をつれて加つたが堺の濱から箕面に廻り大阪でも一夜を泊つた。皆笑つて無事に歸つた其夜また我家で飲み更した良人は裏口でお辻を囚へて强烈にひつぱたいた。大阪で泊つた夜お辻が阿兄の羽織を疊むのに手間が取れた。而も其室は眞暗がりであつたといふ。而した事を思つて見ても阿兄が訪ねて呉れるのは心苦しい。だのにお辻の方では然した怖ろしい夜のあつた事を思ひ出しても見ないのか場合に依つたら茶でも運んで見たい樣なそぶりをしてゐる。何處まで呑氣な人達ちだらふと思ふとお叶はそつと唇を嚙んだ。奥では良人の呼ぶ聲がする澁い顏をして立つて行くと、
『阿兄さんがお汝に用事があるさうな。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と言つて良人はついと坐を立ち上る。お叶は其顔色をそつと見て坐に就くと、

『妾に用事が。』

と不審さうにきくのを阿兄は眼で笑つて、

『一寸そのお願いだがね。先日母からお汝に金が來たらう。』

見ると阿兄は懐手をしてゐる。お叶はさうした姿が見るに耐えない。

『ね、其内を俺に借せ。半分でも好いからさ。よ。』

『まあ、お母様からさういふ知らせがあつたのですか。』

『あつたんだよ。借して呉れ、お母様から借りても好いからと云つて借來たんだからね。』

お叶も巳う拒む方策もなかつた。早く銀行に入れて仕舞ふかすれば他人に借りられたといふ辯解もあつたらふに、恁う思つて簞笥の小引出しを明ける。紅裏の縮緬のふくさに包んだ紙包みの中から七十圓の半分を分けて阿兄の前に置いた。

『今晩すぐそうお母様に言ふてやりますせ。』

『ああ、さうかい。俺から云つてやらうよ。』

阿兄は少し眞面目になつた。若しか又手に乘つたんぢやなからふかとお叶はふと心付いて阿兄の手から其紙幣を引戻し度いほど惜しいと思つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（六）

寒に入つたかと思ふ程に嚴しく凍える夜である。お叶は飮み續けてゐる良人を其儘にして先きに我房へと這入つて床に就いた。良人の相手にはお辻となほ一人の織女が付いてゐた。

『寐やがれ。氣隨ものの生意氣女が。』

恁う良人は挨拶して寐卷に着更へてゐるお叶を罵倒した。奉公人の手前實に熱い涙が流れた。床に這入つても寐付かれ樣筈がない。メリンスの袖口で痛くなるほど泪を拭き拭きしたのである。

寐床の枕元は山名町の通りとなつてゐるため格子戸一枚の外の寒さうな凍てた風は砂を撒く樣に障子に當たる。先刻から隣家と我家との廂合ひに秘々立話してゐた男女は折々頓狂な笑ひ聲を立てた。夫れも耳障りの一つである。無智な平穩な田舍の眼で視る都會の暗い生活ほど怖しく而して卑しいものはない。擇りも擇つて此處へ嫁入させる冷酷な母と無頓着な阿兄等には生れ乍らの約束とは云へあまりに不遇な身が悲しい。然雖さお叶はついと思ひ返した。冷酷には違いない母も蠶食されて行く亡父の遺座に對しては更らに何の責任をも持たない阿兄と幼ない小妹(いもと)を抱へてゐては全く力賴みになる樣な親族の加勢を考へた

に違いない。大阪地方に多くある父方の身内も武士は食はねど高楊子なる家柄ばかりを誇りにして其實物質の力と云へば更らに何の足しにもならない。然うした系統の中に獨り自分の家として商買人を撰んだのは、亡父の死後にまごつく世の母のつねとしてあり勝の事だとは思はなければならぬのである。

お叶は息苦しさにね返りをやつて見る。臺所からは良人の女を相手にして廻つて行く醉の怪しい高聲で聞くに耐えぬ様な事を喋つてゐる。次で又今晩も夜中に起る隣室の所業を想像せずにはゐられなかつた。

『只た一度で好から歸つて見たい。』生家に行けば母でなくとも相談をしても乘つて呉れる様な人が一人二人は心に浮かぶ。一度嫁いて離縁といふ事が不良ければ生涯孤獨で操を立てたら誰人に遠慮が要らふ。さうすれば看護婦でも好い。大家の仲働きでもまだ寧ろ幸福である。お叶はいつか然した空想に寂しい自分を忘れながら何か無智な人の樣に寐息を立てて睡つて了つた。良人から受ける壓迫の口惜しさが深く心に喰ひ入つてゐたものと見えて、臭い匂のする良人の大きな手が剛情な自分の頸をいやといふ程打叩く。笑らと冷嘲らしい笑を含んだお辻のまつ赤な唇がいくら眼をふさいでも瞳の底に這入つて來る。然うした苦しい夢の中には生家にゐた頃自分に想ひを通はしてゐた壯者の常さんの顔が茫と映つ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る。村の人達ちに羨望されてゐた才の秀た青年だ。何か自分に罰はうとして袂の影に赤い健康らしい腕を差し伸す、捕まりは爲ないかと思つて心は急せるけれども何うしても側を離れる事が能きない。

『失禮な。常さん、皆にさう云ひますせ。』

と言つて温かい男の手をはらつたと。何げなく眼を醒ます。眞闇のあたり鼠の激しく荒れ廻る音が家の内に轟き渡る。ふと思ひ出したのは白晝の中に二階に干して置いたかきもちである。鼠は大方夫れを巣に引かんとて多勢連れで暴れ廻るのだらふ。お叶は身内の融け行く様な眠氣を耐えて起き上つた。其身體にはまだ常さんの男らしい手の温味がある。

『壇那は』とお叶は思ひ出して、熊と隣室の前を通つて二階の階段の上り口へと手さぐりで行つた。果して良人と相手の女とは寢てゐない。眞暗な房室の中ゆへ窺ふ事もならないけれども其女が決してお辻でない事は分つた。お叶はみしみし音を立てて上つて行くと狼藉を擦つた。鼠は音もかげも見せなけれども棚の上のかきもちの籠は手の付け樣もなく散亂として邊りに落とされてゐる。用意のためて蠟燭を袂から探し出して火を移す、眞夜に起きて一人恁した事をするかと思ふともううら悲しい涙が湧き上るのだつた。一つ一つこぼれのを籠の上に載せ乍らお叶は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『おつな。おみつ』

と呼んで見た。誰人か一人位ゐ手傳はせるために起しやつても好いなぞと心は急かれた。

『お叶、お叶。』

此うい ふ聲が階下からきこえる。自分の足音に驚いて眼を醒ましたかして姑が呼ぶのだらふと思つた。拾つたのを籠に入れて更らに長持の中に收めると、巳う爪先きは千斷れさうに凍えてゐる。お叶は恐しい寒さを感じながら下りて行くと姑の室の戸をそつと開けた。枕元なる佛壇の燈明の仄白い光りが漸く寢床の半面を照らしてゐる。

『鼠がなあ、かきやを暴しに來ますさかい。』

『出しといてお忘れたと見えるな。』

『用に紛れてな。』

『氣をお注けや。』

お叶は義理一扁に姑の夜着の襟を叩いてやつてやつと立ち上つた。ぷんと行火の物の燻ぶる様な匂がする。

行かうとするお叶をふと呼び止めた母親は。

『由さんは何處で寢てゐるのや。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と聲を低めて容子を窺ふ樣にする。良人が自分に對する侮辱をぶちまけて姑に告げる時が來た。お叶は已う胸が迫つた。

『なんや妙な處に由の聲がするさかいな。』

『さうどすか。』

お叶は强て心を殺した。病患の疲勢に寢る隙も持たない樣な哀れな老人に告げた處で何の足しにもなるではなかつた。

『まあ心配さんとおやすみやす。』

『はあ、寢ますわ。』

少時くして老母の息は詰つて泣く樣な氣勢を見せる。お叶は襟をあけてそつと老母の顏を覗き込んだ。

『不孝者がな。』

と言つて聲を曇らしてゐる。

『まあ、何をお言ひやすのや。案じんと寢みやす。』

お叶も涙を溜めながら夜着の襟を老母の頭深く着せて逃げる樣にして床に返つた。床にはまだ温もりがある。お叶は。ぷいと蠟燭を消すと闇の中に遠慮なく泣き顏を投り出して

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

枕に就いた。間もなく井戸端に水を使ふ音がする。良人らしく嘔吐く聲も聞ゆる。自分の名を呼ぶのはおみつらしかつた。勝手な時は斷りもなく自分を置いてふざけ散らして困る時には自由に自分を使ふとする。誰人が其介抱に出るものか、とお叶は固くなつて夜着の襟の着の襟をすつぼりと額に被せた。房(へや)へ這入つて來た良人は

「もう寢たんか。お叶。ああ苦し。」

などと續け樣に言ひつゝお叶の夜着の上に乘つかつて引摺り起す樣な氣勢を見せる。臺所の時計の四時を打つと、又今日も寢不足の身體で働かねばならないかとお叶は重い良人の腕を煩げに肩の上から外し乍らほろほろ泣き出すのだつた。

良人は夫れでも口だけでも優しい樣な事を云つて側に寢込んで了つた。

「おまくを取つて來ますさかい。」

と立上らふとするのを良人は押へて、邊りに坐布團に帕をかけて貰つたのですなをに橫になつた。少し憤憤(よりよ)りして見ても良人は此場合として無言つてゐる。偖然うなると良人のために不甲斐ない氣性がなさけなくなる。だらしのないのも何處か意氣地ない處から來る樣にお叶には思へる。でも風邪はひかし度くない短い眠りの間も幾度となく眼ざめて肩を叩いてやつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其翌日もお叶は慣れぬ鈍な手付きでせんまいの車を働かせてゐると、

『お使ひ。』

と言つて這入つて來た車夫がある。一封の手紙の表紙は直ぐ母だといふ事が知れた。相談があるから些と來いといふのである。お叶は夫れを機場の良人の前へ出す手が捲へた。お叶はざつと其文意を言つて行つて見度いからと尾け加へた。

『まるで分家した娘あつかいやな。』

と良人は許すと云つてから此麼事を言ひ出した。

『お母様、些と生家の母に逢ふて來ますよつて。』

と形式の挨拶を了ると、不格好な丸髷のままで急々として出て行つた。出がけに良人へ挨拶をして此方へ來てから取り出して置いた小紋縮緬の羽織を着込んだ。車の上も北風で寒い。車は頓て二條車屋町なる親族の雨森の軒端に下ろされた。軒の用水の大きな水槽が雨森と書いて舊家らしく構へてゐる。無二膏と書いた突い立ての影に秘くれて姉娘のおみさんが膏藥を竹の皮に伸すのを手傳つてゐるのを見付けた。

『まあお叶はん。』

とおきみさんは結ひたての美しい島田の髪を長く出して、黒繻子の掛襟には帕を巻いてゐる竹の皮を持つた儘で眼を丸くし乍ら立つて來る。

『御無沙汰を……』

『ほんまに。此方からもつい已う……』

然う云つた簡單な挨拶を上りかまちの處で終つてお叶は坐敷へ連れられた嫁入るまでには行儀見習ひとして半季ばかり此處へ預けられたものである。唐紙も廊下の壁にも妙に可懷しい匂がある。

『まあ小母さん、お久しい御座ります。』

と云つてお叶は一派の笑をはつた。眼鏡越しに此方を見ながら小母さんは黒紋付の羽織の儘で坐布團を辷つた。漢籍の教師を第一高女がまだ土手町にあつた頃の事故只名門といふ意味から勤めてゐた。眼も不可く耳も遠くなつた。學校も退いて近來では和歌の弟子と茶の弟子を五六人預つてゐる位ゐな事であつた。小父さんは　風で迚も立つ事が能きない白髪の髷を一節亂さず梳き上げて褥の上に端坐してゐる人であつた。

『何うえ。商賣人の家でもよう辛抱おしるえな。』

と小母さんは古風な語を使つて可愛い親族の娘らしくあつかつた。母は始終無言で俯い

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てゐる。頓て氣を利かせて小母さんは坐を立つ。水入らずの親子の話は小斷もなく流れて出た。

『名古屋の學校へ變るちふのでなあ兄様が。夫れで已うびつくりして來て見るとお汝、また何處へ行つたんやら下宿にゐやへんのやろ。松山ゆふ友人の家をきいて訪ねて見ると其お人のいふのには北海道へ行くのやないかと云はる。菊勇が行つてる先方やさうなで。菊勇は落籍されて北海道へ行つたんやさうな、な。』

「まあ、情けない女子の尻に尾いてですかいな。北海道までまあ。』

頓て妹娘の手前で茶が出る飯を出すといふ。談しをする閑もなかつた。母も京極に買ひ物があるといふので尾いて出た。成可くならば今晩も何かの用事にかこつけて泊つて行き度い。

『私も東京へ行くやも知れんせ。』

二人車を辻で雇つて乘るとふと母は恁う言ひ出した。

『まあ何故?』

『見いな。兄さんがそんなふらふらした氣なら家の事は何うなるとおもふな。そんなら私が働かな何うする。』

と言はれて亡父の歿後誰にか相談となると一切自由にふるまつてゐる山瀬の衆議員の運動に母の加擔してゐる事を思ひ出した。お叶は改めてちらと母の若々しい化粧すら薄く施した横顔を覗た。正歟、とお叶は心を叱つた。其處まで母の貞操を疑ひ度くはなかつたから。

『松尾のおもちやに何がよかろ。』

阿兄に次で大事なのは小妹の松尾だ。お叶は淋しげにそつと袖を抱いた。

（七）

繁忙い師走に次で寒い正月が直ぐやつて來た。いざ正月となると、田舎の生家より又都會の樂しみはある。お叶は此時くらゐ自由に身をふるまつた事はなかつた。奉公人の二三人を連れて千本の岩上座。京極の常盤座と夜遊びを續けた。阿兄の友人の學生の家へも菓子折を持つて訪ねて行つたりなぞした。而してゐてもまた恐しい日は來る。半日の辛抱も出來ない樣な口惜しい日が來る。お叶は新聞を披げて看護婦募集といふのを記事の內から探さうと急せつた。何をするにも懶い樣な日が來る。然した日は村井玄齋なぞの小說を讀んで慰めたものである。寒に搗いたかきもちを又二階の廂に上に並べる。此かきもちが干いて金網に上す樣な頃には已う自分は此家の人でない、などと心に誓つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

西陣の華やかな景氣の好い正月も了つて行くと嚴寒の寒むい二月が來る。織手の二三人はみな此寒のために倒れて了つた。終日地の底に脚を伸して垂れてゐるのだから冷えは自由に身體中をめぐつて行く。織手が休息むと手はがたと落ちて機の上りは見る見る内に乏しくなる。下拵への用事はなくなるが小婢までも追ひ廻されるために十幾人といふ人々の口を何分一人で滿たせねばならぬ。臺所の多忙しさは少時くの閑もなかつた。然ういふ風だのに、良人の氣分ば相變らず呑氣な陽氣な正月の習慣を引づつ酒に浸り奉公人を撫で崩つて行く事はまるで隋性なつて了つた。果ては小婢のおみつにまで目をかけてゐる事が擧動に見える。お叶は已う近來では成可くさうした事を見まい聞まいとした。知らぬ内の心安さを貪つて行くのである。

三月に這入つて陽氣だつた日の光りが暗い家の内にと流れ込む事がある。青菜を洗つてゐる水にふと梅の匂が鼻に來る事がある。生家の消息は相變らず阿兄の遊樂と夫れに依つて失はれて行く遺産の報告見たいなものであつた。其中でも小妹の手紙は面白かつた。自分と違つて小才走つてゐる程感情で強く大人を動かす樣に出來上つてゐるのであつた。機の殘り布れの小切れを小包で送つてやると人形の帶にしたと云つて返事が來る。一度逢つて見たいと思つてゐると自分の仲媒人をした親族の家へ來た序手といふので訪ねて來た。

田舍には育つてゐるけれども贅澤な阿兄のしこみで菓子なぞ撰んで喜びもしない。乾いた頃には已う居ないだらふと思つて干したかきもちを燒いてやると珍らしさうにして夫れを自分の茶碗でお湯づけに爲たりなぞして遊んだ。

『阿兄さんの嫁さんは藝者を落籍してお孃さんに見せて貰ふのやさうなえ。』

と云ふ樣な事を喋つてお叶は冷汗をかゝされた。已う九つで學校も三年生といふのに其細長い身體を負さつて通ふのだといふ。纖弱い事を生家の一家はまるで誇りの樣にしてゐる。氣儘を放任されてはゐるけれども天性の氣弱な質は大人の顏色ばかりを見てしとゝなつて行つた。

『姉さん處の襖には立派な書が一つもないえな。』

僞うませた口を利いて笑はれた。

『琴を何處かで借つといなはい松ちやんが黑髮を彈いたげるさかいに。』

などと織手の一人を捕へてまるで自分の家の奉公人の樣に使ひ廻した。子供ながら然した商賣の忙しい家にはゐ憎いかして二日目の朝嬉々として歸つの行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お冬さんの話　―小林歌津―

ある朝――町にはなまぬるいそよ風が流れて、女の髪の毛の様になよやかな、ごつかつやのある細い雨が時々思ひ出し泣きでもすようにしくしくふる朝のことでした。私は半開きにした傘の柄を肩にのせて、しめやかな、静かな雨の町を、いゝ氣持になつてその朝も髪結さんの家へと出かけました。かうして五日め毎に髪を結ひに行くのは私の樂しみなことの一つになつてゐるんでご座います。大したこともないちいぼけな、銀杏返し一つにわざ〳〵下町まで出て行くのは隨分醉狂だと皆なに笑はれても、何是か私は前から結ひつけたお濱さんでなければ、どつからか自分の頭を借りてでも來たような氣がするので、遠いいのも、さまで苦には思はず、かへつて、あの界隈のさつくりしたおしやべりの娘さん達や藝者衆と話すのを樂しみにしてゐる位ひなんでご座います。

その日はいつもよりは少し私の出方がをくれたので、お濱さんも、下梳き二人も、大變に手がこんでゐて、鏡臺の後の大火鉢のまわりも座り場のないようなありさまなのでした。で私は次の間の長火鉢の方へ行きました。そこには耳の遠いお濱さんのお母さんが炬燵には

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いつてゐる外に、これも今しがた來たばかりの「末吉」のお冬さんが、片手をふところにつゝこんで、新聞をよんでゐるほか誰れもゐないのでご座います。お私はお冬さんの向ひ側にひざを落して、見あきる程、先からある箪笥の上の人形を見たり、そのわきにづんである、本を數へたりしてゐるうちに、近所の稽古所でやつてゐる「小稻半兵衛」の文句にいつか耳をかしてゐました。そうして子供らしい聲ですけど、大變に澄んで、すんなりした節まわしのその聲に知らず〳〵自分もお稽古するように、後をついて歌つたりして退屈を忘れてゐるのでした。

「遂々あの人も死んぢまいましたね、千代ちやん！」

新聞をバサッと置くなり今までだまつてゐたお冬さんは、不意にこんなことを云つて私を驚かせました。

「えゝだれが」

「榮次のことよ。よくあなたがかちかんだ役者だつておしやるでせう！」

「あ、あの人ですか」

私も長らく旅をしつゞけてやつと名題になつて東京の舞臺を踏むようになつた榮次と云ふ、あの影の暗い男を思ひ出しながらこう答へました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「何だか可愛相らしい人だつたぢやありませんか。たしか東京座の小春がお名殘でしたね。」

「そう〳〵、もらいつ子された小春の樣に、しねしねした、べそをかいてゐる樣な小春でしたねえ。一生あんなにかぢかんだ、うだつのあがらない藝で死んぢまつたんですもの――氣の毒なもんですこと」

お冬さんは、何か思ひ浮べることでもあるらしく、きれの長い細い美しい眼を、ぢつと江戶紫と黑繻子の襟をゆつくり重ねた胸の上に落して、しんみりと云ひました。

「姐さんはよくあの優のことを知つてなさるんでせう」と私は何日かお冬さんが、何かの拍子で話しかけた自分の初戀の物語と、あの男とを結びつけて何にもかも察してゐるやうにきいて見るのでした。

「え〻、よく知つてゐるの、そしてあの家とは切つても切れないわけがあるんですけど、私も妙なはづみから、不人情らしくして了つて……」

「唄に歌ひたい樣な、ぬれたお話しがあるんぢやないの?、きかせて頂戴な」私うつかり蓮葉な調子でこんなことを云つて了ひました。お冬さんから見たら年の行かない私の樣な小娘から、こうしたことを云はれて、何となくくすぐつたい氣でもするのでせうか、お冬

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さんはちよいと顋を襟に埋めて、寢亂れた、びんの縺れの一筋二筋を前歯のところへもつて行きながら

「お好きなものをおごりませう、きいていたゞきませうよ」とあかぬけのした口ぶりで云ふのでご座いました。

「そりやあお話しすれば隨分長い〳〵ことなんですけど、手ばやく云ひますとね、粂次は私の初戀の男で、又今の樣な境涯に身を置いてゐるといふことについても、お男は忘られない人なんです。

粂ちやんと私とはもう極のちいさい時分からの、おなじみで——私は今でもあの頃のことをよく思ひ出すことがありますよ。——なんでも未だ私がお母さんの手に、つるさがる樣にして歩く時分のことでせう、よく私はあの男の家へ遊びに行きました。廣い〳〵家で長い廊下を、いくめぐりも、いくめぐりもして、行きついたところの部屋には、ぴか〳〵みがき上げた長火鉢が据えてあつて、伊達な大模樣の丹前をひつかけた小父さん(私は粂ちやんのお父さんをこうよんでゐました)が其の前にどつかり座つてゐて、そのそばには着物から帶から、髮の形から、どこもかもぬけめのない小意氣づくりの仇ぽい、小母さん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が、銀ののべ煙管を袖口でぬぐつては、小父さんや、私のお母さんにさしたりしてゐるのを、まるでついさつきに見た繪ででもあるかの樣に、はつきり思ひ浮べるんです。子供心にも小父さんは、つくぐいゝ顏だなあと思ふ程、好い男でした。そして又、黠のうちどこのない樣な姿をしてゐる小母さんは、不思議な程いやな、みにくい顏をしてゐました、後できいた話しですけど、小父さんはその頃宮地役者ぢや名人と呼ばれてゐた人だそうで、坂東離助つて云つたんだそうです。小母さんは昔のさる大變にもの持のお孃さんだつたのですが、ある時、この小父さんを見そめてから、もう五年もなぢんでゐると云ふ堀の何とか云ふ藝者とはりあつて、遂々千兩箱を、いくつとかもつて家の女房になりましたんだそうです。その時分が、一番あの家のさかんだつた頂上なんでせうね。――私と榮次とのさわぎの時には、もうすつかり零落しきつて了つて、公園裏の、むきみ屋と、人力宿のあいだの歩くとひいてある貝殼が、ざくぐいふせまい露路のどんづまりに住んでゐたのでした。

それは私の十六のお正月だつたと思ひます。その日は朝から雪がちらぐふる寒い日でした――公園の芝居はその日から春芝居があくので、榮次が墨染と、小紫かなんかをやるんできつと見に行く約束がしてあつたので お晝飯を食べるとすぐ私は家を出ようとしま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。すると大變にお母さんから小言をきいて了つたんです。寒い雪のふる日をわざ〳〵芝居へ行くにもあたるまいと、さんざんに叱られた揚く、

「子供だ子供だと思つてゐりや、いゝ氣になつて――今から役者を追ひまわしてなんになるんだ。」

と云はれたのが常から氣早で向腹立ちの私にはひどく頭へがあんときたのでした。

そして「お母さんだつて若い時にや、そうだつたと云ふぢやありませんか」とかなんとか口返しをしたんです。お母さんが未だ芝居茶屋の娘だつた時榮次のお父さんを、大變ひいきにしてゐて、どうしても私のお父さんを養子にしなければならなくなつたので、離助とは姉弟の盃をして、あきらめたと云ふ話を、私はだれからとなくからきゝ知つてゐたので、その時の口惜まぎれについ云つて了つたんです。

それからお母さんは大變におこつて病氣になつてしまふし、私は胸の中ぢうを、眞黒なとげ〳〵の生えたものがぎり〳〵ころげまわる樣な、いやないやな氣持がして、自分で自分の身體を、どうしてよいかわからない程、もがき〳〵泣くんでした。床の入つても目はだく〳〵さえて來るし、終ひには涙も出なくなちまつて、づき〳〵痛む頭はかへつてはつきりと、色々のことを考へられました。よく考へると、ちよいとしたことから、どた〳〵と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

糸がもつれてこんなさわぎになつたのも皆な自分が悪かつた様にも思へるのですが、なみに云へばわかるものをあんなにまで、毒々しい口付きで叱りつけたお母さんも、どうしても、ひどい様に思はれるのでした。そして、ふつと

「死んぢまつたらどうだらう――」と思ふと、――水の上に、私の紅い腰紐が流れて、大勢人がさわぎをやつて、かけつけて來た家のお母さんが後悔して、泣きくづれる……そんなありさままで、私の頭の中ではちやんとゑがゝれたんです。その時全く死にゝ行く氣で雨戸をあけたのか何だかわかりませんけれども、なんでも、ふら／＼と戸をあけて、私は外へ出て了つたんです。そうして、人通りのない、しん／＼と雪ばかりふる路を、一散に公園裏の榮次の家の方へかけ出しました。今なら、何と思つたつて、そんな冷たい雪の中をにげて行くような藝當は出來ませんがねえ、やつぱり若い時にはお先き暗で無鐵砲なもんですね。――

そうしてそこに落付いてゐたのは、ほんの一月ばかり話なんです。その頃は雛助も北の方で旅をうつて歩いてゐるうちに死くなつて了ひますし、榮次の少しの給金も、どこへ散つて了ふのか隨分苦しいらしいのでしたがそれでも氣の好いゝ小母さんは、あの人の弟の由ちやんて云ふ少しばかり人並でない子に手紙をもたせては、うがひ茶碗から鏡臺までお

金にかへさせにやつては、お米のことお菜食のことを心配をしてゐるんです。いくら子供でも、さうしたことが目に入る度毎に身をきられるやうに、辛くつて辛くつて、今更、家へは行くわけにゆかず、ぢり／＼したいやな日を送つてゐるうちに、小母さんも、どこと云ふ悪いところもなく只、身體中の弱りが一度に出て、ぽつくり死んで了つたのでした。さうして榮ちやんに長年の借金も、後始末もなにもかも一時にかぶさつて來るんでした。

可愛い丶男のために身を賣ると云ふ話は、芝居にも小説にもありますけど、全くは、その時にや可愛いい人のためだからと云ふよりは、そんなくるしみを見てゐる方が辛くつて、私はその夏のはじめに、男衆の助さんの世話で數寄屋町から、褄をとつて出る事になつたんです。そのときにあの人が、頭をさげて「ありがとう」と云つたのより、弟の由つちやんが「姉さん、ありがとよ、きつと、兄さんとあたいとで、ぢきむかひに行くからね」つて云はれたときは、うれしいやら情ないやらで胸が一ぱいになつて了ひました。そんなことから、榮ちやんとは別れて、時たま、お座敷で逢ふか、おまゐりのかへりに私がよるかして、顔を合せるより外、あんまり逢はないせいでせうか毎日見てゐた顔がだん／＼ぼんやりいつかうすくなつて了つたのでした。そのうちに榮次も旅へ行くとかで、一日一共に遊びましたけど、もうその時分は、自分で不思議でならない程あの人のことを考へませんでし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。戀しい、逢ひたいと時々は思つても、何だかそれも、――一寸した浮氣から、「ちよいと、あたいあの人が戀しくて戀しくてせうがないの」と、朋輩の脊中をぽんとたゝくくらひな、上の空の氣持で雪の夜路をかけて行く樣な、强みはどこさがしてもなくなつて了つてゐるんでした。

きつと、榮次だつてそうに違ひないんですよ――ほんとうに、人間なんて妙なもんでさあねえ、大事なお母さんを捨てゝまで逃げてつても、ぢきこんなになつて了ふんですもの――もつとも私だけがそんな水性なんかも知れませんけど。

それからは、うか〱した心持の年月を私もいろ〱な路をふんで、歩きました。そんなうちにも私は榮次が、田舍藝者を女房に持つたとか、その女房が男の病氣のときには、巾着を編む內職をして養つたとか云ふ噂を、誰れからとなくよく耳に入れてゐたのでした。義理のある兄さんとかの世話で久しぶり――丁度十二年ぶりかで東京へかへつて、大芝居へ出られるようになつたと云ふことをきいたのは、私も今の「末吉」をひらいたばかりのときで、丁度去年の春なんです。

他所ながら私もあの人の舞臺を見に行きましたが元の水々しさはなくつて、がさ〱したいやなひからびきつた、藝を見せられてときには、何となく私も悲しくなりましたよ――

その後どこできいたのか家へやつて來て

「お冬さんも立派なお女將さんになんなすつた。おく家のお母さんがお前のおかみさんにしてあげるよつて云ひましたが、どうしてね」なんて云つてました。そしてもう別れてからのことなんか、ぶつゝりとも云はないで、まるで只の幼馴染が幾年ぶりで會つた樣な話しぶりでしたつけ……。

何だか、こうしてお話して見ると、後も先もないつまらないことですね。自分でもなにがなんだか、ちよつともわかりませんの――」

お冬さんは沈んだ低い聲で「つまりやしませんや」とくりかへすのでした。

「大層お安くない、しつとりしたお話しでしたこと。ちつとはこれからお墓まゐりでもしておあげなさいよ、ほんとに供德になりますよ」

と次の間のお濱さんも一番後にのこつた、お酌さんの唐人髷の元結をむすびながら云ひました。

「そうねこれからしませうよ、――あゝ毛卷きにでもいゝをゝかしら。えお千代ちやん。」

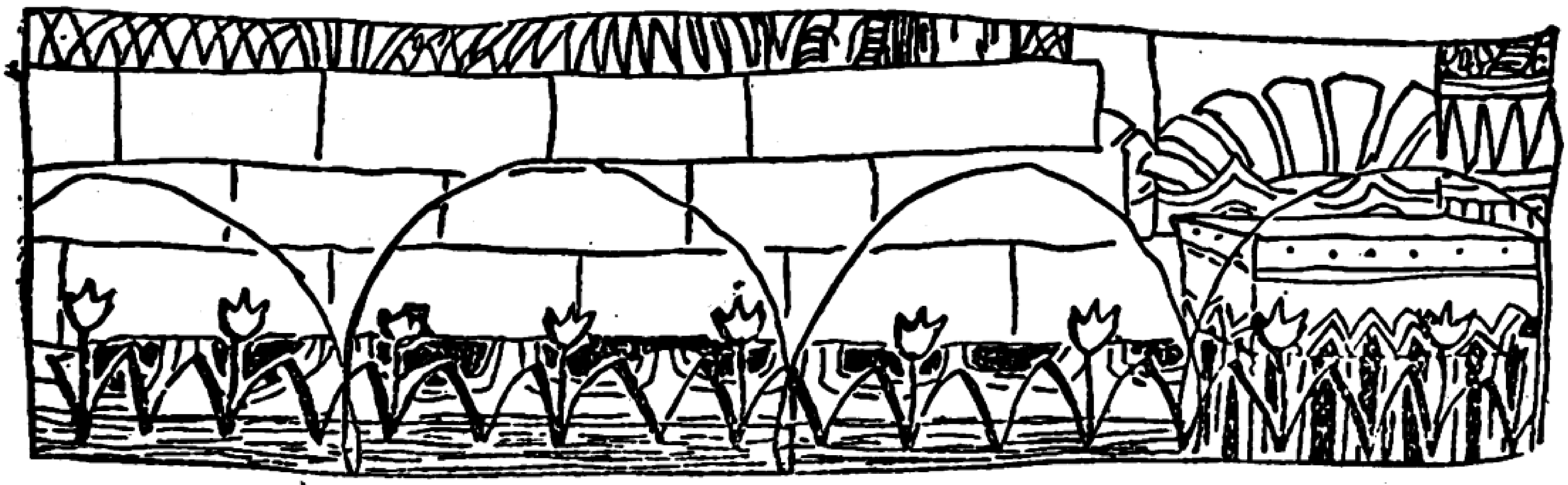
「え、お千代ちやん、何おごりませうよ」お冬さんはほゝ笑みを口の邊に浮べて私の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

顔を見るのでした。

——三月十一日——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

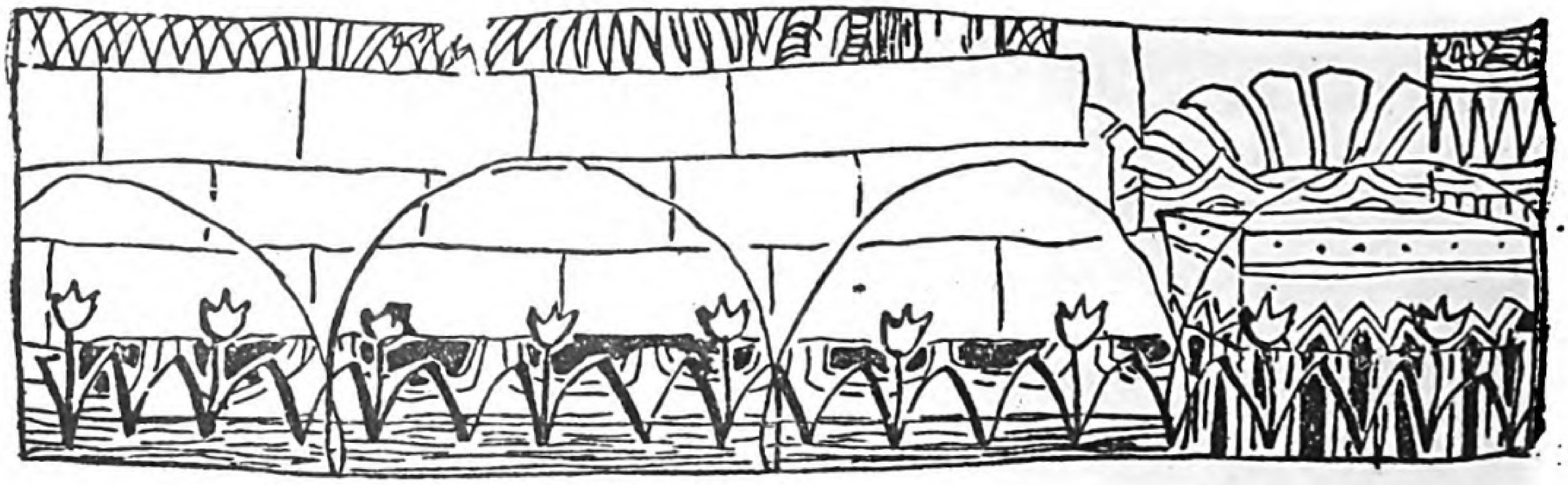


掌(たなそこ)の上の戀ぶみ ——柴田かよ——

少年よ
女の肌(はだえ)よりいづる
もの軟かき光を知れるや

むづかしき
飜譯ものを讀むほどの
心を持ちて君に對(むか)へり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



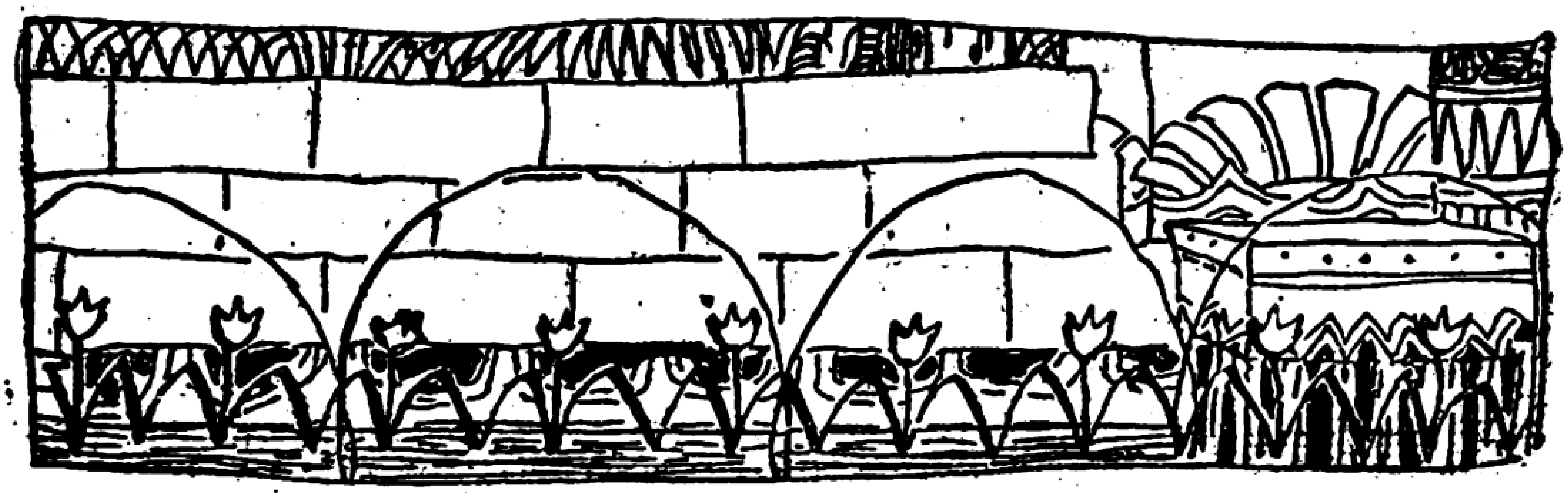
覗る氣にもなれず
讀まねば氣がすまず
わが掌（て）の上の君が戀ぶみ

ほろ〳〵と
うす夕闇を花がちる
戀人あらば逢ひに行かまし

我のみの
戀人あるはあつけなし
餘所の女よ挑みに來ずや

手にをえぬ
拗ね者とばかり思ひしが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



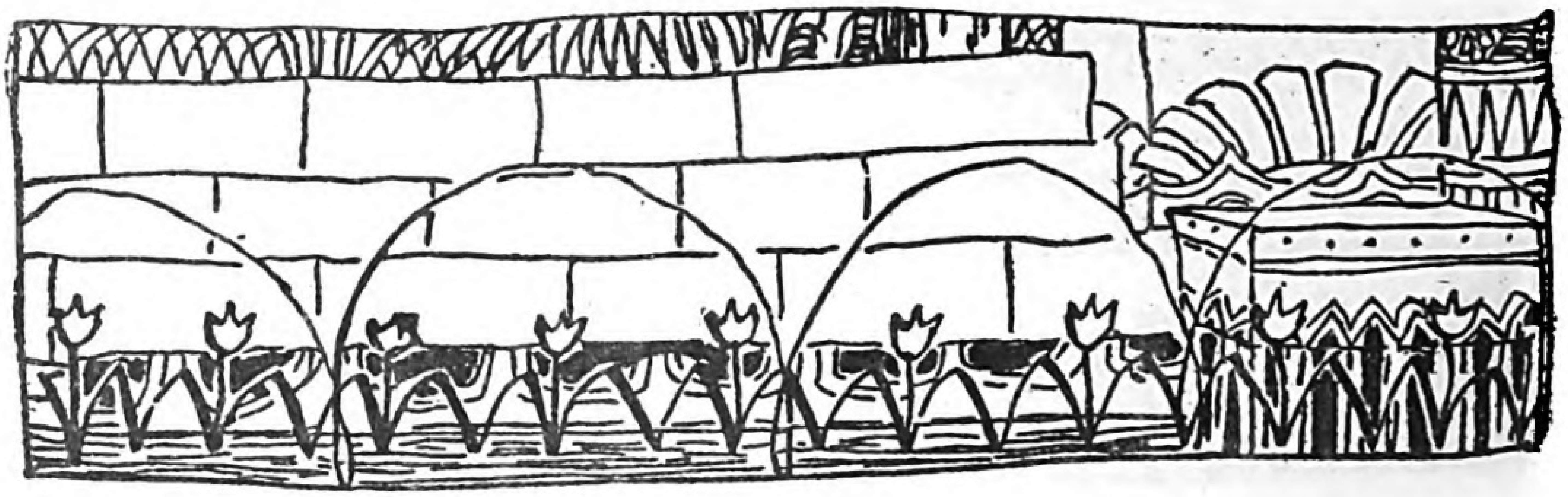
さほどでもなき我を見出す
逢引の夜に與えたる唇に
すこしいたみを覺ゆるもよし

手輕にて醜からざる死にかたが
ないものかとは
平素に思へど

心中をするほどならば
思ひきり
はでにせざれば死に榮えがせず

我が死後の人の心が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



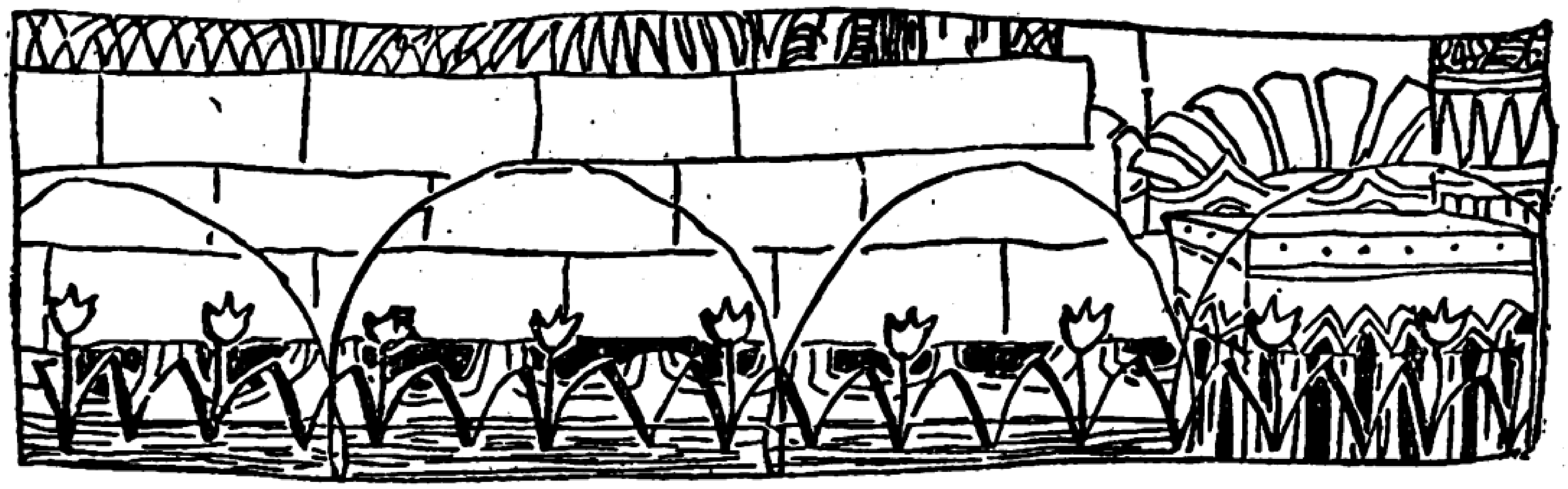
見てみたし
面白きことが随分あらん

些しばかり仲よくせしに
その妻が、目の色をかへ
文句言ひに來ぬ

如何にわれ好事と雖
そのやうな
野暮な男を戀人にせず

あらぬこと言ひましられて
女房に
詫びごとを言ふ男ならずや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



そのやうな
無能漢(いくじなし)にはそのやうな
無智な女がふさはしかるべし

悲哀なる滑稽(をこけ)といはん
三十の女房が聲をあげて
泣くなぞ

よし苟(かり)に戀はるとしても
それはわが知る事(こと)でなし
分らぬ女(ひと)かな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

氣色ばむ時——岡本かの——

男より疲れてかへる裏街も
すこし夜露にしめりたる頃。

今日もまた何故となく涙ぐむ
眼を伏せしまゝ夕となりぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美しさ若さをほこる寝姿の
心憎さはつと刺してまし。

くちづけの後のふたりの疲れたる
身をひとしくも寄せしおばしま。

をんなのみ持つなげきぞと知ればこそ
秘むれかなしくうらなつかしく。

いたづらに弱き男に打たれても
見よやをんなの意地強き手に。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かくてもなほ女の我の足下に
縋(すが)る男かあはれゆるさん。

同じくはねたきばかりに美しき
戀敵をばなど見せざりし。

我が男ほかの女と密事(みそかごと)
する彌生ともなりにけるかな。

春の風やや氣色ばみ出でゝ行く
人の後姿(うしろ)ゆるやかに吹く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛と結婚（承前）――エレン・ケイ――

一　性的道德發展の過程

（つゞき）

他の諸問題に於ける如く、結婚問題に於ても、ルーテル教は宇宙の論理的二見解―即ち羅馬教徒と個人主義的一元論者との間の一つの和解者であり、一つの橋梁である。

元來橋梁といふものは渡るべきもので、その上に立つべきものではない。

かの所謂「不道德」と目されてゐる著者の中にはルーテルやオーラス・ペトリ以上に性的生活の力を主張したものは誰一人としてゐない。兩者とも結婚なくしては貞節（モデステー）といふことは考へられないものと思つてゐる。兩者とも恰も食物が饑餓を滿足させるために神によつて與へられた手段である如く欲求を滿足させるために神によつて與へられた手段を結婚に於て見る。併し人間はなほ竊盜によつて饑餓を滿足させることが出來ないやうに不貞によつて欲求を滿足させる權利は有つてゐない。若し不貞といふことが結婚以外のあらゆる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性的關係の形式と同しものとされなかつたのなら、又貞操といふことはあらゆる結婚の形式と同じものとならなかつたのならこの說に對して別に反對すべき何ものもないであらう。

ルーテルはたとへ人類は結婚以外の性的行動を抑制することが出來やうとも、其感情や欲求迄も抑制することは出來ないといふことを敎へた時、彼は人間の本性に關して幾分の心得あることを示した。之に反して、彼はかの文化の創造物なる戀愛に就ては全く無知であつた。それ故に彼が獨身を難ずるために使つたその同じ說が同時にまた結婚を難ずるためにも使はれるといふことを彼は確に見落してゐた。何故なら夫婦間の忠實の誓は獨身者の貞操の誓が眞正の純潔の理由にならないと同じやうに眞の正實を傳へないから。眞の忠實はひとり戀愛と結婚とが同一の言辭となる場合にのみ生ずることが出來る。結婚に於けるルーテルの論爭の本旨は羅馬敎會の婚姻に對する思想より高尙なものではなく、單に僧侶と僧院に結婚を復興させたことに過ぎなかつた。我々はルーテル敎派の牧師館に對して、又それと共に田園生活の詩や、衆民の敎化や、幾多の偉大なる精神の產出に、又間接には熱情ある多くの自由思想家を造り出す上に偉大なる貢獻のあつたことに對してルーテルに感謝せねばならぬ。併しルーテル敎派の結婚に關する敎義は何の感謝にも値しない。といふのは――全體として新敎もさうだが――それは解すべからざる矛盾に近

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いものであつたから。羅馬教會や基督の精神なる、心靈の平和が欲するままに離婚を禁じることと、肉慾の制抑を要求することを維持せずして、ルーテルは人間本性の傾向を恃む彼の主張によつて、重婚を是認する程度の讓步を（聖書の敎へに少しも悖ることなく）敢へてした。宗教改革時代の粗雜なる意見は人格的戀愛の撰擇に何等の意味も認めてゐなかつた。單に自然的見地からあり得べき結婚に就いて言へば、それは何人と契約してもよかりさうなもである。實に純正の敬神者には神の愛を妨げる地上の愛なき婚姻に入ることがより高尚なもののやうに思はれた。結婚に關するルーテルの敎義は性的生活が正しき結婚なる白く塗られた墓場の中に隱蔽したあらゆる不淨のものに就いて神をして大目に見させた。彼は多產の命令の中に存する妻の殺戮者に對して、不善な結婚や、不純なる結婚によつて產出されたあらゆる價値なき兒童に對して眼を蔽つた。彼は夫婦の契を、最も賤劣な動機から、又は最も不自然な境遇の下で成立した夫婦でも、即ち病人と健康者と、老人と青年と、欲するものと、欲せざるものと、或は彼等の家族によつて結ばれたふたりの欲せざるものとの間でも總べて祝福した。今日、無數の婦人はなほ結婚に對するこの敎義の犧牲となつてゐるか、さもなければその無意識の結果の犧牲となつてゐる。彼等の用ひ盡されたる子宮は新發生にとつては瘠せたる土壤であり、彼等の壓碎せられたる魂は新意志の進步にとつて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は無用の擁護である。只一個の婦人が恐怖のために決然たる覺悟を以て彼女みづからを守るに對し、一方ではいや／＼ながら子供を孕み、又今もなほ孕みつゝある幾千の婦人がある。只一個の妻が愛の謙讓なる祈願者に見出されるに對し、一方では屈辱の感を以つて、結婚に關するルーテル敎の敎義によつて、諄々と敎へ込まれた權利を其夫の前に承諾する幾千の妻がある。併し時代の徵候はこのルーテル敎の敎會内にさへ明に見える。若し結婚が道德的なものと思はれてゐるなら、戀愛が――單に結婚の職務上の戀愛に就いての信條でなく――なければならぬと主張する青年達がそこに現れた。そして是等の戀愛に關するネオ、ルーテル敎の預言者達は多くの嫌はしい結婚を妨ぐ爲めに定めて其勢力を用ひるとであらう。併し彼等も、又彼等の說をきく會衆も最も卑しむべき理由によつてめあはされた夫婦を侮蔑の眼を以て取扱はうとは思ひ浮べもしない。又他の一方に於ては、若しふたりの若い、健康者が只彼等の戀愛によつて結合し、同棲し、生殖の命令を果すなら、實に其時こそ此夫婦は、――若き牧師その人から、然らざればその人の敎會から――法律によつて承認された性的連合が尊敬される唯一のものだといふことを、從つて、それはそのものの中の人格的戀愛の眞面目でなく、寧ろそれをして、男女同棲に關する道德的基礎として世間に認めしむるものは第一に社會の公印だといふことを不面目な待遇によつて、感じさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せられるであらう。又若し戀愛なき結婚に於て不幸に沈める人が自から逃れて、結婚の道德的基礎なる「個人的戀愛」に於て新家庭を造るなら、その時牧師達は「結婚の道德的基礎」を義務の基礎に急いで取換へる。

斯くの如く戀愛を性的關係の道德的基礎とする敎義はいまだ世間の裏書せざる言語上の成行に過ぎぬ。之れを實現せむとする試はルーテル敎國に於ける長い間の刑すべき犯罪であつた。しかもなほ恐らくは凡そ紀元二千年頃まで咎むべき罪過として取扱はれることであらう。

ルーテル敎の結婚敎義は――一般基督敎の敎義の如く――斯くして人生に關する宗敎の道德的思想によれば不道德のものとして終つた。何故ならその敎義は個人的道德の要求に從つてその人の戀愛を實現すべき個人の權利を許さないと同樣に、生活の最良の狀態に入種の權利を保護することもしないから。ルーテル敎の結婚の目的は戀愛の有無に係らず、彼等が共同の道德を安全にするために、彼等をして社會に對して子供を產ましめる爲めに、且又夫を稼人として留置く爲めに男女を結ぶことであつた。此目的を殘忍に遂行することによつて、敎會は肉慾に耽ることを拘束はしたが、純化するには成功しなかつた。責任の意識を發達させはしたが、戀愛の意識を發達させるには成功しなかつた。從つてそれより

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

高尚なる道德に對しては單に荒削りの材料に過ぎぬ。この荒削りの材料もなほ一般の使用には最も適したものかも知れないけれど、今後は益々精巧なる器具を人々は要求するであらう。

道德の新概念は漸次により偉大なる完全に向ふ人種向上の希望より生ずる。斯くしてこの進歩に最も役立つ性的生活の是等の形式は新道德の基礎となる。併し關係の性質はひとり其結果によつてのみ決定し得るが故に、人生に對し信仰を保持する人達は性的事件の場合に於ても亦條件的判斷を適用するであらう。或特殊の場合の道德を決定し得るものは只同棲のみである――換言すれば共同生活を營みつゝある各個人の生命、若しくは人種の生命を高める力如何による。それ故に公認は前以て如何なる婚姻的關係にも――子供に關する例外はあるが――與へるわけにも、與へないわけにもいかぬ。總ての新夫婦は、よし彼等が彼等の同棲に對して撰ぶ形式は何であらうと、其道德的要求を彼等自身で經驗して見ねばならぬ。

曾てルーテルの出現に際し、不道德として彼を非難した如く今や同じやうな人々から不道德と呼ばれてゐる新道德は即ち是れである。不道德といふことは羅馬教の世界に於て繰返されてゐる判斷であつて、なほ今日もルーテル教の社會内の「自由戀愛」の信者に注がれ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てゐるやうな同じ詈罵がこの「不貞の僧」の上に聚められてゐる。ルーテル教の現代自由主義の徒に對する問題は道徳事件に於ても信仰事件に於ても退却せむか、邁進せむかの二途にある。即ち絶對的教權の固き地盤に歸らむか、然らされば自由實驗の橋梁を越えて、純個人的信仰の未踏の國土に入らむか、離るべからざる結婚に歸らむか、然らざれば壓迫の橋梁を越えて、戀愛の權利を獲得せむかの二途にある。一貫せる思想の正しき進路は第三の道のあり得べきことを許さぬ。

結婚に對する新新教徒(ネオ、プロテスタント)の教義はルーテルの教義より更に不條理なものである。彼等は戀愛の肉慾的方面を許可する點に於て彼と一致し、又人間生活上、戀愛を蔑視せざる點に於て同時代の人々と一致する。併し彼等は兩者に對しすゝんで制限を置くに當たつて、自から守りがたき境地に陷つた。

彼等が自からこの守りがたき境地に陷つた所以のものは、結婚前又は結婚後に强ゆる自制のためでなく、(生命の最終の增大に對する一切の準備は生命の一時的抑制を含む)寧ろ彼等が要求する自制が生命の最終の增大に報ゆることなく、却て高度に妨害するやうなそんなものを多分に含み過ぎるからである。何故なら彼等は戀愛の性的關係を種の繼續事業に、人間生活に於ける戀愛關係を一夫一婦に限定するから。新生活に對する責任を自から負

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふに適しないもの、若しくは之れを好まない夫婦は自然結婚しながら獨身の浮目を見ねばならぬ。又、一度戀愛によつて結婚した夫婦は戀愛消滅後もなほ其關係を維持せねばならぬ。

是等の要求はルーテルによつて反對されたものよりも更に人間の本性に對して殘忍なものである。完全なる獨身は結婚せるものの獨身よりも容易である。心靈の要求は官能の要求よりも强い。とは云へ、若し是等の要求が性的見地から眞により高き存在に資するところがあつたのなら、この苛酷な要求を定めることをも妨げる筈はない。併し人生の現實を無視する人々のみが、(そして基督教徒にはよくさういふ人がある) 同時に人格的戀愛を性的道德の基礎と定め、しかも其權利を道德の或範圍内に限ることが出來る。

今や文明によつて發達した爲め、人格的戀愛は人生に於ける偉大なる資産を (人種に對するその使命に係らず) 戀愛そのものの中に有するのみならず、なほ又他の一切の價値を高下するやうなそんな廣い複雜な、又含蓄多きものとなつた。人格的戀愛は其最初の意義以外に一つの新意義にまで到達した。即ち生命の火焰を子々孫々に運ぶといふことである。誰れ一人として失戀の結果、結婚して人種を繼續することを絕つ者を不道德呼ばゝりはしない、又たとへ子供のないことが知れても戀愛によつて幸せられた結婚を繼續する夫婦は不道德とは云はれないであらう。併しこの二つの場合に於て、當事者は人種を損じて、彼

等の主觀的感情を守り、戀愛それ自身を目的として彼等の戀愛を取扱ふことに與みしたのだ。是等の場合に於て、既に人種の損失として各個人に許された權利は今後益々戀愛の意義が成長するに從つて擴張されるであらう。是に反して、新道德は新生涯がそれを要求する間、戀愛の權利に對して常により大なる有意的制限を、且又新生命の價値を減ずるやうな事情のもとにあつては、其產出の權利に對して有意的、若しくは强制的拋棄を戀愛に向つて要求するであらう。

新（ネオ）、新教（プロテスタンティズム）の結婚教義はトルストイの教義の如く、結局、性的生活に對する制欲主義的不信の上に確立してゐる。どちらの教義も肉慾的方面が全く人種の職務として置かれてあるより以上に高められやうとは考へても見ない。この見解は一切の基督教徒の道德的槪念に最後の決定を與へるところのものである。基督教は地上に於ける人間生活の目的は永遠の存在者として人間を發展せしむるにありとする知識によつて支持されてゐる。それ故に人生の表現は何一つとしてそれ自身を目的とすることは出來ないで、必ず、地上の人間生活並に、個人の幸福――否、人種の幸福より以上の高き目的に奉仕せねばならぬ。

性的道德の根據が彼岸の生活の上に置かれた時、それは人種繼續と其連絡を失ひ、斯くて、それみづから矛盾の中に陷つた。基督教が間接に戀愛の靈化に對し少なからず貢獻し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たにも係らず、未だ決して個人の要求と人種の要求とを、又心靈の願望と官能の願望とを結び付ける點に於て成功しなかつた理由は即ち是れである。人生の意義は個人によつて、全人種の生命の形式を益々より高き方向に發達せしむるにありとする信念によつて決定されたかの道德的標準のみが一切を包含するものであらう。此標準は心靈を肉慾の束縛から解脱させることを默想する道德の如き、即ち東洋の制欲主義の大師の如き如何なる制欲主義をも重んじないであらう。唯それは心靈と肉體の意志間の統一を絶えず增進させるやうなさういふ自己鍛錬の要求を是認する。實に斯の如き自己鍛錬はより遠く、より大なる善のために、より近く、より少なる善を否認する。併しこの道德的標準は、この善なるものを、官能を漸次に脱する制欲主義の靈性に見出すにあらずして、他のあらゆるものの如く戀愛の國土內にあつて、心靈的官能を增進することに、若しくは官能的心靈を增進することに於て見出す。この心靈の寺院には險しい山路が通じてゐる。その小路はよし一歩、一歩はいかに苦しからうとも、一直線に目的地に達する。又心靈的官能の生活は迷路によつて導かれる一つの密室である。ここは一歩、一歩の困難は少いが、全旅程に亘つては無限のより大なる危險と刺戟とを含んでゐる。今日まで最强者の外惹き付けなかつたのはこの理由によるかも知れぬ。——最强者は快樂を斷じて拋棄しない、何故なら彼等は拋棄することに

於てさへ快樂を見出すから。後の目的地に至らむことを求める人にとつて、唯一の道德的標準は――只人間の性質は複雜だといふ丈の理由から、適用されぬことは明かであらう。例へば青年期に於ける禁欲は、十人の青年中九人を强めるであらう。併し十番目の人は獸的衝動の人に變化し、たとへ結婚前は純潔であつても、結婚後は粗野となり、邪惡となり、妻までも彼の水平面に引き下すか、然らざればふたりの間に深淵を開くであらう。純粹の官能的結合は十の場合九ツまで男女いづれをも墮落させるであらう。併しその十番目の場合に於ては斯樣な關係は二人の生活の方針を決定する一の感情を切にし、其結果たる結婚は、幸福の保證を與へる唯一のものとして考へられてゐる法律によつて結婚生活に入つた多數の若き夫婦の前途よりも幸福な、より善き前途を提供するかも知れぬ。斯くの如く十中一つの場合に於ては、一個の青年が結婚する迄純潔に其身を保つた戀愛が眞に人格的戀愛だといふことはあり得べきことである。併し他の九つの場合はこれに反して、あらゆる戀愛中最も非人格的である。斯くして十中九つの場合は、かかる結婚より生ずる樣々の失望が義務の觀念によつて堪へ忍ばれるといふことも又あり得べきことである。さうすればそこに人格が成長するから。又その十番目の場合に於ては、誤謬をそのまま固守する結果、人格の滅却を來すであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

結婚前の完全な純潔と、結婚狀態に於ける人格的戀愛とを道德の標準とす人達は――正しくはあるが――これに似通へる無數の經驗から如何にせば結婚前も、結婚後もこの純潔といふことが最もよく達せられるか、又人格的戀愛なるものは果して何を意味してゐるかを萬人が各自の爲めに自から定めることを覺悟すべきである。この所說は結婚の神聖を利さうとも、害さうとも、何等の意味をも有つべきものではない。又もし、この所說が結婚生めに於ける神聖を意味すべきものなら、それは又結婚繼續中も同樣の神聖を意味せねばな活の始らぬ。併しどれほど久しくその結婚が人格的戀愛によつて神聖にされてゐたか、又は何時それが絕えたかを知るものは只個人その人のみである。誰れ一人として不神聖な關係を持續する義務を負はせることは出來ぬ。それ故に新、新教は人格的戀愛が結婚の道德的基礎であり、又無條件の忠實が道德的人格の表現であることを宣言せねばならぬ。

是等の問題に於て、一元論者は其道德を承認するに當つて、性的關係が第一のものだか、又は唯一のものだかといふことは問はぬ。彼が只知らむと願ふものは戀人の人格を無視しなかつたかどうか、又「心靈が官能を、官能が心靈を裏切しない夫婦」だつたかどうかといふことである。

右の言葉で、ジョーヂ、サンドは新貞操の觀念を與へた。　らいてう譯

ホイツトマン論（つづき）——エリス——

四

ホイツトマンの說ける「愛」は、全く個人的の事實にして、彼は抽象的人格又は相關連せる人と人との義務につきては一言も言及せしことなし。彼にはしかく異常なる概念の組織され與ひし事實だも認られざりしが如し。彼には人類との關係は、槪して彼と少數の人々との關係より生じたり。然して彼等の肉に觸れて、その全身を通じて、接觸の不可思議なる反響を感じたり。

凡の男女に近く有りて彼等を眺め、
彼等に觸れ、彼等の香のうちにある時。
魂を樂むるもの、有り。
凡の物を魂はよろこべども、
これらのものぞより樂しけれ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この個人的に親しみある事實は、彼の德性の凡の耀き出でし中心點にして、抽象の人格につきて何等の觀念も有せざりしも亦事實にて、彼には自然の幻影は、神の存在を示さゞりき。彼にありて神は一の文字にして、生けるものには非ず。且藝術に對しては最も冷淡なれ共、而も性の衝動より出立して、不思議に豐かにして生氣ある感動的性質に根ざしを固め、多くの戀人と友人とを容るゝべき、偉大なる道德の核心の殘れるなり。

この道德的要素は、性及肉體に對する彼の態度の中心をなせる一にして、激情の嵐過ぎ去りて、凡の物の快き、この戀せる者にありては、戀されし者の肉體に於て不淨なる不潔なるものは何物もなし。我等の多數は常にこの權威の下にある者にして、道德的本能の旺盛なる人にとりては、凡の人事はこの無限に廣き範圍に包まれ去るものなり。この人の憐愍はその愛せる者の情を分つ凡の生物に臨むが故に、斯くて彼が尊敬と愛とをもつて觸るゝ能はざる如何なるものも人には存在せざるに至るものなり。Leaves of Grass はこの道德的要素をもつて貫かれたり。我等が基督の全盛なりし日に歸りて、セント、バルナードがその柔にして熱烈なる注意を以て自然界を觀測し、人類を「惡臭を有する蛙、屎袋、蟲類の食料」なりと言明せしに思ひ到る時に、彼のこの態度の如何に基督徒のそれより遙かなるに驚か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ざるを得ず。

ホイットマンの態度に於ける他の一要素を彼の藝術的要素とす。この要素は彼には二重の根底を有せるものなり。即ち和蘭より來りしその民族の血は、英民族のそれと等しく、彼を形づくれる大なるものにして、彼の蘭人統はその藝術的態度に於て、重に表現せられたり。

和蘭民族の藝術上の功績は、十七世紀に於ける彼等の繪畫にありて、それらの作家をとりまける男子、婦人、子供等の社會的或は生理的行爲を愛と信仰とをもつて最も冷淡に描出せる事實に有りき。彼等の現實的なるに於て、決して彼等は斥けらるべからず、又色彩と光とは彼等の作物を光づかせたらむも、尙自然の最も平凡なる樣はその最も大なる光輝を形づくりたりき。これ即ち蘭人の藝術の殿堂にして、かゝる特性を有せる藝術は、他には世界の各れに於ても存在せず。ホイットマンの藝術に於てのみ我等はこの要素の彈力なく切れ〳〵の斷片となり且他の附加性の要素によりて縱橫されたりとは云へ、尙不斷にして僞なき再現を見るものなり。

彼の態度に於ける彼の他の藝術的一要素を近代的のものとす。これを彼が意識なくして、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼の火山性の精力をもつて藝術に於ける近代傳説を破壞することなくして、却つて之れと結合せし唯一の藝術的要素とす。これ即ち屢奇怪にして神秘的なる色をもつて彩られし自然に於ける性の幻像の追求とす。ロセツチはその Nuptial Sleep に於ての如く常にこの性の幻影を巧妙なに取り扱へり。

凡の嵐過ぎ去りて、
終にのろき一滴の、
光れる檐より落つるごと、
わかれ〳〵におの〳〵の
胸の鼓動は衰へぬ。

然るに I sing the body electric に於てホイツトマンはより以上の美と豪膽とを以て戀の終を讃美せり。

戀に亂れし花聟の「夜」は、
力をこめて柔かに、
打ち伏せる「曉」をだきよせて、
うれしげに逆はぬ「日」になし上げて、
執着強き肉の樂しき「日」の、
擁抱のうちに葬られぬ。

或は又その驚くべく鋭利にして、寫實的なると共に又想像的なる Faces に於ては、百合の顔は彼女の願は白味を帶びたる蜜をもつて滿されてあるべきことなると云へり。この人は正しく、その人にとりて性の不淨なる人は、自然に於ける花の美を認めずと云ひしトローの深き意味ある格言を痛切に感じたり。彼は人類と自然の「生」の同類なるべきを云ひて、その Spontaneous Me に於ては驚くべく均衡せるリズムに於て兩者を混同して用ひたり。凡の男女の生命は、世界の何地に於ても、彼に快き物の香を各の周圍に滿せる故に彼にとりて捨てがたきものなりき。

果物の香、島の匂、
溢れる森の香れると打ちする波の匂へると……………

彼がこの趣味に沒頭せる時に、彼は不可思議なる混亂の中に彼自身を失へることあり。かゝる時に於ける彼の印象を記錄せし文字は病的の色彩を帶べる纎布の類に外ならず。

その他彼の態度に於て我等は第三の要素を認めざるべからず。彼が始よりこの肉體の把捉に於て、我等が不正確ながらも學術的究極とも稱し得べきものを有したりしは明かなる事實にして、この目的はそれが起せし猛烈なる反對と、彼が後日の作 November Boughs に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

於て、若しこれらの數句の省略せられんか、その一編の大半は書かれずして終るべかりしほど、これらの數句は彼の全計書に生命を與へしものなるを云ひ張れるその片意地とによりて見られ得べき重要なるものなりき。彼は自身 A Memorandum at Venture 及び Specimen Days and Collect 等に於てこれを推稱せり。宗教と政治とに於て、我等は金錢をもて左右し能はざる自由と誠實を獲得せり。然れ共其性の圈内にありては尙我等の道德的社會生涯のそれと等しく、全く開拓のあとなく、寧 Pliny なる文字が特別なる風習に於て性の象徴と看做されたる女性との不淨なる接觸と看られしが如く、中世の基教が不斷ならしめし不純なる傳說存在せり。何故に學術の快き微風はこの地を惠まざりしか。何故に「自由と信仰と熱誠」とはこの圈内に導き入れられざりしか。生命のこの一端に對する我等の態度は又我等の生に深き關係を有するものなり。

この事實を證明せんには、我等は先づスウキフトの Strephon and Chloe を繙かざるべからず。この書に於ては、一種の古典的形骸に於て、肉體に近付く一種の情緒の變轉を、明に且大胆に描出せられたり。即ち一人の男子と一人の女性とのその成婚の夜に於ける瑣々たる經驗を物語れるものにして、事件そのものは取るに足らざるものなれ共、我等の趣味はその彼等が告白せる態度に有り。その主人公の疑なき誠實は人生の單なる日常生活を記

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

錄するに當りては不潔なる戀の狀態を全く忘却し去りたり。然して、スウキフトは自由なる理論の形に於て、今日に到るも我等の多少はこれを眞なりと認むも且又伴らんとする、彼の主張を述べたり。我等の本能は斯くの如くにあらざれば書き記し能はざるか。何の故に我等は「頭部と胸部とに於けるが如くにその腹部をも自由に觀察し能はざる」か。これ即ちその A Memoarndum at a Venture に於てホイツトマンか我等に答へんとせし問なりき。彼のこの陳述は恐らくはその後年の感想にして、然らざれば彼はその企圖をより全くより強硬に實行せしなるべし。

如何となれば、我等はホイツトマンさへも十分に我等の肉體の美と清淨とを眞に認めたかりしかを疑ふものなり。彼の科學の根底は彼の道德的、或は寧藝術的根底よりもより深きものには有らざりき。彼の物體の詩的把捉は大に必要なるものなれども、尙科學的基礎は全き了解なかるべからず。スウキフトにより病的にして大袈裟に主張せられし中古の遺物たる唯神論は常識ある人の見解によれば中古唯神論の無意識なる影像たる無知、即ち換言すれば古代の而も尙野蠻性の殘れる傳說的宗敎の概念の上に於て形づくられたり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

我等の近世科學の立脚地より、若し新しく眼を開かば、我等の生の不思議なる旋道は永遠に清く汚れなきものにして、嫌厭若しその間にありとせば、そは肥滿過ぎて美を愛し過したる人の頭腦に於てのみ橫はれるものなり。基敎の中心をなせる聖餐にある肝要なる自然の意味を見出さんと試みし或人は、主の終の晩餐は、人の命となるべき日常の麪包と酒とに對する愛を神聖なるものとなす爲に、食物の聖なるを現はすべき試みなりしことを見出せり。かゝる自然の聖餐は凡の所に於て、又の肉體に組織中に巧に織り込まれ有りて、身體の凡の美はある肝要なる表現に外ならず。

これらの關係は時としては認められ、一種の不可思議なる直覺によりて實現せられしも、尙且科學が理論上の基礎を與へし以後の最近數年のことに過ぎず。我等男女の全身に編み込まれたる永遠に驚くべく愛すべき性の遍在の作用なる、この「生」の重要にして中心をなせる職務は、我等の「生」の凡の職務の最たるものなり。如何なる部分に於て觸れらるゝとも、その反響は多少の意識を有する敏感なる人々には、必要と目的と、無限の魔力を有する情緒の結合とを含みて、その全身を通じて響き渡り、それに對しては我等の淺薄なる批判を設くる能はず、又一歩を進みて、この鍵に於けるこの鐶は醜くその鐶は美なることを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

斷言するは不可能なり。人の特質の不同なるより生ずる結果と道理なき嫌厭は尙多くの考量を要するものにして、その中心に到達するは難事なれ共、一時凡の人々によりて嫌厭すべきものとせられしものも、一定の原因とする處ある者は、旣に科學によりてその存在を阻まれたり。即ち我等の道德的藝術的向上の希望は、ホイットマン及その他の人々の主張せし淸淨なる感覺の發育のうちに有るものなり。

五

Leaves of Grass の背後にはヲター、ホイットマンその人の人格毅然として立てり。之れ即ちその書の有せる魅力と權威にして、彼の用語に從へば、この書は實に一の人格の記錄なり。

こゝにこの一人は、物理的、心理的、道德的、美學的の彼の本性の、彼が嘗之れを受けしがまゝの、嘗て世界の大野に於てその生せしまゝの新鮮にして僞らざる描出を與へんと務めたり。この描出は、米人にして尙かの the Avenue d'Eylau（千八百七年ナポレオン配下の佛人と露人普魯士人の同盟軍の間に戰ありたる古戰場）に於て世界の上に座し、その巨大なる喇叭を通して勇く叫びし偉大なる佛人を思ひ出さしるものなり。You felons on trial in Courts の尊き數句は直ちに To him that was crucified の句を伴へり。而もこれらの修辭上の絢爛はこの反響の價値を損することなし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一人格の自己の反應は價ある且永續性のものにして凡の藝術の欲するは此の點に有り。凡の成功せる强固なる根底ある宗敎は、多少不透明に見らるれども、尙明らかにこの人格に基をおくものなり。人の腹藏なき記錄こそ作物に生氣ある氣力をあたへるものにして、Leaves of Grass の權威はこゝに存す。

この緊張すぎたる文明に於ける——又實に文學に於て働き、且それによりて反動されたる「生」に於ける——文學の傾向は一方にありては、贋皮肉には僞善と稱せらるゝ、現實と辯論の主張との分立、即ち表現の技巧に有ると共に、他の一方に有りては、淺薄にして狹量に、精錬に過ぎたると同時に、ヒステリカルにして綿密に過ぎたる理想にあるが如し。我等は靑年時代に於て、これらの Tartuffes(精錬或は風雅にすぎたるもの位の意)を通じて自然を見る能はず、成年となるに及自然の爲に或は文學に於け るその實寫の爲に甚しき渴仰を感じて、遂に Leaves of Grass の如きかゝる泉に至りて渴を癒し、又古の Antaeus の如く地に觸れ、自然の盛んなる氣力に觸れより强からんが爲に、頭を低ぐるものなり。

我等は宇宙の全構造は、饑と愛との巨大なる圓柱の上に最も宏大に建設されしを認め、その本源を拒み又薄弱ならしむるを求めざるべし。現存の具體的言語に於ては斯くも抽象

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

的なる眞理を表現しつゝ、一の新しきパラダイス――この世界それ自身なる――に於て、一のアダムは時としては靜なる禮讓を以て、時に有りては妄想のうちに叫びつゝ歩み廻れり。

我が過ぐ處に我を見よ、
我が聲をきゝ、近づけよ、
觸れよ、御身の掌をもて、
過ぎ行く時に我に觸れよ、
我が身體を恐るゝなかれ。

彼は人類の間に「新しき一の喜と粗暴とを散布せり。彼は地の廣大と野鄙と之れに於ける性の區分と、地の慈愛と又その均衡に對して、人類の眼を開けり。且その勇しき男性的なる愛に於て彼自身の人格を擁護して、「神かけて、余は人々の同じ複本を有し能はざる何物をも受けまじ」と確言し、凡の所に於ては滿足と勝利にみたされつゝ、セント、フランセスがその快活にして謙讓なる基教の方法によりてなせしが如く、大膽なる熱情と誇ある精神に於て、凡の人を抱きたり。實に彼の書き著はせし凡は「男も女も、人は如何に大にして選まれたる樂しき眞なるものなるよ」との絶叫に於て盡く。――終り――

榊　纓　譯

夜の女――原　阿佐緒――

春寒き女ばかりの夜の家にかなしみの灯のうすくともれる

こほろぎは-また啼かずなり死を思ふ夜の女に風のかなしき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

蒼暗き夜の玻璃戸に黄なる灯とかなしき顔の
にじめるを見る

泣き止めて見入る夜の月かすかなる痙攣おぼ
ゆぬれし瞼に

わが心戀にかはれといふごとく紅きダリヤの
灯の前に咲く

文かくもうしやひとりの夜を默し眼に湧き來
なる涙を待つも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なぐさまぬおのれひとりを夜に晝にながむる
ことの堪へがたくなり

湯づかれのたゆき身を投ぐ晩秋のうすらつめ
たき枯草の上

戀とし も定めずあらむとこしへにかたる日見
る日なしとする世に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

超脱俗觀

——上野 葉——

トルストイの「復活」の中のヒロインの人生觀が面白いと思つた。

ネフリエードフ――二十一二の血氣な公爵――が伯母の家に論文をかくために一夏を過してをる間にカチユーシアと呼ばれて小間使はれてゐたマースロワの小娘盛の美しい薔薇の蕾の様に輝いてをるその皮膚と魅倒する様なチヤーミングなその瞳と煙の様に卷かれたその金髪とそして純潔無垢な彼女の血の氣の多い高潔な愛情の發露が若公達の胸奥に花やかな美妙な印象と響とを刻みつけてそれが遂にマースロワの脈搏にも感應せずにはゐなかつた。二人は初めて美しい人生の歡樂境を知り初めた。そしてそつと花かげに人知れず手を結び合せたり會堂の神聖な集から散つて行く群集をやり過して神の知召す神聖な恥らひ勝な接吻に血を沸かしてをつた間は二人ともそれが如何に幸多き美しい高いものにほゝ笑まれ憧憬し居たで有ろうか。わけて男の遜謙な小心なラブの態度は女に取つて頼もしい眞實

な懐かしさを感せしめないではゐない。霞を隔てゝ見る空の床しさ薄絹を透して匂はせてをる柔肌の神秘さ。これがなくてはラブは單に索寞なものになつて了ふであろう。若い男女の詩心。それから生れて來る藝術鑑賞。一つとして此神秘に出立せないものがあろうか。星や菫や。彼等は此神秘を常に餘る燃立つ様なラブレターに訴へるであろう。或は人間の造つた文字の中から一番美しい痛烈なものを探し出して春の野に小鳥が唄ふ様に讃美もあるであろう。或は神秘の釀す神秘な惡戯に翻弄せられて愁恨の咽び泣く悲曲をも奏づるであろう。血を見なければ止むまじ、慘劇の幕も開かれるであろう。が二人は幸福な清美の機微に捕へられ神秘の閃きに醉はされて了つた。其處にはたゞ神聖な清淨な花園が展開せられ人生の奥義がほの見えてゐた。神秘を喜ぶ若い人々は此人生の春に咲き亂れてそゞろ心をそゝり立てる百花の巷を憧憬れてこれぞ意義ある最高觀樂境だと喜びとほゝ笑とを捧ぐることであろう。が一旦軍隊の放縱な生活に無垢な心を傷つけ初めたネフリユードフが再び彼女を見た時は最早神秘な憧憬は獸性を暴露して來て遂に美妙な羈を破り箝を剝いて直に肉薄した。マースロワは流石に戰慄した。そして汚辱を感ずると共に虹の樣に美しいと思つた公子の情は單に此處に到る道程に過ぎなかつたかと憤怒を抑へることは出來なかつた。これをしも醜行の極だと考へた。公子自身も亦純潔無垢な彼女に對する過去の憧憬

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は美しい高尙なものであつて最後の行動は我ながら恥づべき卑しむべきものだと是認した。そしてそれを恐しい惡罪として彼は百ループルを彼女に握らせて一時の贖罪をして忘れて了つた。

マースロワはこれを手初として男の同じ樣な目的物となつて散々に苛まれる事が度重なるにつれて彼女の苦い戀の經驗は遂に次の樣な人生觀を築き上げた。

有ゆる男の最上の快樂は老人も靑年も學者も文字あるものも無いものも誰れでも彼でも凡て好いた女と肉の交際をするのが何よりである。此以外に大した高尙な快樂が有る樣な顏して冷してゐるものでも口頭では何と云はうと內心の掛値の無い本音を吐かせれば矢張これだ。………此世界は色慾に渴ゑてゐる餓鬼の寄合で女ほしさに囈言を吐いたり腕力を奮つたり金子を費つたり智慧を搾つたり有るだけの方便を盡して浮身を窶してゐる………

此信條に立脚してマースロワは平然として花柳社會に身を投じた。そして十年を經た後になつて公爵が彼女を誤らせた前非を悔いて獄に繋がれてゐるマースロワの冤罪を救つてやつてそして斷然彼女と結婚しようと云ふ決心を打明けた時にマースロワは何と考へたか。何うせ男の目的物となるのだから誰れと結婚し樣と誰れと駈落をし樣と結局同じことぞ

だ誰れで彼でも勝手に何うでもすればいゝ。選擇する價値は一つもない。
これだけ捨鉢な赤裸な人生觀には勿論貞操なんかと云ふ觀念は何の意義も價値も認める事は出來ない。しかしこれ程のドン底に戀と云ふものを呪ひながらも流石に若かりし日の神秘な思出が不圖彼女の胸底を襲つて來た時に荒み果てた血潮が一時に颯と沸返らずにはゐなかつた。とはいへ二度彼女の多くの經驗を振りかへつて見た時に遂に汚い醜いものに過ぎないと斷定せざるを得なかつた。否作者は。シモンソンをして「肉の伴はない神秘こそ神聖な美しいものである。一度それが肉の餌となつたならば既に已に墮落してをる下等なものである。從つて生殖と云ふことは最も下劣な本能だ」と叫ばしめた。

由來戀愛の神聖を叫ぶ者が有り罪惡視する者が有る。且又戀愛と云ふ詞の內容について多くの曖昧が無いでもない。戀愛が特に男と女との間に交流する特別な神秘だとして見れば戀愛と云ふ言葉には生理的の意味が無ければならない。

凡そ造化の意地惡い一切の現象は一つとして無意味に空存させては居ない。たとへば欠伸一つにも橫隔膜の要求が潛でをる。況して戀愛と云ふ大事件を與へてをる。亦大に慮る處有つてに相違ない。論より證據。美しい靈的神秘は多くの場合何時まで純潔が保たれようが。マースロワが經て來た現實は悉く所謂醜行を暴露してをる。何のために美しい花は

咲くので有ろうか。蓋し自然は何者かを期待してをる。靈的不可思議な戀愛と云ふ神祕の奥には果して何者をも潜在させてゐないだろうか。戀愛の靈的神祕は人生の花で有つて肉的神祕は果實で有るとは已に業に遠い昔から相場の定つた議論らしい。

旣に人生の前提であり結論である戀愛は到底生殖と云ふことゝは永世不離の眞理たる事を否認するわけには行かぬ。實際マースロワの人生觀には拔くことの出來ない原理を含で居はすまいか。

この二にして一である靈と肉とが一つは高尙で有つて一つは野卑だ。一は美人一つは醜だと云ふ差別を設ける理由が何處に存するか。殊に生殖と云ふことは生物が享有してをる絕對能力として觀じた時にそれを肯定するのが果して罪惡で有ろうか。そを否定するのが果して罪惡で有ろうか。單に肉的快樂を弄ぶものに至つては論ずるの限りでない。

若も自然界に春が無かつたら何うだろうか。花と云ふものが無かつたら何うだろうか。若も人生からラブと云ふものを拔きにしたら何が殘るだろうか。一切の生活慾、一切の事業、一切の經營、一切の藝術、これすべて生殖本能の變態に外ならぬ。そして吾々は此神祕に憧憬し耽溺し努力して兎も角も生殖境裡の人となつて行くのである。そして遂に一職業婦の人生觀と餘り大した徑庭を見出すことは出來ない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

人生に戀愛と云ふことが偉大なる事件で有つて其事件が産み出す餘儀なき運命がこゝに複雜な紛糾した、しかも極めて簡單な生殖と云ふ經となり生活と云ふ緯となつて燦爛たる生命有る一幅の綾羅(?)が織り出される。私達は戀愛と云ふ美酒に醉ひつつ生きて行くので有る。將其強い香から醒めて生きて行かねばならぬ。然り此眞紅な花やかな經と暗憺たる緯とは絡み絡んで不可思議な色彩を持つて私達を遠永から遠永につないで行く。

醒めたる現代の若人達よ私達は戀愛の神祕を讃美する傍、生きて行かねばならぬと云ふ問題を露の間も忘れてをることは出來ない。自分で生きて行く! 此不粹な生活問題! これが華やかな戀の背後に立つて黑い大きな手を擴げてのしかゝつてをるではないか、恐しいことには醒めた現代の人々の頭の中にはかの盲目的な神祕的な狂熱なお七の戀を羨みながらも冷かな打算が黑い手をさしのべてそれを打消そうとする悲哀が有る。封建制度世襲制度の時代には主君からの當てがい扶持だけはどんな白痴の息子でも何んな狂亂な世嗣にでも間違つたことはない。それ以外生存競爭と云ふ殘忍な幕も開けはしなかつた。斯る時代に生れ合せた若い男女は悠々として春宵千金の夢を欲しい儘にすることも出來たろう。親や子の飢をも顧慮することなしに美女の手を携へて死地を覓めることも出來たろう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

現代の若人達は不幸にも煩瑣なる思惱に想まされつゝ有る。右顧左眄彼等は到底一直線に走り得る程の單純を保つては居ない。近頃或若人は。

現代は寂しからずや觀樂の酔にゐて猶予算を思ふ。

と悵然として長歎息を洩してゐた。これが現代のラブの眞相では有るまいか。

勿論どんな男にでもどんな女にでも兎に角異性の神祕を床しがる氣分は燃えかをるに違あるまいが男も多い女も多い其中から相思と名の付く幾組かゞ組合はされて行く機微を捕へて考へて見た時に、そこに多くの疑惑に行きつまらずにはゐない。

抑も彼等には何か動機となつて戀は成立つてをるのだろうか。匹夫匹婦の戀も有り。成金の戀も有り。政治家の戀も有り。將又詩人藝術家の戀も有り。一概には云はれないとしても個人の境遇と内生活の貧富とによつて大體は左右せられて居はすまいか。男の女に求める處と、女の男に求める處とは今の時代に於ては確に餘程の徑庭が有る樣に思はれる。

そは彼等の境遇と内生活の程度とに於て甚しい懸隔が有るからで有ろう。

何れにしても各人の種々につけて異性の神祕を感得した場合、其神祕に打たれて渇仰し賞讃し崇敬して己れの内生活の少くも一部分を其神祕に熔かし込まれた時其處に初めて戀愛が成立つのでは有るまいか。神祕を蔽することを愈深ければ深い程、將又これを理解せら

れればせられる程異性の愛情と同情とをそゝり立てて戀を益深みに導いて行く。若も男の藏する神秘を追求すると同時に女も亦其男の藏する神秘を追求し、占領に酬いるに占領を以てした時、初めて眞に相思の一組が見出されるであろう、若も何れか一方に於て欠陷が有つたならば所謂片戀と云ふ悲慘な現象に陷つて行かねばならぬ。

私達の生殖慾は知らず不識らずの間に異性の審美的要素に向つて何かなしに神秘を感せしめてをる。異性の審美！その最も鑑別し易い外貌は直に最も低級な戀にも力有る目的物となつて苟めの垣間見に全身の血を踊らせて戀物語が太古の昔からいかに多いことで有ろう。窈窕たる風姿と眞珠の如き明眸と妍麗絹の如き肌と滴る様な黒髮と、之等は女性神秘を語る音なき言葉である。然しながら異性の審美はたゞ此外貌だけには止らない。否一歩一歩其内生活に踏み入るに從つて神秘は益神秘の強い力を以て迫つて來る。熱烈なる情愛や、犧牲的な親切や、高潔な思操や、淡泊な態度や、豪膽なる男意氣や之等はむしろ其感覺的憧憬を超越して幼い少女の胸にも幾何の憧憬を懷かせるで有ろうか。更に一歩趣味の境域觀照の世界に立ち入つたならば、若も共鳴する或琴線に觸れ合つたり、自分の人生觀の道程に同じ樣な叫聲をきき付けた時に如何に神秘を感ずるで有ろうか。

異性に對する審美的憧憬は生殖慾の發露で有るからいかに幼稚な戀にあつても多少の美

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と稱すべきものを對手の中から認めてゐない場合は無かろう。しかし其神秘とする處たる甲と乙とは必ずしも一致はしてゐない。最も普通的な外貌の美醜に於てさへ各見る處を異にしてをる。況や其内生活の曲折に至つては容易に其好惡を判斷し去ることは出來ない。殊に鑑賞眼が高くなればなる程優秀なものを多くは與へてない群集の中から己れの憧憬を滿足させて吳れる樣な對象を見付け出すことは至難中の至難事では有るまいか。

一体生殖の目的は肉的歡樂それだけで結構果されつつ有るにも係らず。猶こんな厄介な憧憬を欲求するのは何う云ふもので有ろうか。それは丁度生命を繋ぐだけには一瓢の飲、一簞の食、陋巷にゐて猶余り有るにも係らず、吾々の進化的本能は到底其内容を豊かにし形式を美にせなければ肯じない樣に、造化は其鑑賞眼によつて美の標準を高めて行つて、生きて行かねばならぬ此荒寥たる人生の野に孤獨の寂しさに泣く子等に、競爭の苦に疲れ果つべき憐れむべき子等に甘い歡樂の泉を汲ませ美しい花を與へて端なくも其かげに力强い伴侶を探させ樣とてではあるまいか。

抑高潮の靈的憧憬は遂に肉的神秘に赴かそとしてここに靈と肉との總を捧げて相誓ふ愛の同盟が結ばれるで有ろう。私は敢て同盟と呼ぶ。——相思の戀人がここに至るのは相互の憧憬が相匹敵するものと思はねばならぬから——そしてそれ等の男女はここに相寄り相

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

集つて所謂ホームを組織し樣とするのは社交的人類の當然の經過ではあるまいか。あれ程に感情の荒み果てたマースロワがネフリユードの提出した結婚問題に對してはネフリユードの意志の動機が德義上から割出した義務の觀念——贖罪の——に在ることを看破して敢て肯じなかつたにも係らずシベリアに護送せられたる途中や、國事犯人のシモンソンの高潔な變り者の品性に少なからず動かされて知らず識らずの中に純潔な憧憬を抱く樣になりシモンソンも亦マースロワが相當の敎育も有り且又人生の有ゆる惨を嘗めつくした尊むべき婦人で有ると評定するや彼の多年の持論で有つた獨身主義を翻して遂に彼女に敬慕を捧げる樣になつて、一旦濁流に高尙な戀なんてものを罵倒し盡し見くびり切つたマースロワの復活を促して結婚を約するに至つたではないか。確にあの二人は愛の同盟を結だのである。そしてホームの人となつて行つたのである。しかもそれ等の人々は片時も生活と云ふことを忘れてをるわけにはいかぬ。生きて行くべく彼等は互に働かねばならぬ。しかり彼等は新しい美しい意味を其戀人から與へられ、朝に綿々として流露する戀人の熱情に送られ、夕に喃々として囁く趣味深き芳語に理解と同情とを捧げられたならば人生の困苦何者ぞ。そして時に彼等は幽遠なる問題を解決し、時に激論を戰はす、亦よからずや。金殿玉何か有樓らん。

此異性の新団体生活は此に新なる經濟問題を惹起せずにはゐない加之必然の結果として、子供と云ふ愛の結晶体は自然、經濟の共通を促して來ると同時に女に此子供を產むと云ふ大事件が持上つたがために到底今迄の様に働くに專なることは出來なくなる。然も女が子を產で育てると云ふことは實に男が戰場に馳驅すると同じ様な荒仕事で又骨の折れる役柄で有る。其勞其功は必ずしも男子の生活的努力と輕輕すべきではなくて男は當然妻の分をも働くことを辭しないで有ろう。

斯く生理的二者の特長は愛の同盟を結だ男女に更に力の同盟を結ばせたならば双方の好都合でもあり猶且相互の結束を一層鞏固ならしめて他の一切の異性の中から特に此一組の異性だけが長い人生の行路に利害を共にする力強い伴侶となつて進化の道程に歡樂と努力との幸福なる足跡を印することが出來るだろう。

かかる經過を豫想して此二つの同盟を結ぶのを私は眞の結婚と呼び度い――たとへ憧憬から始まらなくても結婚から此二つの同盟の實を產み出したならばそれをも結婚だつたと呼び度い――

世上或は結婚を以て戀の墳墓だと呼ぶ者が有ろう。それも人との主觀次第で有ろうが若しも人生と云ふものを嚴肅に考へたならば徒に戀愛を弄ぶことが出來るたろうか。吾々は

生きて行かねばならぬ。しかも今日の生活の內容は昨日のものを以て甘ずることは出來ない。吾々は努力に次ぐに努力を以てしなければならない。何時までも浮浪の客たることは纏綿たる事情が許しては吳れぬ――例外は有るとして――

戀愛の裏面に此生活問題有るが爲めに吾々の生存的本能は吾々の祖先から長い間の經驗となつて現代の若人達が異性の神秘に血を沸かしてをる其のかげから無意識的に冷い大きい手を擴げて吾々を警戒してをるのである。――生活と云ふ以上は經濟も有ろう義理も有ろう――從つて異性の憧憬をそそるものは單に異性の審美的方面ばかりには止らない。即ち生きて行くのに重大な力――健康も能力も、權勢も金力も、苟も生活上に有利なすべての要素――と云ふものが戀愛に可なりな價値をつけてをる。

殊にそれが男よりも女の方に問題は大きい。前にも云つた樣に女には生理的不便が有つて自ら收入を得ることが出來難いから勢ひ生活の如何はつまり主として男の力次第に任せねばならぬ運命になつてをる。自然男の力と云ふものは女の憧憬の一つに加へられて其神秘に醉つてをる反面には多少生活上の力を値踏みしてをるに違ひない。悲しいと云へば悲しむことも出來よう。しかしながらかの純潔なる藝術家と雖もたゞ露を吸つて生きてをることは出來ないではないか………

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此生きて行かねばならぬ――殊に物質に於てもやはり貧弱な生活よりは豊富ならんを希ふ人情の――と云ふ事が經濟的不安を抱いてをる現代の若人の血をま醒す一番恐しい悲哀で有る。彼等は相互の力を認めないでは容易に同盟を結ぶまでにその熱度を高めることを肯じない。否むしろ不安が躊躇させるので有る。

仔細に觀れば何れ戀愛の成立には双方に價値――その神秘的要素で有ろうが力で有ろうが等しく憧憬の的となつて行くものはそれ等はすべて異性に對する價値で有る。――の打算が有る。たゞ其價値とする處に境遇と內生活の如何とによつて其程度が分れて來るだけである、バランス問題は近來多くの事件の根本になつて來てをるではないか。

從來の經驗から考へたならば例外は勿論有るとして先づ一般に男は女の外貌と其專制的欲望を滿足させる從順とが家政に熟練なのと相待つて主なる價値だと考へられてゐた。女性はよく弱者を庇つて呉れるに足る親切と力とを以て男の價値と觀じてゐた樣に思はれる。否より神秘なものを生きて行くために犧牲にしたので有る。この部類では男は女の主人で有り女は主人から養はれる恩に酬いて命惟れ從ふ底の公娼に近い考を以てをる社會で夫婦といふよりもむしろ主從の關係にした方が妥當かも知れぬ。

これが進で複雜な內生活を欲求する人々の間になつて來ると養つてやる屈從するではな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くて相互の間にもつと高尙な價値の滿足を以て純美な愛の同盟を結ぶことが出來る樣にな
る。そこには幸福な共鳴のほゝ笑が有る。そして理解と同情とが初めて人生の旅人達の間
に油然として湧いて來るで有ろう。女の卑屈と男の專制と。あゝそれは人類の幸福の敵で
は有るまいか。此敵を取除くものは唯一の價値の問題に戻つて來はすまいか。從來の女が
卑屈で有つたのは彼等には其卑屈を打破るべき彼等自身の價値を見出し得なかつたからで
は有るまいか。男の專制は彼等の內生活が余りに貧弱で有つて、より高尙な要求が無かつ
たからでは有るまいか。先づ養つて貰ふと云ふ謬見を改めねばならぬ。女の仕事には可な
りに男と生活同盟を結ぶだけの資格が有ることを自覺していゝではあるまいか。從來の女
は余りに謙遜に過ぎて自己の價値を見くびり過ぎてゐた。男をして其價値を認めしめねば
ならぬ。そしてもつと男の憧憬をそそるべき多くの價値を秘むるに至らねば倒底舊套を脫
することは出來まい。藏する處の價値愈醇美、愈神秘なるものになつて來ると共に其鑑賞
眼が高められて來ねば戀愛の內容は畢竟肉の賣買に止まらねばならぬ。鑑賞眼が高くなつ
て來ればかの不良男女の幼稚な不健全な色沙汰がなくなり、屈從的方便的の野卑な所謂結
婚が擯斥せられるで有ろう。

最も理想的の戀人となり得るものは其內生活その境遇に於ける最も高い有ゆる要素の權

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

化であつて此意味から戀の至極は神である。若も或程度の戀が成立つたとしても眞にその憧憬を滿足させるに十分でなかつたならばその戀は到底完全なものではない。從つて永續すべき筈がない。若い男女が神秘を追求するの余りに急にして到底眞の戀人を見出すまで待つてをることが出來ないただ戀を戀する心持ちでかりに比較的近い異性にその理想的の戀を擬して心を慰めてをる者が比々として多いのを悲しまねばならぬ。彼等は程なく其現實の欠陷に失望せなければならないで有ろう、其誇純の大にして內容の空虛なるに泣かねばならなくなつて來るであろう、かくて哀しい別離は彼等の間に冷然として迫つて來て更に彼等の止みがたき憧憬の眼を鋭くも他の異性の間に放ちつつ、丁度小鳥が枝から枝に移つて行く樣に神秘から神秘に涉り步くで有ろう。

戀と結婚とは別ものとして考へてをる論者は斯う云ふ類の人々では有るまいか。彼等は未だ高潮の戀に能れないので有る。たゞ會つては別れ熱しては冷えて行く淺い戀をしもをかしと思はゞそれもよからん。けれど忘れてならぬ他の事件は到底かくの如き戀に沒頭することは許さない。彼等は生きて行かねばならぬ。生きて行くべく若いタイムの過半を其準備に費さねばならぬ。親の手許を離れてやつと獨り立が出來る樣になつた時そろ／＼彼等は其孤寂から免れて安らかな日の照る暖い家に努力の疲れを慰めて與れる何者かゞ求め

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

度くなつて來る。然も狹隘なる彼等の周圍から銘々の抱いてゐる理想的憧憬の對象を見付け出すことは結局至難事と觀念して途に理想の堂奥を遙か遠方に眺めつゝも仲介者の勸むるが儘にともかくも我慢してホームの人となつて了ふ。そこには程なく係累を造上り子供と云ふ不可思議な二人の連鎖を繫げて了つてこゝに新なる希望に慰められつゝ泣き寢入となつて行く者が如何に多いことだろうか。それも餘儀ないことで有ろう。彼等は僥倖にして眞の同盟者を得られるで有らう。が彼等の多くはたゞ馴染むのである。そして幾分同化せられて行くに過ぎない。切めて因緣と諦め猶更に觀照の世界から見下せるならばまだしも幸である。若も或は職業に或は研究に將又藝術に沒頭するにあらずんば中年の凄じい寂寞から何うして免れることが出來よう。

たとへ又双互に殆ど理想に近い結婚と云ふ自覺があつたにせよ時々穿き違へ買損ひと云ふことが有る。表面投合してゐたにしても或タイムの間には未だ氣の附かなんだ眞相が解つて來て其處に根本的の撞着が起つて來ることは往々有ろう。又外から來る間斷なき刺戟は吾々の內生活に波動を起させ其趣味なり鑑賞なり思想なりにうねりを打つて時に吾々は接近し時に遠離するで有ろう。で戀人の內生活のある期間を縱斷して見たならばそこに相互の間にある滿足と欠陥とが或るリズムをあらはしてゐるに相違ない。即ちそこには喜悅

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

耽弱、不安、嫉妬、反感、怨恨、煩惱………と云つた愛の多面や人生觀やが絢はれ絢はれて此二人の間の戀の色調が丁度「唸り」の樣に響いて來るであろう。いかに好きな同志の感情でもそこに多少の相違の有るのは勿論で有つて見れば瞬間の戀の色調は決して永久不變な性質を保つて行くわけには行かぬ。戀は丁度渇者に水を與へる樣なもので一度與へをかうと云つて決してそれが最後ではない。憧憬から憧憬に辿り度がる不斷の追求者である。若しも永遠に不斷の戀人のをろうとならば永遠に憧憬の的となるべき神秘そのものでなければならぬ。欠陷の多い私達にそんなとが望み得るだらうか少くも其處に努力と云ふ不自然な力をかりて來て斷片的の感情をつなげて行くより外はない。或は執着と云ふ未練のほとぼりを以て來てともかくも欠陷を繰つて行かねばならぬ寂しさは戀の生活を續けて來た人の同じく經驗する處では有るまいか。一人で生れて來た孤獨の集である以上寸毫の隙なきを期することは不可能事で有ろう。幸にして吾々の眼はまだ〳〵他の多くの事件に興味を見出すことが出來る。又吾々は共鳴する藝術又は理解ある多くの人々との接觸によつて其寂しさを慰めて行くので有る。それでも苦痛だと有れば別れるより他はない。

　しかしながら吾々はいかなる場合にも忍耐と努力とを忘れてはならぬ。氣分のまゝに會し氣分のまゝに離散して行つたならば吾々の生活はむしろ遂に不安に陷らなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛は最も美しい偉大なる藝術ではないか。その藝術を完をすべく琢磨せねばならない。戀の藝術家は互に永久に修養を怠つてはならぬ。とにもあれ吾々は社會と云ふものの中で生きて行かねばならぬ。生きて行くべく出來るだけ努力と忍耐とを續けて行く反面にはたとへ戀愛の堂奧に到らずとも切めて自由に人間の神秘を稱嘆するを許せ。切めて苦鳴する人々の接觸によつて孤寂の哀愁を慰むる自由を得しめよ。あゝされど戀愛畢竟人生のために存するか。人生果して戀愛あつて存するか遂に惑なきを得ない。思ひ出づるまゝを埒もなくかき續けて了つた！

——(續　く)——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

世の婦人達に ――らいてう――

世の婦人達に私は今頃こんなことを云はねばならぬことを心から悲しく思ひます。

私はよくかういふ質問に出逢ふのでございます。殊に婦人の方々から多く伺ふのでございます。

「あなたや青鞜社の方々は獨身主義で入らつしやいますか。」と。

私はこの奇問に――さうです奇問です――に接した場合、いつも「いいえ」と御答へして參りました。また時には「また私はこれ迄一度として獨身主義を唱へたこともなければ、結婚主義も又良妻賢母主義とかいふものも主張した覺えはありません。まして青鞜社がさうだなどとは尚更云つたことはありません。」と附加へることもありました。すると、「さうですか、世間では獨身主義だなんて皆申しますから。」と云はれる丈でもうそれ以上何も御尋ねにならないから、私も立ち入つた御答へをする勇氣もなく引下るのが常でした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何故なら、此の質問によつて私はその婦人達の內生活が、又は私共現代の婦人の內生活に就いてその婦人達の考へてゐられることが、如何に單純で、如何に呑氣で、如何に太平なものだかに驚いて仕舞ふからでございます。恐らくその婦人達は「らいてうは婚期に達しながら、まだ誰れとも結婚しないから、とか世間があの女は獨身主義だといふからさうなのかも知れない。大方獨身主義なのだらう、一つほんとか嘘かきいて見やう。それに靑鞜社員にも獨身者が多いとかいふ噂もあるから」といつた程度の誠にぼかんとした曖昧な考へ以上何の問題も有つてゐないのでせう。その質問の出し方の無雜作なのと、その嘲弄的な口調によつてもこれ以上何の思慮も考察も經てゐないといふことが察せられます。さもなくばこんな愚問を私共に向つて發することは躊躇せられる筈だと思ひます。

何故世の多くの婦人達には女は一度は必ず結婚すべきものだといふことに、結婚が女の唯一の生きる道だといふことに、總ての女は良妻たり、賢母たるべきものだといふことに、これが女の生活の總てであるといふことにもつと根本的な疑問が起つて來ないのでせう。私は不思議に思ひます。長い過去の歷史や、多くの慣習や、目前の實利、便宜や、殊に男子の生活の利便の爲めに成立した在來の女德などから全然離れて、本來の女子たるものの眞の生活はいかなるものなるべきかに就いてもつと根本的な考察を試みやうともしないの

でせう。

私共は何も敢て總ての婦人に向つて獨身主義を主張するものではありません、――獨身主義だとか、良妻賢母主義だとかいふやうなそんな主義爭ひをするやうな、閑日月は有つて居りません。私共は今在來の婦人の生活を根底から疑つて居るのです。最早さういふ生活を續けることに堪へなくなつて居ります。婦人は果して結婚すべきものかといふことが已に、已に久しい疑問なのでございます。種族保存の必要の前に女の全生涯は犧牲にせらるべきものか、生殖事業を外にして女のなすべき事業はないであらうか、結婚は婦人にとつて唯一絕對の生活の門戶で、妻たり、母たることのみが婦人の天職の總てであらうか、私共はもうこんなことを信ずることは出來なくなつて居ります。結婚を外にしても婦人の生活の門戶は各人個々別々に限りなくあらねばならず、婦人の天職は良妻賢母を外にしても各人個々別々に無限にあらねばならぬのではないでせうか。そしてその撰擇の自由は各自の手に握られてゐるものではないのでせうか。そんなことは最早云ふ迄もないことでございませう。

それ故に私共は婦人の爲めに出來る丈高等の文化敎育を要求いたします。一個の人たる婦人として男子の生活から獨立してそれ自身意義ある女の生活の爲めに、高等な精神敎育

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を要求いたします。又一方には――自分はかの社會主義者等に多く見るやうな唯物的見地から、あらゆるものを解釋しやうとするものではありませんが――經濟上の獨立のない處から生ずる樣々な不安や、障害を取去るために、職業敎育をも要求いたします。婦人が結婚によらない時、いつも、すぐ起つてくるものは職業問題でございます。歐洲に於ける婦人運動はかのルーソーの自由平等の天賦人權説に刺戟せられ、個人主義的思想の發展に伴ふ婦人の自覺に基くことは勿論だが、かゝる精神界の事情以外に歐州社會に於ける經濟事情や、男女人口の不平均等の實際問題によつて餘議なく促かされた處も多かつたやうです。それらの婦人は自から結婚を疑ふのでも、厭ふのでもない。結婚の意志はあるにしても結婚の出來ない婦人で、彼等にとつて職業問題は最も急迫せる大問題なのでした。

幸か、不幸か私共現代の日本婦人はさういふ外的な要求からでなく――それもなくはないが――寧ろ内的な要求から、婦人も亦家庭といふ小天地より出でて一つの職業をとつて生活したいと希ふやうになつたのでございます。

歐米の女子敎育は益々職業敎育に傾くと聞きました。先頃或新聞に、今度歸朝された成瀬校長の談話として記された記事の中に大要こんなことが書いてありました。それは、向ふでは女子職業敎育が盛んだが、日本の女子敎育は皆良妻賢母主義をとつてゐるのはよろ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こばしいことだ。英國でも上流社會の子女は大抵家庭で教育してゐるといふやうなことがありました。又此頃日本では新しい女が騷がれてゐるやうだがあれはお轉婆でいけないといふやうなことも一寸見えた樣でした。信用を置くにも足らぬ新聞の記事などを捕へて、しかも校長に親しく接する機會を久しく失つてゐた私が、只あれ丈の記事に對して、とかくのことをいふのは甚だ輕卒の罵を免れない樣にも考へますが、私は、私の尊敬する女子教育家の言葉として誠に遺憾に堪へませんでした。時流を拔いた熱誠な校長も最早老い込まれたのではないか。老いてはああまでも俗論に媚びねばならぬのかとも悲しみました。校長の所謂人格教育から見て職業教育は成程理想的なものではないでせう。けれど今日の我國のあの憐れむべき良妻賢母主義の女子教育を何となさいますか。殊に私共――世人は新しい女と呼んでゐる――に對して、私共の內に起つて來た新生命に對し、其のやみがたき要求に對して、何等の理解もなく、又理解しやうとする氣もなく、無智な感情的な多數俗人の偏見と共に、新しく勃興せむとするものに何かとケチをつけたがる野次馬の卑しい言葉と共に「お轉婆」だとか、女子の美德を害するとかいつたやうな種類の無反省な言葉をもつて平氣に評し去らうとするのは、日本に於ける唯一の女子大學の校長としては、あまりに、不明な、あまりに無責任なことではないかとも思ひました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

多少なり個人として自覺した現代の婦人は今迄男子から、又社會から强制されてゐた服從、溫和、貞淑、忍耐、献身等の所謂女德なるものを、最早有難いものだとも何とも思へなくなつて居ります。何故なら私共は何故に斯くの如きことが婦人に向つて要求されたか、社會はそれを婦人の美德として承認するに至つたか、そして終にはそう云ふのか婦人の天性だと迄信せられるやうに立ち至つたかの原因、其のよつて來る源に泝つて考へて見たからです。そこに私共は何を見出したでせう。私はここに是等のことを委しくは述べますまい。けれど「男子の生活の爲め」以上に根據ある何ものも遂になささうです。要するに少しも根本的な價値のないことなのです。今私共に對し、何の理由もなき偏見から、因襲的な反感から理解なくして、只新しきものに對する世間の有象無象の雜言に眩惑されて無暗に反對される世の婦人達も今少し物事を根本的に考察されるやうになつたなら、思ひ半に過ぎることが必ず多からうと信じます。

かういふと、すぐ世間の婦人達は、新しい女は男に反抗することを目的にしてゐるとか、婦人の自覺といふことは何だか離婚するといふことのやうだとか勝手な早合點をさせることとでせう。さうです、私共は男に反抗もいたしませう。時に離婚することはあるかも知れません。けれど反抗が目的ではない。離婚が目的ではない。反抗するといふことがいい事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

であるか、惡いことであるか、離婚することがいい事か、惡いことか、そんなことは問ふにも足らぬほどに自分の生活そのものを、女の生活そのものを重じて居ります。今迄男子の私利、私慾や、目前の便宜のために婦人の生活が踏みにぢられてゐたのなら、それを取戻すために男子に對する反抗的態度を或時期に於てとるのは當然なことではないでせうか。今、妻と呼ばれてゐる幸福な婦人達も、もう少し眼蓋をこすつて見た時、自分の今迄の生活に滿足してゐられるでせうか。愛なくして結婚し、自己の生活の保證を得むが爲めに、終生一個の男子のために晝間は下婢として、その雜用に應じ、夜間は淫賣婦として侍することを肯じてゐる妻の數は今日どれ程あるか知れないでせう。甚しきは夫の過度な淫心をさへ柔順でなければならぬといふ處から受け容れて、多産の結果、衰へて仕舞ふ婦人もあるさうです。よし、又同棲後相互の愛情が生ずるにしてもそれは多くの場合、利害の打算と、便宜の結果に過ぎません。それらを超越した戀愛そのものではありますまい。

私共はたとへ結婚そのものに反對しないまでも、今日の結婚といふ觀念、並に現行の結婚制度には全然服することが出來ないのでございます。今日の社會制度では結婚といふことは一生涯に亘る權力服從の關係ではないでせうか。妻は未丁年者か、不具者と同樣に扱はれてはゐないでせうか、妻には財産の所有權もなければ其子に對する法律上の權利も有

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてゐないのではないでせうか。夫の姦通は罪なくして、妻の姦通は罪とせられてゐるのではないでせうか。私共はこんな無法な、不條理な制度に服して迄も結婚しやうとは思いません。妻とならうとは思ひません。

一たび目醒めたものはもう二度と眠ることは出來ない。私共は生きて居ります。目醒めて居ります。內なる生命は何處かしらに放散させねば生きてゐられません。どんな壓迫があらうとも新しき生命はその出口を見出して止みません。

私共は今、婦人の眞生活の門戶をたづねてゐます。何處に向つて自分のこの全精力を集注すべきかに迷つて居ます。新しい女は不眞面目だとか、眞面目だとかいふやうなそんな呑氣なことは最早私共の問題ではないのです。「眞面目な、精神的な、高い、尊い、眞の生活」などといふやうなそんな輪廓ばかり何百遍いかに聲を大きくして聞かされても、私共にとつては要するに何にもならないことなのです。私共は最早、小學校だけは終へました。他から說かれたり、敎へられたりした、輪廓ばかりのことに眩惑されて生きて行くことは出來なくなつて居ります。私共はその生活の內容を自から知らむことを求めて居ります。私共は內にはこんな不安を續けながら、外にはいはれもなき多くの迫害と鬪ひながら、婦人の眞生活のいかなるものなるかを根本的に、疑い、根本的に考察、研究しつゝあるので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ございます。

もし内なる精力が、一旦醒めた生命が滿足な出口を見出さなかつた時、これは却て自發の心身を害し、私共はかのヘッダと終りを共にせねばならぬかも知れません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この頃の感想――伊藤野枝――

○

「自己に忠實である事はいゝかもしれませんが、あんまり嵩じますと己惚れになりますからね」

私はある所謂利口な女と自負した女の人の、手紙の端に、かう云ふ言葉を發見した。私は正直にその時の心持ちを云へば實はその手紙を机の上にたゝきつけて大きな聲でその淺薄な言葉を笑つてやり度かつた。

「こんな女に吾々の云ふ事が解つてたまるものか」と實際さう思つた。

「自己に忠實だ」と云ふ事は「自己に寛大だ」と云ふ事ではない。「自己に寛大だ」と云ふのは「自己」そのものの本體を知らない、徒らに「自己」を愛する事のみを知つて「自己の生長」を計らないといふ事にあたる。從つて自己の增長を攻めないから己惚になる。

「自己に忠實だ」と云ふ事はそれとはまるで反對の道を行くものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二月號にも私は云つた。自己に忠實な者ほど自己に對して嚴酷で些の假借もないものである。「自己の成長」をいのる者ほど自己に對して眞面目なものはない。故に常に寸時も自己の内部から目を放す事をしない。だのにどうして、己にゆるみがあらう。而して又、絕えず自己の内部の看守を怠らぬ者には他人の事にまで立ち入る餘裕はない筈である。絕えず自己の欲するがまゝに動いてゐるのである。而してその間には一切他人の意志を交じへる事を好まない。そして、すべての人は一樣にこの道を歩くべきである。正しき自己の道、自己の生活である。故に己に寛大なるものの歩く道は眞の道でもなく眞の生活でもない。すべてこれ、虛僞でなくてはならない。自己の素直にして忠實なる看守たる苦痛に堪えずして自己を誤魔化して、自己の道でない道を歩いてゐる。而してその空虛の時は他人の内部にまで立ち入つて全然自己を捨てゝかゝつてゐる。で、一方でその缺陷だらけな自己を包む事に頻りに、腐心して何時も强がりやえらがりを云ひたがるのだ。

私たちはこれまで、それ等の人々によつて敎育されて來たのだ。本當でない道を歩く人が多數にあつた爲そしてその人たちが可なりな、立派さうな着物を着てゐた爲、その道がずつと平坦な歩き易い道であつた爲にだん／＼にすべての人が目を眩まされてその方へと進んで來た。長い年月の間には、本當の道を歩いて行く人は殆んどなくなつてしまつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そしてたまにその道を歩いて行かうと云ふ人があると皆して、虐待したり無理な(?)理屈を云つて引き戻したりするやうになつた。そして道德と云ふ色々な着物や法律といふ窮屈な帶が出來て皆それを着てそれをしめてゐなければならないやうになつた。そうして「何故道德を奉じなければならないか?」とか「何故法律を遵守しなければならないか?」とか云ふ事を考へてはいけない事になつた。そして少しでもさう云ふ立ち入つた理屈を考へたり云つたりすると人々の平和をかき亂すものだとか不德者とか云つて、その多くの人たちから退け者にされる。そして、本當の自分の道に入つて進まうとしても、力強い習俗の力に打ち勝つ事が出來なかつたり、多くの人の嘲り聲が聞こえて來たり、または多くの人からはなれた恐ろしい孤獨の不安や眞暗の未知の道に對する恐怖やで又、不平ながらも後戻りをして行く者や諦めて歸つて行く者が多い。然し若しも猶この苦痛困難を忍んで本當の道を歩いて行かうと云ふものがあれば社會と名づくる多くの人々の團體は全力を擧げてこれを呪ふのだ。それは一方から考へれば無意識ではあるが自己の立ち場の不安定に伴ふ恐怖の聲であると云つても差し支ない。又すべて考へる――思索と云ふ事を禁ぜられた、多數の者のその可否を考へる事が出來ずたゞ已に年久しくなれた古き物に對する單純な戀着と、その物の破壞を悲しむ聲と云つてもよい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

若し、世の中に、この單純な頭の者ばかりなら新らしい本當の道に彼れ等を導くのはさう大して、六ケ敷い事ではない。然し、世間には彼等以外になを囚はれたる、思索家とでも云ふべき古い道德、宗教、等を固守して、止まない所謂度し難い、理屈のみをならべて愚劣な社會を代表すると云つたやうな始末のわるい者がまだ多數にある。而して長い時間の差異によつて、すべての人は皆彼等によつてのみ動いてゐる。

今から新らしい本當の道を行かうといふ私の周圍のすべてはその人達である。そして私も昨日までも今日までもさう云ふ空氣の中に浸つてゐたのだ。だから強い心持で恐ろしい努力によりて、周圍のすべてと戰はうとする瞬間――戰つてゐる間も隙さへ生ずれば直ぐにふみしだいて了はうとする自分の手について習俗が頭をもたげて來るのだ。

古い道を歩いて行かうとする人とそれに滿足せずして眞の自己の道を開拓して行かうと云ふ人との間の衝突は必然の結果と云はなければならない。

眞の自己に生くる者には、自己の內的生活に於て毫も他人の內生活との交渉がない。從つて眞實な自己の生活が出來る。然し從來の道德には、殆んど內的生活といふものがない。生活と云へば唯だ一つの意味しか持つてゐなかつた。否內的生活は、在つたかもしれないが幼稚で淺薄であつて、外面的生活と混同してもあへて苦しくなかつた故なのかも知れな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。故に他人の内部にまで容易に侵し入る事が出來たので、あるまいか。

一體、人が生活して行く上で社會といふものが存在する以上外面的生活に於ては他人と係はりを持つといふ事は必要な事と云ふよりも寧ろ餘儀ない事かもしれないが、個人々々の内面的生活にまで立ち入ると云ふ事は不都合な事でありまた有り得べからざる事だと思ふ。然し今までの人達は平氣で他人の内生活に立ち入り又は、自己の内部に他人の容喙を許してゐる。全然自己をも他人をも無視したやり方だ。若し自己の内部への容喙を拒絶すれば一概に己惚れとけなして了ふ。若しも、自己の内部にまで干捗される事を厭ふて、しかも猶依然として、他人の内部に立て入る事を止めない者があればそれは正しく己惚の強い人であると云へるかもしれない。それは徒らに自己のみをかばふ人で本當の自己の價値を知らない人だから。

然し眞に自己を知る忠實なる人は、前にも云つた通りに、自己を尊重すると同時に他人にも同樣の尊敬を拂つてゐる。

「自己をかばふと云ふ事と「自己を尊重する」といふ事は決して一でない。こんな事は誰にも分る事だ。

私は何時も思ふ。若し世の中の人がすべて自分の先入主や打算的な位置、感情をはなれて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

公平に冷靜に同情を持つてすべての物に對する批判をするやうになつたら、どんなにすべての人の爲に幸福だらうと。つまり自分のやつた事を第三者の地位に依つて冷靜に思考批判する時と同樣の威を以つて他人のやる事を批判するのだ。一番手短かに云へば他人を量る寸尺と自分を量るのとを違へてはならない、おなじものであらねばならぬと云ふ事だ。

○

犧牲といふ言葉程賤しむべき言葉はない。親が子の犧牲になる、子が親の犧牲になる。友情の爲の犧牲、恩人への犧牲、これほど馬鹿々々しい事はない。自分に望みもなく仕事もなくどうなつてもいゝと云ふ者なら、構はないが希望もあり充分に信賴するに足る自己を持つた者が自己の爲めならまだいゝが他人の爲めに、下らない道德や習俗に迷はされてすべて投げ出すと云ふ事などは實に馬鹿な事だ。犧牲になる者もなす者も共に大なる自己に對する反逆者であり、他人に對する犯罪者である。例へそれが親であらうとも子であらうとも。——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□新刊紹介

新譯梅ごよみ

熊谷爲蝶氏譯
東雲堂發行

「梅暦」と云ふ書名は知つてゐても内容を知らない又一度も讀んだことのないと云ふのは如何にも物足りないと云ふところから、又一面には江戸の軟文學の一部分を未知の人に紹介する方便だと云つて譯者は、これの新譯を企だてたのださうでご座います。――私は大きなよろこびをもつてこの本を手に致しました。が――讀んでしまつて、がつかりして了ひました。春水がさぞ地下で泣いてゐるだらうと思ひます。その筋の忌避にふれる部分をのけてあるのもよろしうご座いますが、これぢや「新譯」と云ふより春水の梅暦をつくりかりて來て、くだらなくかきくづしたと云つた方がいゝ様に思ひます。とにかく、春水にあらはれた丹次郎も、仇吉も米八も、めちや／＼にされてゐます。――意地にはりつめた羽織藝者もまるで、まだなまりのぬけきらない、田舍出の女學生が墮落して宿場女郎になりさがつたような土臭い、たまらない、いやな女に思へますし、丹次郎も、そこらにぐづ／＼してゐる、胸の惡くなるような、只にやけた色魔とでも云いたい様になつて了つてゐるのです。こんなここで江戸の軟文學を紹介なんぞされちや迷惑千萬でご座います。

とびきりに解りのわるい古曲ものなら知らず、こうしたものを新譯なんぞするのは、よけいなことだと思います。

（歌津）

近代劇五曲

小山内薫氏譯
日本圖書株式會社

ハンネレの昇天（ハウプトマン）犠牲（ストリンドベルヒ）タンタジイルの死（マアテルリンク）犬（チエホフ）夜の宿（ゴルキイ）の五曲を集めたもので。たいがいは、自由劇場本郷座等で舞臺にかけて成功をしたものでご座います。どれも皆な大變面白いものだと存じます。

□寄贈雜誌

スバル。三田文學。六合雜誌。藝文。實業之世界。帝國文學。新潮。劇と詩。モザイク。中央公論。歌舞伎。詩歌。奇蹟。朱欒。新小說。白樺。早稻田文學。讀書の友。シバヰ。赤裸。建築と裝飾。現代の洋畫。ミズヘ。圖書評論。流星。人物。新女界。詩と散文。ホトトギス。アララギ。新人。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□本社の文藝研究會はいよ／＼本月七日の午後六時から内幸町二の議員倶樂部で開始することになりました。

□この運びになる迄には白雨を始め同人はどれ丈の困難を忍んだか、本社や、新しい女に對する世間の誤解や反感や、迫害にどれ丈戰はねばならなかつたか、皆さんのとても御想像にも及ばぬほどでございました。

□會場一つ借りるのも容易なことではありませんでした。毎日々々朝から晩まで教會、學校、其他會場をかすといふ處はどこでも大ていは交渉して見ました。そして到る處で拒絶されました。最初極つた靑年會館の方も方々から抗議を申込まれたといふので中途で斷つて來ました。其がために白雨は色々骨を折つて幾度足を運んだか知れません、けれども結局は「あなた方の眞面目なのも、あなた方の事業が有益なことだといふことも私共にはよく分つて居ます。又御熱心に對しては實際個人としては充分同情を持つて居りますけれど世間がうるさくて困りますから」といふ樣なつまらぬ事で何としても駄目でした。或教會等ではあなた方はお酒をあがつたり、お遊びになるさうだからといふのでした。それが多く婦人側から出る反對なのださうでした。それから又或處などはお貸しすることはしますが、待合などには使はないで下さいと云ひました。青鞜社の内容を一つ調べて見た上でといふやうな處もありました。こんな工合で殆ど御話にならないのです。世間の本社に對する誤解もこゝに至つてはあまりに馬鹿々々しくて最早辯解する氣にもなれませんでした。けれど世間といふものはこれほど物事の眞實をみてはくれないのでございます。來る日も來る日も會場を借りると云ふ一つの事の爲に朝から晩までかけ通しに歩き廻つて全身は綿のやうに疲れ、重い足を引きづり引つり歸つて來るは涙ぐんでこんな事を話しました。そうして斯う云ふ事の爲に他に何をする時も與へられずにとう／＼一ヶ月費して了ひましたと白雨はこぼしました。

□今更無責任な新聞記事や、そんな記事をすぐまにうけて騒ぎ立てる輕信な多くの人達を咎めてみても仕方がありませんが、いかに責任といふものを知らない新聞記者も自分達が面白半分に書いた記事がこれほど青鞜社を誤つて世間に紹介し、そのために、これほど青鞜社の事業の發展を妨げ、婦人の進歩發達の上に大きな打撃を與へてゐると氣付いたなら、今後は少しは自己の責任を思つて筆をとつてもらいたいと思ひます。

□私共はあれは新聞の記事だから嘘だと申します。けれど世間の人は新聞の記事だから眞實だと言つて居りま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

す。本社に就いて何も知らない人達は只新聞記者の手によつて勝手に造り上げられた青鞜社や、新しい女といふもの丈け知つて居ます。そしてそれを眞の青鞜社だと、又眞の新しい女だと思ひ込んで、疑ひもしないやうでございます。

□それ丈ならまだよろしい。けれど新聞記者にうまくさだまされてゐる多くの教育家や、宗教家や、父兄は只々青鞜社とか、新しい女とかいふものを危險視して居ます。若い婦人をあやまるものとして恐怖の念を抱いて居ります。そして出來る丈妨害をします。壓迫を加へます。學校は其生徒に青鞜社に近づくなと勸告いたします。父兄は自分の子女に新しい女の群に近づくなと干渉いたします。一旦入社された社員で學校や父兄の反對から、余議なく退社された方が何人あるか知れません。皆周圍の壓迫に堪へないで不本意乍ら退社されるのです。今回の研究會にも入會を希望してゐられる婦人は隨分澤山あります、けれど余程の勇氣ある人の外は周圍の人々を恐れて敢て入會することが出來ずにゐます。一旦入會された方で、學校の方が許さないからと云つて取消を申込まれた人もありました。

□私共は誠に殘念に思ひます。折角自から奮發して、勉強しやうとする多くの婦人の爲めに悲しみます。理解なき女學校や、教師や、父兄がどれ程婦人の進歩發達の邪魔をしてゐるかわかりません。それ程自分の生徒や、自分の子女の上が案じられるのなら、新聞記者や世間の噂などに滿足せず、青鞜社といふものは實際どんなものだかを一つ御自分で見に入らしつたらいいでせうと云ひたくなります。女子教育家や、父兄がまづ本社の研究會に御出席になることを私共は希望いたします。さうしたら多くのことが杞憂に過ぎなかつたことがお分りになりませう。

□私共は折角入會の希望をもちながら、周圍のために實行の出來ない婦人方に同情の涙をそゝいで居ります。そして教師や父兄に逆ふといふことは隨分苦しいことでせうけれど、眞に自分を思ひ、自分を育てて行かうとなさるのなら、今一歩御奮發なさることを御すゝめいたします。私共は早晩つまらぬ誤解はとけるものと信じて居りますから。いかに私共に對して世間は反抗を試みても、教育家や、宗教家や、父兄は出來る丈の壓迫を加へてみたからとて、彼等のすることにはもはや何の生命もありません。古きものはやがて亡ぶべきものであります。私共の内なる新生命は必ずいつかは勝利をうべきものなのですから。

□此際、社員の方は勿論、社員外の婦人も御奮發なさつて、早く御入會になることを希望いたします。社員の方でも矢張改めて入會を御申込みいたゞきたいと思ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ます。この方の事務は全く別になつて居りますから。尤も社員の方には入會金は頂きません。

□研究會の講義錄は五月から東雲堂書店で發行することになりました。地方社員の兼ねてからの御要求を漸く滿すことが出來るやうになつたのを私共は喜んで居ります。御希望の方はこの方も成るべく至急に書店宛御申込み下さい。地方社員が殘らず御入會になることを希望いたして居ります。

□婦人問題に關する書物をこれからだんだんと紹介して行きたいと思ひます。二月に一册位づゝ譯して、發行して行ければいゝがと目下計畫して居ります。今、エレン、ケイの戀愛と倫理を同人が譯して居ります。これは目下、掲載中の戀愛と結婚よりも後に出たものですつと短いものですが、譯者は大變面白いものだと申して居ります。遠からず皆さんに御目にかげることが出來るだらうと思ひます。

□「一年間」は頁數超過のため本月は休みました。

□大阪で青鞜社が近い内に講演會をやるといふ噂があるさうで、關西の方々から色々の御尋ねを受けましたがあれは間違ひでございます。御歡迎下さるといふやうな御志はありがたく頂戴いたしました。別に一々御返事いたしませんから、あしからず。實は最初あちらから申込みがあつたのですが社としては御斷りしたのでした。個人としてなら出かける方があるかも知れませんが。

□今度大阪の文士連が試演劇會といふものを起し、イエェツ作の何とかいふ一幕物をするのださうで、社員の加藤みどりさんも女王として大に活動されるとの話。

□青鞜第一卷第一號(創刊號)と第一卷第二號御持ちの方は御讓りいたゞきたいと思ひます。社の方にも一部もなくて困つて居りますから御願ひいたします。葉書で御通知下されば代金はすぐ御送りいたします。

□白樺主催第六回美術展覽會を虎の門議員俱樂部にて開催の由展覽品には、セザンヌ、ゴオホ、スチス、ロオトレク、オフマン、ドウニー、ムンヒ等の原作畫並に復製品も凡二百餘點なほロダン彫刻もありと。期日は四月十一日より同月二十日迄。

□青鞜社の事務所の表札はいつの間にやらなくなつて了つた。不思議なことだと同人等は首をひねつてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四月一日より

第廿五回新柄陳列會

寄切見切反物賣出し

新進畫伯作品展覽會

懸賞天然色(オートクローム)寫眞陳列

四月十五日より

第五回兒童博覽會

三越呉服店

四月七日午後六時より開始

會員募集

入會申込要至急

△會場。麴町區内幸町二丁目。議員倶樂部内

△時間。晝夜隔日（晝は午前中、夜は六時より）

△會費。一ヶ月金一圓（入會金一圓）

■哲學史、文明史、美術史、……阿部次郎氏

■社會學、美學、批評論、……生田長江氏

■刹那哲學……岩野泡鳴氏

■近代劇の研究……伊庭孝氏

■近代思想史……安倍能成氏

青鞜社文藝研究會

■藝術論（詩歌、美術、建築、音樂）……石井柏亭氏、高村光太郎氏

■婦人問題の變遷……島村抱月氏

■近代大陸文學の研究……馬場孤蝶氏

■外國語の研究（エマーソン……岩野泡鳴氏、ダンテ……阿部次郎氏、英文近代文學……（野上臼川氏編）……馬場孤蝶氏）

△會員。婦人なればどなたにても歡迎いたします。

△入會申込期。四月七日迄。

△入會の手續。住所姓名を明記し、入會金とともに事務所へ。

入會申込所　本郷區駒込蓬萊町萬年山内　青鞜社事務所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

原田琴子著
岡本一平氏裝畫

新刊

袖珍形洋裝美本
本文二百三十餘頁
新式ポイント活字
歌數四百餘首
定價金六十錢
郵稅金六錢

歌集 ふるへる花

内容

■紅玉
■ふるへる花
■雨のしづく

女流歌人として令名ある著者の艶麗なる歌四百餘首を收む。讀者は本書に依りてふるへる花の如く惱ましき女史の若き心緒に觸るゝを得んか。

發行所
岡村盛花堂
東京淺草下平右衛門町
電話下谷四二〇四番
振替東京一九〇六五番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らいてう　平塚明子著

圓窓より

四月十五日發賣
四六判四百頁函入
定價金九拾錢
送費八錢

著者が從來青鞜及各誌に執筆したる、「元始女性は太陽であつた」以下十數篇の評論感想及び數篇の隨筆小品を收む。本書出でゝ始めて著者の赤裸なる風貌に接し、また婦人問題に對する著者の氣鋭なる獅子吼を聞くを得べし。敢て婦人問題の云爲せらるゝ現時の社會に薦む。

東京市京橋區南傳馬町
三丁目十番地(京橋際)
東雲堂
電話京橋一六三九
振替東京五六一四一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社編　小笠原さだ裝幀（自書自刻）

青鞜小說集

四六判三百五十頁
頗美本
定價金八十錢
送費六錢

新刊發賣

執筆者

野上彌生　岩野清
小笠原さだ　岡田八千代
水野仙　神崎恒
小金井きみ　神近市
荒木郁　森しげ
尾島菊　林千歳
加藤籌　茅野雅
人見直　藤岡一枝
加藤綠　木內錠

小說十八篇

發行所　日本橋區檜物町九番地　振替貯金東京五六一四番　東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

THE PILGRIMAGE.

BY YONE NOGUCHI.

新英詩集

野口米次郎著

「東海より」以來過去十年間の英詩を聚む。二年前、此集英米詩壇に顯はるゝや好評嘖々、時の批評家著者を比するにバエレーン或は齒家ワヲヰスラーを以せり。ランソム氏が野口氏を評論せる一大論文(ゼ、フオートナイトリー、レヴユウ)は詩集の卷末に揭げらる。

新刊發賣
定價金壹圓
送費金六錢

◎今日より顧れば、詩のやうな時代は一度は、此のせゝこましい日本にもあつた。日本は當時に於て、十分の意義に於ての世界の日本では無かつたかも知れぬ。然れど世界は日本に對して、今日よりも平和であつた。「ヨネノグチ」は此の時代に、詩を胸に懷いて米國に渡つたのである。若し彼にして米國に渡ること、十年遲かつたならば、彼が胸中の詩は果して世に出づる機會を得たであらう乎。彼は此の點に於て、全く特殊の地位を占めて居る。◎西洋人は、野口の詩に於ける及び文に於ける想像力の豐富を見て、野口の日本人である點よりして、日本人の富贍なる想像を解して居るが、日本人は決して西洋人の輕易に想像するが如き、想像の富贍なる人民で無い。日本人の想像力は思ひ切つて貧弱である。日本に大なる文學無く、大なる哲學無く、大なる事業が無かつたのは、其の根本の理由は、實に此の想像力の貧弱に在るのだが、此の點に於ては野口は眞に一の天才である。彼れの詩は詩趣に漂うて居る。或は彼れの詩は想像の翼に依つて蝶の如く舞うて居る。彼は其の詩趣饒き文詩を以て、毎月或は毎週、英米の文壇を賑はして居るが、紙と木とのマッチの函のやうな日本の家に棲み、風呂敷を細工したるが如き日本の衣を着け、米を食ひ、茶を啜り、或は團扇を使ひ、或は火鉢を擁して日本語を話し、日本語を讀みながら、ペンを横に走らして出來上がつた原稿を、海は太平洋を超えて亞米利加に陸は西比利亞を經て英國に送る處、彼も亦日本には産れそこれた人間の一人である。
(東京魁新聞　若宮卯之助)

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四番　東雲堂

岡稻里氏著　橋口五葉氏裝幀

歌集

早春

木版刷表紙美本
四六版二百三十頁凾入
著者小肖挿入
定價金七十錢
送費金八錢

山美はしく水清き郷土にありて、日夕靜かなる自然と相對し、自然の氣息に觸れて歌ひ出でたるもの、これ玉の如く曇なき著者の歌也。若き春のおとづれ、豪宕なる夏の讃歌、逝く秋のほがらかなる足音、しろがねの壺の底にあるが如く降りつもる雪、これらみな著者の好んで歌べる風物也、都會の喧囂なる中に生るゝ頽廢の藝術と相俟つて、著者の抱ける藝術境の如き素純なるもの、又吾等に一味の歡喜を齎らすを信じて疑はず。敢て現今の歌壇に本集を薦む。

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四番　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

故 石川啄木著

啄木遺稿

〔四月中旬發行〕

四六判四百頁函入
著者肖像手蹟入
定價金九十錢
送費金八錢

年二十、すでに詩集「あこがれ」一卷を以てその鬼才を稱へられ、のち「一握の砂」「悲しき玩具」の二歌集を出して僅かにその片鱗を示し、二十七歳にして早くも世を去れる故人の變化多き生涯は知る人をして大なる暗示と、深き瞑想に入らしむ。然もその内生活に至りては未だこれを知るもの甚だ罕なり。今故人の遺稿より、「あこがれ」以後の詩作と感想とを整理して、これを公にす。蓋し、本書によりて始めて故人の思想生活及人生批評家としての抱負の一端に觸るゝを得んか。「人」としての啄木を知る好個の資料たるなり。

詩と感想

□呼子と口笛（詩八篇）
□泣くよりも（詩八篇）
□花散る日（詩十四篇）
□心の姿の研究（詩四篇）
□散文詩五篇
□わかば衣
□閑天地
□秋風記
□綱島梁川を弔ふ
□雪中行
□新時代の婦人
□雲間寸觀
□卓上一枝

□手を見つゝ
□百回通信
□食ふべき詩
□文學と政治
□きれ〴〵の感想
□評論
□性急な思想
□わが最近の興味
□硝子窓
□紙上の塵
□一利己主義者と友人との對話
□歌のいろ〳〵
□時代閉塞の現狀

發行所 振替東京五六一四 東京京橋區南傳馬町三丁目 東雲堂

參版發賣

抒情歌集

桐の花

北原白秋著及畫

歌八章四百餘首

銀笛哀慕調
初夏晩春
薄明の時
雨のあとさき
秋思五章
春を待つ間
白き露臺
哀傷篇

散文六篇

桐の花とカステラ
晝の思
白猫
植物園小品
感覺の小函
ふさぎの蟲

本文二度刷
挿畫十四葉
カット二十個

新形四六判の美本五百頁

定價壹圓

小包送料
金八錢

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目 (振替貯金東京五一六四番) 東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

石井柏亭氏著

歐洲美術遍路

上下二卷

■外遊二年間足跡殆ど歐洲各國に及びたる柏亭氏の紀行評論等の全部を收む

■四六版裝釘瀟洒

■泰西新古美術品の寫眞數十葉と著者自身が各地の寫生畫數十葉とを挿みて內容頗豐富

三月上旬上卷發刊

定價各卷貳圓

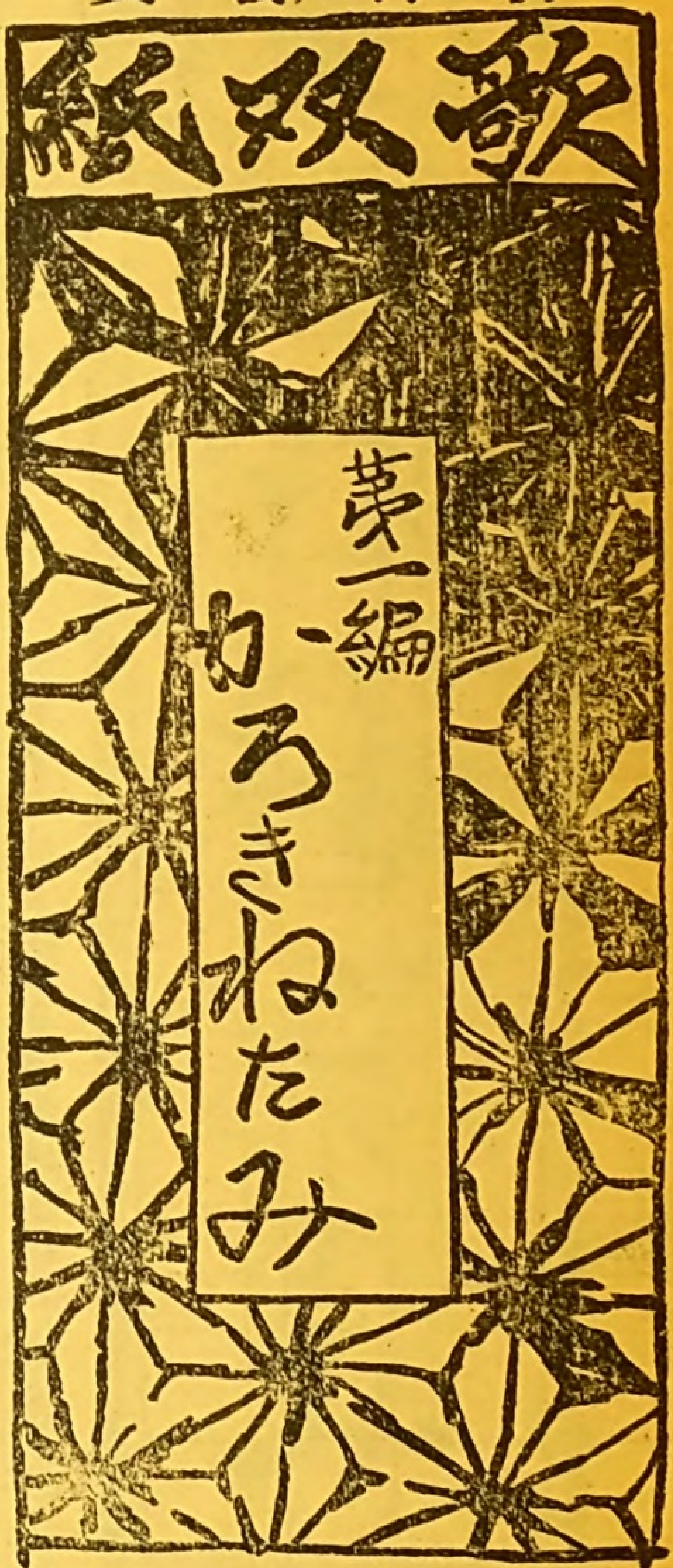
發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四　東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岡本かの子著

（青鞜叢書のうち）

新刊發賣



小形美本

全部日本紙

木版手刷

挿畫一葉

定價貳拾五錢

送費二錢

この歌双紙は年四回刊行する全部本版刷の、純日本式裝幀に成る歌集で、本篇は女史の新作七十首を收めてある。「女なればか」「かろきねたみ」「袷の襟」「暗の手ざわり」「舊作のうちより」「いばらの芽」「むなおしろい」「淡黃の糸」「ひるの湯の底」「水のこゝろ」の十章。かろくやさしく、なつかしき女史の氣持ちは、頃合ひの年數を經た櫻の板につゝましく彫られて、稍々にじみ勝に刷り出された薄墨の色に、その情緒の顫へを窺ふことが出來る。

挿畫 和田英作氏

裝幀及裏畫 岡本一平氏

彫刻者 吉田悅太郎氏

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番） 東雲堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

原稿用紙

■大判（藍色刷）二十字十行百枚綴

■大判（褐色の色紙へ墨刷）同　上

■小判（朱色刷）同　上

定價各一册十五錢　送費一册四錢

右三種紙質は最も精良なるものを撰み發賣いたし候間御愛用願上候

發賣所

東京市京橋區京橋際

東雲堂書店

電話京橋一六三九

振替東京五六一四

江戸狹斜文學の粹

爲永春水原作　久保田米齋氏畫

饗庭篁村翁序　熊谷爲蝶新譯

新譯 梅ごよみ

最新刊

四六判三百頁

江戸好製本

定價金五十錢

送費　六錢

附錄　爲永春水小傳附篇中の主要人物附羽織藝者の氣分

爲永春水が一代の名作徳川期狹斜文學の粹、「梅ごよみ」は、後代に及び風を紊るものとして不幸發賣頒布禁止の厄に逢ひ、永く地中のものとして終らんとす、著者これを嘆き、忌避に觸るゝ個所を削除して、巧みに人情の機微、情緒の纏綿を傳へんとす、日本民衆の習俗人情、江戸狹斜の空氣、これらを描ける軟文學の精粹、艶麗花の如き情史は茲に再び市上に現はれ出づ、遲日第一の讀物として之を江湖に奬む。

□よね八、仇吉、丹次郎の艶史新譯成る!!

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文學博士 三宅雪嶺先生著

▲丙午出版社創立七週年記念出版

『大正文庫第一編』

明治思想小史

三六版箱入
實價五十錢
郵税六錢

日本の大思想家三宅雪嶺先生今や思想の最高壇に立つて明治思想の變遷を語るまづ明治以前の思想界に筆を起して維新の思想に入り進んで最近四十五年間の政治經濟學術道德宗教教育社會等の各方面に亘り深刻の觀察を逞うして剴切の結論に到る即今大正維新の風雲に際會せる日本國民は明治年間國運の大發展が果して如何なる思想の産物なりしかを知悉して依つて以て第二の維新を大成せざるべからず果して然らば此書これ眞に大正國民必讀の書

三宅雪嶺先生著(好評十版)

增補 偉人の跡

定價一圓
郵税八錢

三宅雪嶺先生著(好評五版)

小泡十種

定價四十五錢
郵税八錢

東京小石川原町六
振替東京一五六八六番
丙午出版社

東京小石川區原町六
振替東京一三五三
鷄聲堂

畜生道

美裝全一册
三百二十頁

賣價金一圓
郵税金八錢

平出修氏著

◎公判に於て六錢窃盗犯人を裁判する某國法官の心理描寫を試み○計畫に於ては大逆事件辯護人たりし著者の感傷を披瀝す○畜生道は人間の深酷なる科學的解剖にして○未亡人には婦人問題の正面的解釋觀あり○長者町鹽ばな二黑の己の三篇は無學にして直情なる零丁の女を描いて著者一流の觀察あり

東京市銀座三丁目八番地
大阪市東區南久太郎町三丁目
京都市祇園南側萬壽小路

籾山書店

振替東京二四一七
振替大阪一三六八六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ZAMBOA

朱欒

四月號出來

一冊二十五錢

四月號內容

詩

少女の歌（リルケ）……茅野蕭々氏
予が鼻の歌……よさのひろし氏
その夜……長田秀雄氏
海濱獨唱……室生犀星氏
黄金の闇……吉川惣一郎氏

歌

山びとの春の歌……若山牧水氏

小說

巖上の處女（ダヌンチオ）……三上白夜氏
似顏繪……邦枝完二氏
假面……新城和一氏
鏡の上……西村陽吉氏

詩

野晒……北原白秋氏
われは凡てを行ひぬ……松村牧雄氏
印度古詩……増野三良氏
幽閉の城……栗田朱雀氏
緑色の太陽を希ふ歌……堀口大學氏
心臟……宇野喜代氏

歌

朱欒詠草……
落日哀歌……北原白秋氏

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替貯金東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第十二卷▲第六號

毎月一回
一日發行

美術新報

價五十錢
郵税二錢

美術工藝號　（四月一日發行）

要目

（時言）國民美術協會に對する希望…美術學校卒業生諸子に告ぐ
露國農民の工藝　塚本工學博士
明治時代の工藝美術に就て　前田健次郎
土人の工藝　正木直彦
イタリアン●マジョリカ　岩村透
南洋の工藝　朝倉文夫
希臘の陶器　南薫造
半農美術家の手紙　富本憲吉

畫繪

（口繪）デルータ市製楯形薄肉模樣墨汁器、一五二四年作（原色版）
（中繪）グッビオ市製金色光澤花瓶年代不詳（同）
（同上）絨氈（同）
（同上）ペルシャの瓦（同）
（同上）南洋の更紗（同）
（同上）サン●マルコ寺內部のモザイク（アートタイプ）
（同上）ブルナイ土人のキラッパ（網目版）

要目

「モザイク」に就て　和田英作
中尊寺の工藝美術　黒田鵬心
密陀繪に就て　齋藤謙
セーブルの陶器　沼田一雅
近東の紹氈　森田龜之輔
藤原式纒綢彩式手箱に就て　小場恒吉
蠟型鑄物の話　香取秀眞
早春の諸展覽會　雪堂生

發行所　東京市本郷區湯島切通坂町　畫報社　電話下谷二四八三番　振替東京一八〇一六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊美術雜誌

第十三號
四月號

現代の洋畫

本號より
改革刷新

■定價三十錢■送料壹錢五厘■

原色版挿畫

公園の一部（水彩畫）……ポール、アイザー
海草採り海女（テンペラ）……坂本繁次郎
女（油繪）……アマン、ジヤン
法隆寺の庭（パステル）……矢崎千代治
風景（水彩畫）……相田寅彦
靜物（木版自刻七度刷）……岡本歸一

記事

好き展覽會場の必要……社説
自由なる美術家の群……矢崎千代治
モーリス、ドニの壁畫……冠華
アマン、ジヤンの畫……木村莊八
アマン、ジヤン氏の作品……藤島武二
アトリエ、ジユリアンとアトリエ、コラン……齋藤與里
光風會雜印象……河野桐谷
同　合評……諸氏
フユウザン會概評……S、KとH、B
其他（二三未定）……
美術家とは如何なるものか……石川欽一郎

刷込寫眞版

光風會展覽會出品畫九點（中澤弘光、小島寅太郎、太田三郎、南薫造、正宗得三郎、有島生馬、津田青楓、アマン、ジヤン、杉浦非水氏等）フユウザン會展覽會出品畫五點（岸田劉生、高村光太郎、齋藤與里、木村莊八、小林徳三郎氏等）其他モーリス、ドニの壁畫三石井柏亭氏素描二、ミレー木炭畫一、エヂプトのミイラ等の寫眞版を挿入すべし。

見本特價

一部十五錢

本誌の見本入用の士は申込まれたし舊刊の中一部を特價を以て半額にて頒ちます
郵券の代用は一割増しにて二錢一錢半切手に限ります

發行所
日本洋畫協會
東京市牛込區水道町五三
振替東京四三七三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

詩

□眠れる女（譯詩）……厨川白村
□窓（歌）……尾上柴舟
□夜の風（詩）……長田秀雄
□死んだ心の歌（歌）……若山牧水
□不平なく（歌）……土岐哀果
□扉の蔭（詩）……服部嘉香
□よるよるは（詩）……きしのあかしや

■航海の歌（ボードレール）……相馬御風譯
■戯曲 アラディンとパロミデス（メエテルリンク）……野上臼川譯
■雪景（詩）……蒲原有明
■戯曲 亡靈（イプセン）……高橋泰譯
■碇泊（ハイネマン）……林久男譯

歌

□眠れる嬰兒（詩）……加藤介春
□聲（詩）……山村暮鳥
□わたしの手（譯詩）……小林愛雄
□未來の悩み（散文詩）……白鳥省吾
□春夜通信（感想）……山村暮鳥
□青木の陰より（感想）……前田夕暮
□砂丘（歌）……前田夕暮

短歌

熊谷武雄　荻原楓花　寺井義　山田邦子　奥村博　古木青葉　佐藤嘲花　小野深雪　瀧澤謙　楠田敏郎

短歌

新妻莞　廣田樂　尾山篤二郎　金子不泣　矢代東村　細谷明　田村飛鳥　狹山信乃　前田夕暮

特別號　四月一日發行
特價四十錢　送費三錢

社友募集

白日社清規書復葉往にて申込まれたし。

發行所　東京市外西大久保　白日社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心の花

第十七年　**四月號**　第四號

藤原定家と園藝趣味	坂本廣太郎
戸田茂睡翁壽藏碑發見始末	澁井寒泉
歌集「新月」を讀む	川田順
影	佐々木信綱
いたづら心	浪華の人
獨語	小花清泉
西片町より	佐々木雪子
NEVER MORE	久保正夫
團重左	草野柴二
霖雨	紅雪生
短歌	桑谷みか子
短歌	井本きぬ子
短歌	本間英子
短歌	齋川嘉女子
極地の夜	角鷗東
工人の生活	武井大助
東の間	小林直一

定價一部金二十錢・半年一圓・一ヶ年二圓

東京日本橋區本石町一ノ一　**竹柏會出版部**

電話本局五一七〇番　振替東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四月一日發行

アララギ

定價 廿錢

第六卷 四月號 第四號

○植物園の雀と市街の雀（對話）……河西省吾
○長詩……木下杢太郎
○手帳から……茂吉
○あそび……千樫
○三月の歌壇……千樫

□イェツの批評的研究……山宮允
□後印象派（ハインド）……橋田濤聲譯
□歌集「桐の花」を評す……木下杢太郎
□「桐の花」合評……憲吉、千樫
□記紀短歌小解……古泉千樫
□伯林より……石原純
□俳句と叫び……伊藤左千夫

短歌

左千夫　中村憲吉　柿乃村人　茂吉
土田耕平　松島梧風　松井清市　古泉千樫

定價一部貳拾錢　○　半年壹圓拾錢　○　一年貳圓廿錢

投稿は東京青山南町五丁目十一齋藤茂吉宛
注文は東京本所緑町三丁目三十古泉幾太郎宛

東京根岸短歌會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊

藝術

雜誌

創刊四月號要目

▼露西亞の近代繪畫を論ず（挿畫二葉）……石井柏亭

▼瓶の把に就て（ゲオルヒ・ジンメル）……木下杢太郎譯

▼感想……生田長江

▼街路動勢論（エミイル・マアニユ）……高村光太郎譯

▼展覽會批評（挿畫二葉）……木下杢太郎　石井柏亭　荻原直正

▽光風會▽フユウザン會▽小藝術品▽兒玉果亭▽其他

▼江戸時代の「門」の研究（挿畫二葉）……藝術社同人

▼三熊思孝と「近世畸人傳」の挿畫（挿畫二葉）……石井柏亭

▼後期印象派の運動……レーモンド・グレー

▼ベンベヌート・チェリーニ自傳（挿畫一葉）……荻原直正譯

▼評論の評論◉海外論壇……

定價 一部卅錢 郵税二錢 六部壹圓七拾錢

藝術社

東京小石川區白山御殿町一一三

奇蹟

第二卷
第四號

定價一部
貳拾五錢

四月號

■メケ鳥（小說）……葛西善藏
■旅立ちの日（小說）……光用穆
■ワグナーの墮落（評論）……秋野優
■De Profundis（詩）……メレヂユコウスキイ 松永秋雄譯
■あけぼの（小說）……谷崎精二
■かくれんぼ（小說）……山川亮
■「女」三篇（小說）……小口みち子
■オーギユスト・ルノアー（評傳）……眞田久吉譯
■「クローディアスの日記」の事で……志賀直哉
■露西亞だより……A、O生
■小說月評……同人
■表紙畫、扉繪……小林德三郎
■裏繪……川上邦世

■シエンキエヰツチ作■松本雲舟譯

復活の武士 上卷

表裝優美箱入
定價金九十五錢
小包料金八錢

■歷史小說家として古今獨歩の稱ある著者の代表的傑作也

發行所 東京神田佐久間町四ノ二三 振替東京一二九五三番 電話下谷三四一九番 植竹書院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

演劇雜誌

シバヰ

四月號

每月一回 一日發行

定價 金三拾錢

□つくしの空（戯曲）……長谷川時雨
□ミユンヘンの人形芝居……島村民藏
□オスカア、ザウエル論……秦豐吉
□ヴエニス雜話……森ほのほ
□劇壇斷片語……本間久雅
□菊五郎の踊……芹影
□市村座饒舌記……下町二人娘
□歌六の鎌腹……吉村繁俊
□プリマ、ドンナ……クツネツオーワ
□さくら畑（第二幕）……中谷德太郎

挿畫
人形芝居の舞臺面（二種）
新風女流劇術家（ジヨオルヂエト、ルブラン）
『さくら畑』のシヤルロツタ

東京市京橋區新佃西町三ノ五
シバヰ發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

水彩畫を描く人は勿論愛好せらる、諸士は座右に本書を缺く可らず

月刊美術雜誌

みづゑ

四月三日發兌
第九十八
送料共 金廿五錢

（石井柏亭氏西遊記念號）

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫研究專門雜誌なり

森鷗外氏年譜、赤城泰舒氏裝釘、箱入美本

賜天覽

大下藤次郎遺作集

原色版、コロタイプ版、五十葉、定價一圓五十錢

本邦水彩畫界三大家の一人大下藤次郎氏の遺作中優秀なるものを集めたり 巻末に各繪畫につき精細なる説明を附したれば絶好なる記念品たるのみならず缺くべからざる參考品たりと信ず

特價一圓十錢（送料共）但し直接本會へ申込みの方に限る

發行所 東京小石川關口駒井町三 振替口座東京六九六三番 春鳥會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第四卷
第四號

俳味

毎月一回
一日發行

四月號要目

馬・傳……(卷頭語)
無線語……沼波瓊音
小泉八雲の手紙……川島風骨
徒然草を讀む……長尾素枝
私と俳句……都田蠻六
蕪村と漢學(其十二)……久保天隨
私解芭蕉の發句(十八)……沼波瓊音
俳壇の後繼者……默徘徊
本能の左右と小主觀(桃青と一茶)……無木秋人
一茶句集は吾人の經典也(仝上)……後上楚子
俳諧ひらことば……麻衣生
義仲寺の記……柴田春郊
五本松……三宅春甫
生ける死骸……若月紫蘭
繪本小倉百句……(五代目市川團十郎筆)
俳譯百人一首……(諸家)
俳句。地方俳壇。俳交欄。……

口繪

三園飴賣(文政年間)……椿年筆
眼下の小石川(裏繪)……瓊音戲書

定價			
一部廿錢 郵稅一錢	三ヶ月稅共 五十五錢	半年分稅共 金壹圓	一年分稅共 金貳圓

發行所 東京本郷西片町十番地 振替東京三四三四番 俳味社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第五年 第四卷

スバル

郵税二錢 價三十錢

第四號要目

心づくし（小說） 水上瀧太郎
死の勝利（小說） 石川戲庵
狸（小說） 北尾夕街
馬丁（小說） 鷗外譯
春は逝く（戲曲） 岡田八千代
一つの甕（詩） 佐々木好母
詩二章 竹友藻風
悲しみの王（詩） 出野青煙
椋鳥通信 無名氏
伯林劇信 萬里生

東京神田區北神保町二 昴發行所 電話本局四二六四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■モザイク■

四月發行貳拾號內容

洋妾（小說・七十頁）	水島爾保布
毒草（小說）	小川未明
クウプリンの泥沼（小說）	昇曙夢
情死（小說）	清見陸郎
ネオ・クラシシズム（評論）	太田善男
死んでゆく地（小說・バサン）	藤井伯民譯
卓上より（評論）	モザイク同人
旅繪師の日記（紀行）	水島爾保布

壹册郵税共金參拾錢・六册壹圓七拾錢

東京市下谷區　モザイク社　中根岸町六九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回

詩と劇

一日發行

陽春號

許されたるゴルキイ（評論）　昇曙夢
廣き國（飜譯）　楠山正雄
狂女（戯曲）　秋田雨雀
歐洲演劇革新の第一聲（評論）　島村民藏
後期印象派（飜譯）　木村莊八
うなされ（小説）　吉村繁俊
殘虐（小説）　谷崎精二

詩と歌

情死前　人見東明
山の春日　若山牧水
衆愚の中に　土岐哀果
月の出るまで　福田夕咲
止れる時計　加藤介春
病める者の幸　西宮藤朝
寵人の紅　尾竹紅吉

戯曲の新生命（評論）　中村吉藏
春の日（小説）　中村星湖
屏に凭りて（隨筆）　清浦青鳥
逝ける劇場音樂隊（評論）　米川正夫
ストリンドベルヒの作と評（評論）　市川又彦
ホフマンスタール論（飜譯）　仲木貞一
別るゝ日（小説）　右田青歌

本誌は文學美術及び演劇の三味一體となれる清新なる純文藝雜誌にして生氣常に横溢す

第四年第四號

四月特別號

特價金卅五錢

插畫數種と舞臺面のデザイン及び歐洲劇壇の舞臺面とその解說は本誌の一特色なり

發行所　東京市小石川區雜司谷町百十四　詩と劇社

新文林

四月一日發行　（四月號）　一部拾錢 郵税壹錢

▲直覺的問答……長谷川天溪

▼深夜（詩）……Ｙ生

▲ファン、ゴオホの手紙（三）……高村光太郎譯

▼この頃は私は……山田邦子

▲蜂と人……岩野泡鳴

▼汚き日（詩）……水野葉舟

●懸賞文

●小説（葉舟選）　●詩（白楊選）　●短歌（空穗選）

●俳句（鳴雪選）　●短文（晁選）　●普通文（葉舟選）

▲小盃（小説）……上司小劍

▼皮肉屋と云事は卑怯者と同じだ……高村光太郎

▲根の尖端（小品）……水野葉舟

▼三月文壇の消息……△△生

▲現在（詩）……今井白楊

▼卓上雜感……棒下生

東京神田今川小路二丁目

振替東京二〇四三一　電話本局四九六六　忠誠堂發行　賣捌所 全國各地書籍店

第四卷　第四號

白樺

春期特別號

本號特價六十錢
四月一日發行

定價三十錢　送料一錢五厘　半年前金一圓七十錢　一年三圓三十錢

目次

▲ライン河に沿ひて（小說）　有島生馬
▲二つの力（感想）　長與善郎
▲或日の一休和尚（脚本）　武者小路實篤
▲ホームシック（小說）　津田青楓
▲譯詩三章（詩）　與謝野寬
▲雜感　武者小路實篤
▲葡萄の頌（小說）　正親町公和
▲短歌　木下利玄
▲君と私と（小說）　里見弴
▲三井甲之君に　無車
▲白樺第六回美術展覽會
▲編輯室　同人

挿畫

▲セザンヌ夫人　セザンヌ夫人（第六回展覽會出品の內）
▲偶像　ゴーガン　同
▲風景　ゴーホ　同
▲素畫　マチス　同
▲旅人　フリーツ　同
▲化粧　ロートレク　同
▲比喩　ルドン　同
▲月光　ムンク　同

發行所　東京麴町二丁目二番地　振替三〇九一四番　電話番町四二五八番　洛陽堂

毎月一回一日發行
一冊 金貳拾五錢
郵稅 一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

百五十四號（四月一日發行）

六冊前金郵稅共
金一圓五十錢
十二冊 金二圓八十錢

戲曲「ギヨッツ」（ギヨテオ）……森鷗外譯
痼癖玉……佐藤紅綠
默阿彌著作解題……河竹繁俊
劇術新論……林鷗南
歌舞伎座を見て……片影女
帝國劇場を見し日……濱ちどり
本郷座の初日……ほのほ生
「室町御所」の作意……岡本綺堂
「戀の火起請」脚色話……井川蕉雨
「秋色櫻」について……岡村紅柿
演劇と劇場……島村抱月
「一つ家」の型……鈴木春浦
「水のおもて」を讀んで……川村花菱
長唄の研究……大塚梧桐
尾上多見之助と語る……田所半紫痴
戻橋の大薩摩に就て……杵屋六左衛門
再び「無名の劇団」に就て……松居松葉
フイルム化せる「巖窟王」……吉山旭光
近松座と中座と攝津大椽……河瀨喜代美
大小劇場（青々園、春浦）
脚本「扉の前」……故服部塔歌

東京本郷切通坂町書報社內
歌舞伎發行所
電話下谷二四八三番
振替口座一八一〇六番

青鞜

昭和44年4月15日発行　【第4回配本】

青鞜第3巻　4月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 3,800円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.3
no. 4

University of Colorado at Boulder
U18304 6746288

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢（郵稅壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■社費は一ヶ月金參拾錢にして毎月十五日迄に納附せられたし。取纏め納付せらるゝを便宜とす。
■廣告料（一頁）拾五圓　半頁（八圓）
■振替貯金口座は（東京五六一四東雲堂）に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る（但し一割増のこと）。
■編輯事務、寄贈圖書雜誌、及研究會に關する事務は萬年山内青鞜社へ。
■雜誌購讀、社費拂込、廣告申込、交換廣告其他販賣に關する一切の事務は東雲堂へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正二年三月二十八日印刷納本
大正二年四月一日發行

禁轉載

東京市本鄉區駒込蓬萊町萬年山内
青鞜社内
編輯兼發行人　中野初
東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷人　佐藤保太郎
東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷所　文祥堂

編輯所　東京本鄉區駒込蓬萊町萬年山内　青鞜社

發賣所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　東雲堂書店
電話京橋一六三九番
振替東京五六一四番

本號特價金三拾錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER